



# 施設アセスメントシート

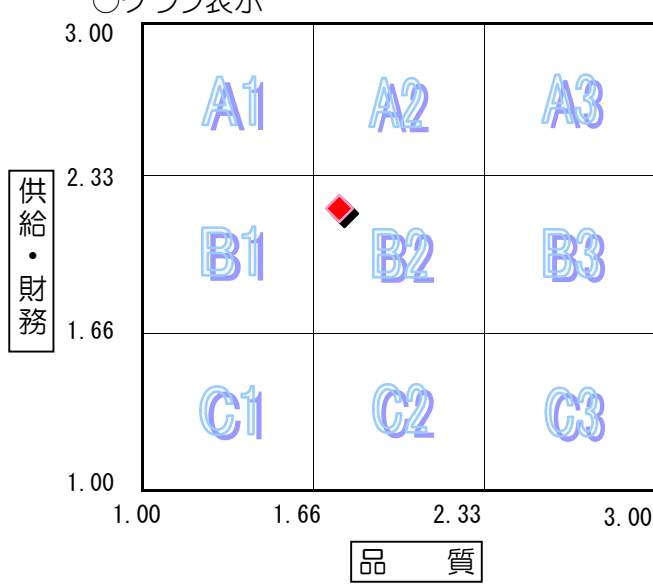
基本情報	施設番号	265113011001	施設名称	畜産技術研究所		外部 
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	畜産技術研究所		
	用途	研究施設		設置年	1992	
	施設目的	県施策(畜産物の安定供給、生産基盤・経営体質の強化)の高度試験研究				内部 
	敷地面積	1,218,368.92 m <sup>2</sup>	延床面積	7,077.56 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	276,048 千円	建物台帳価格	1,023,330 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅:富士宮駅から バス50分 徒歩15分				

◆第1段階 B2    品質 1.82点    供給・財務 2.20点

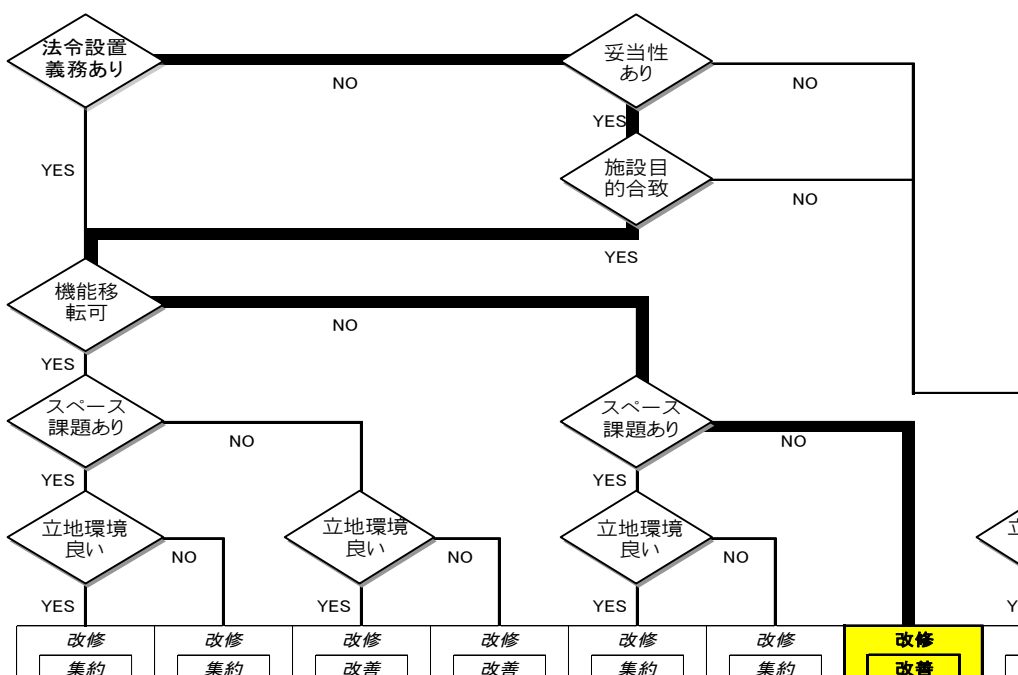
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	24.3年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1991.7年 1.00点
		外壁	1991.7年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	- -
		受変電設備	- -
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 1.04点
品質	エネルギー/面積	0.54GJ (55.28)	3.00点
供給	面積/人数	46.20m <sup>2</sup> (46.11)	3.00点
財務	コスト/人	535,910円 (51.22)	2.00点
財務	コスト/面積	3,029円 (44.30)	3.00点
財務	収入/人	157円 (40.86)	1.00点
財務	支出/人	1,742円 (51.12)	2.00点

○グラフ表示



◆第2段階 施設面: 改修    運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	2,222	百万円	維持管理費 B(※2)	126	百万円
	使用年数 A(※1)	24.3	年	小計	2,348	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	408	百万円	維持管理費 (※3)	52	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	460	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	408	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	3,083	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	5,037	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	行政目的(研究所)として常時使用
これまでの保全の状況	必要に応じて修繕実施
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	現行の管理方法で差し支えないが、評価結果も概ね妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価



施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	265113013001	施設名称	畜産技術研究所		外部 
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	畜産技術研究所		
	用途	職員住宅	設置年	1992		
	施設目的	畜産技術研究所その他県職員の住居				内部 
	敷地面積	998.00 m <sup>2</sup>	延床面積	357.64 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	6,131 千円	建物台帳価格	77,479 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅:富士宮駅から バス50分 徒歩15分				

◆ 第1段階 **C2**    品質 1.79点    供給・財務 1.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	24.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1992.0年 1.00点
		外壁	1992.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	-
		受変電設備	-
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 -
品質	エネルギー/面積	-	-
供給	面積/人数	-	-
供給	入居率・入所率	28.6%	1.00点
財務	コスト/面積	-	-

○グラフ表示

◆ 第2段階 **施設面: 改修**    **運用面: 集約**

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良	YES

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	142	百万円	維持管理費 B(※2)	0	百万円
	使用年数 A(※1)	24.0	年	小計	142	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	11	百万円	維持管理費 (※3)	0	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	11	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	11	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	71	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	121	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	行政目的(職員住宅)として常時使用
これまでの保全の状況	必要に応じて修繕実施
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	評価結果は概ね妥当であるが、「集約」の実現性は低い
上を裏付ける根拠(ある場合)	集約にマッチングする施設がない

#### □総合評価



施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足 施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、スペースの活用に課題があるため、他の機能を取り込む等、集約を図る必要がある施設。



# 施設アセスメントシート

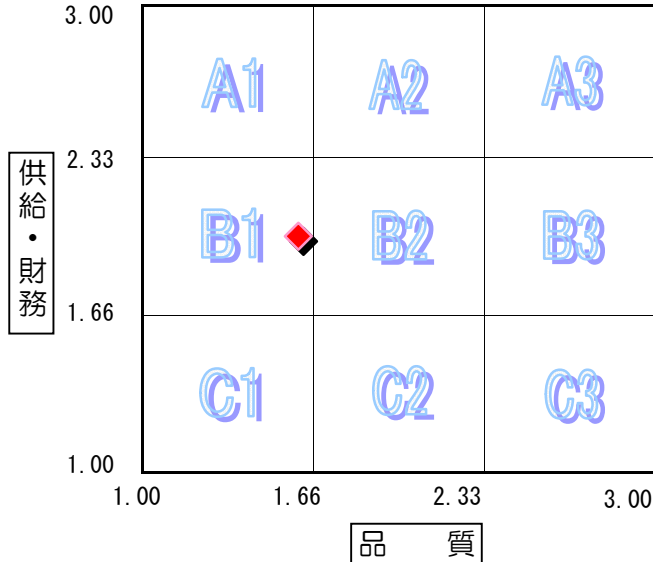
基本情報	施設番号	265115011001	施設名称	中小家畜研究センター	外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	畜産技術研究所中小家畜研究セン	
	用途	研究施設	設置年	1987	
	施設目的	豚、鶏の育種改良及び飼養管理技術の研究など			
	敷地面積	90,149.90 m <sup>2</sup>	延床面積	7,817.52 m <sup>2</sup>	内部
	土地台帳価格	1,392,558 千円	建物台帳価格	266,839 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅: 菊川駅から 徒歩30分 タクシー10分			

◆ 第1段階 **B1**    品質 1.64点    供給・財務 2.00点

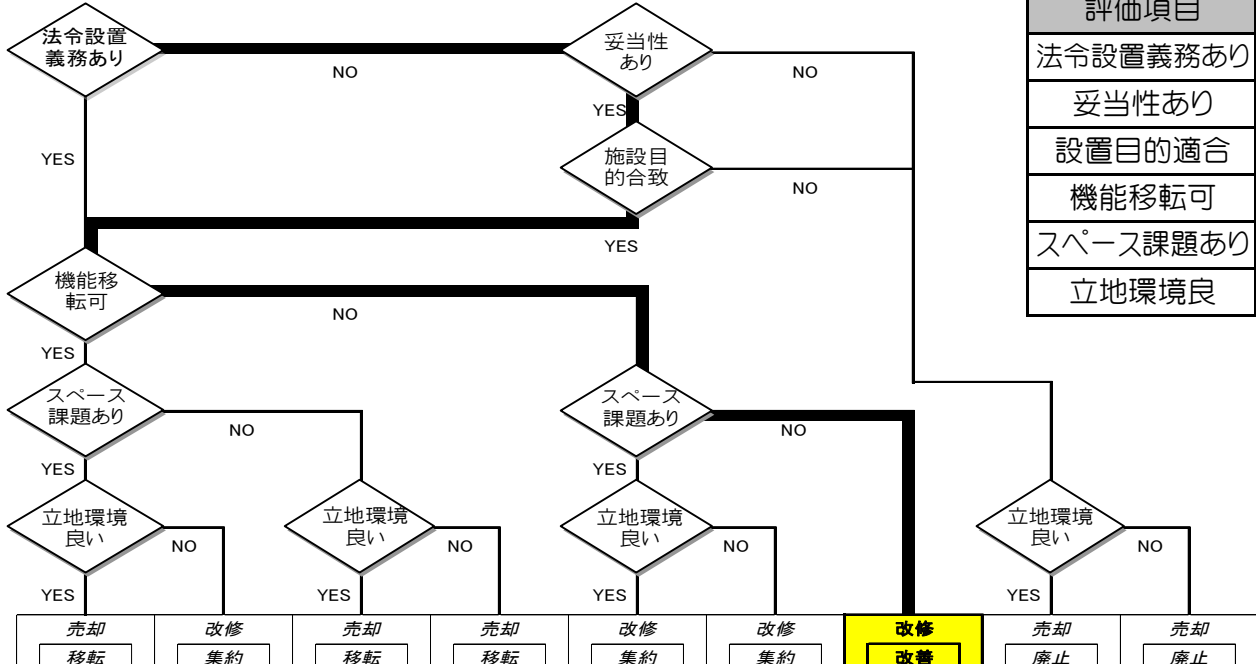
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	27.7年	2.08点
品質	建築劣化度	屋上防水	1988.3年 1.08点
		外壁	1988.3年 1.08点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1988.5年 1.08点
		受変電設備	1988.5年 1.08点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 0.58点
品質	エネルギー/面積	0.75GJ (53.17)	2.00点
供給	面積/人数	61.30m <sup>2</sup> (48.38)	3.00点
財務	コスト/人	819,582円 (56.39)	1.00点
財務	コスト/面積	3,145円 (44.46)	3.00点
財務	収入/人	118円 (39.49)	1.00点
財務	支出/人	2,501円 (48.41)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 **施設面: 改修**    **運用面: 改善**



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

◆第3段階

コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	1,306	百万円	維持管理費 B(※2)	115	百万円
	使用年数 A(※1)	27.7	年	小計	1,421	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	451	百万円	維持管理費 (※3)	41	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	492	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	451	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	3,406	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	5,563	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	豚、鶏の飼育及び研究のため、平日、休日問わず利用されている。
これまでの保全の状況	豚舎床、受変電設備、空調機関係が劣化診断にてC判定とされており、修繕や更新が推奨されている。また、その他殆どの施設で劣化が見られ、対策が必要となっている。
その他	

財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も県内の畜産業振興及び普及等のために、継続していく必要がある。その一方、施設については築30年を迎え老朽化が激しい。よって、第2段階の結果のとおり、改善・改修が妥当である。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

総合評価



施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

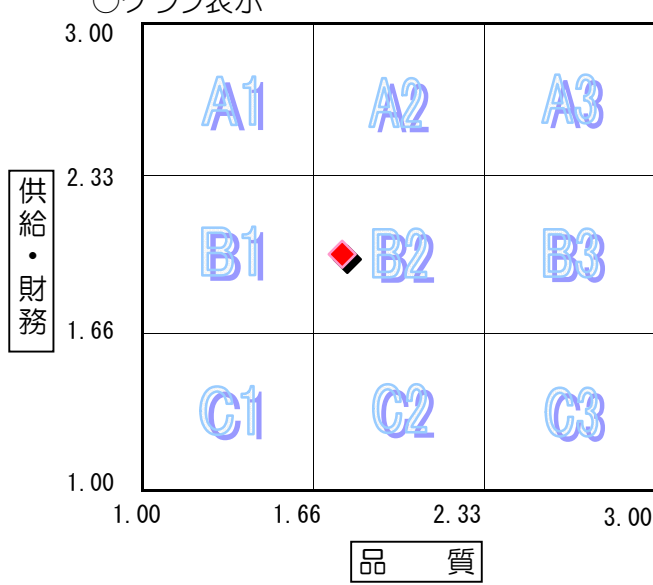
基本情報	施設番号	265117011001	施設名称	森林・林業研究センター	外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	農林技術研究所森林・林業研究セ	
	用途	研究施設	設置年	1988	
	施設目的	森林・林業・木材産業に関する試験研究、出前講座などの技術指導・情報提供及び木材強度試験など委託検定業務の実施			
	敷地面積	59,145.96 m <sup>2</sup>	延床面積	3,629.04 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	1,436,148 千円	建物台帳価格	257,280 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅:西鹿島駅から 徒歩15分 タクシー8分			

◆ 第1段階 B2    品質 1.83点    供給・財務 2.00点

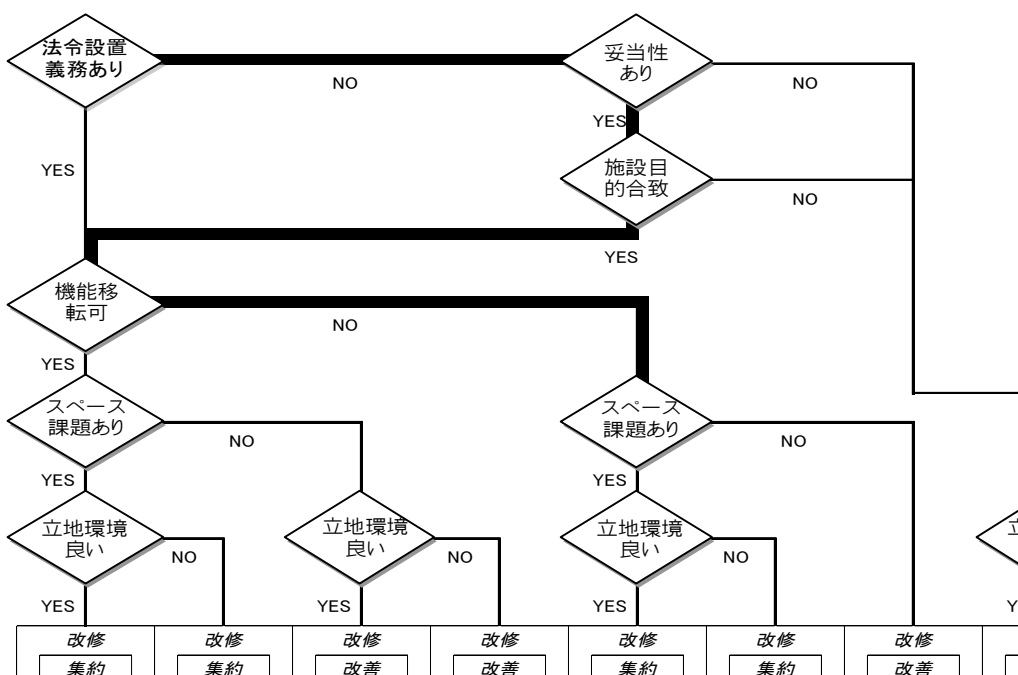
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	28.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水 1989.0年	1.00点
		外壁 1993.7年	1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備 2005.0年	2.28点
		受変電設備 1989.0年	1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.01GJ (50.60)	2.00点
供給	面積/人数	71.43m <sup>2</sup> (49.90)	3.00点
財務	コスト/人	1,358,564円 (66.23)	1.00点
財務	コスト/面積	8,610円 (52.29)	2.00点
財務	収入/人	366円 (48.28)	2.00点
財務	支出/人	2,041円 (50.05)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良い	NO

◆第3段階

コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	939	百万円	維持管理費 B(※2)	172	百万円
	使用年数 A(※1)	28.0	年	小計	1,111	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	209	百万円	維持管理費 (※3)	62	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	271	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	209	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	1,581	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	2,583	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	行政目的(研究所)として常時使用
これまでの保全の状況	必要に応じて修繕実施
その他	

財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	評価結果の変更希望なし
上を裏付ける根拠(ある場合)	



総合評価

施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足 施設の不具合箇所の解消に努めつつ、コスト面等の改善を図る必要がある施設。  
※敷地が広大であるが、施設用途として必要な面積であるため、スペースの課題あり「NO」とする。

# 施設アセスメントシート

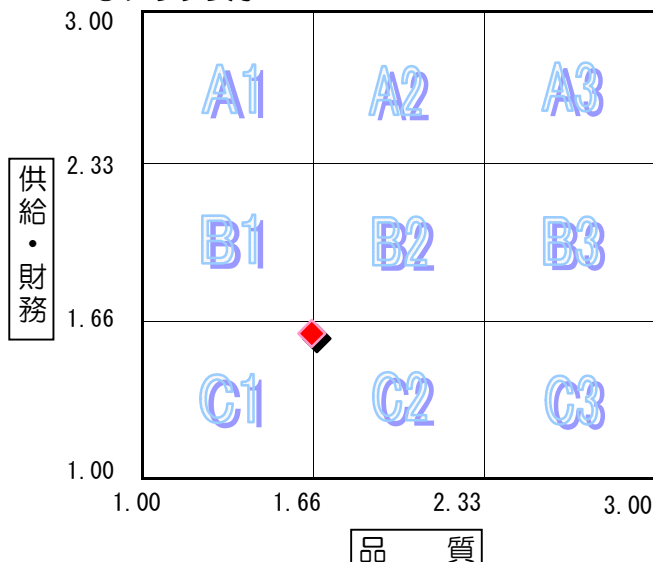
基本情報	施設番号	265117012002	施設名称	農林大学校林業分校		外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	農林技術研究所森林・林業研究セ		
	用途	教育施設		設置年	1970	
	施設目的	農林大学校養成部林業学科の学生に対して、幅広い専門的な知識・技術と経営能力を高める実践教育を行い、優れた林業後継者・指導者を養成する				
	敷地面積	8,400.19 m <sup>2</sup>	延床面積	982.85 m <sup>2</sup>		内部
	土地台帳価格	242,825 千円	建物台帳価格	12,459 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅:西鹿島駅から 徒歩15分 タクシー8分				

◆ 第1段階 C2    品質 1.70点    供給・財務 1.60点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	46.0年	1.00点
品質	建築劣化度	屋上防水 2007.0年	3.00点
品質		外壁 2007.0年	3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備 1970.0年	1.00点
品質		受変電設備 1970.0年	1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.07GJ (64.40)	3.00点
供給	面積/人数	163.81m <sup>2</sup> (63.00)	1.00点
供給	生徒充足率	60.00%	1.00点
供給	入学試験倍率	0.8倍	1.00点
財務	コスト/人	198,709円 (45.07)	2.00点
財務	コスト/面積	809円 (41.12)	3.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 改善

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良い	NO

◆第3段階

コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	65 百万円	維持管理費 B(※2)	18 百万円
	使用年数 A(※1)	46.0 年	小計	83 百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	16 百万円	維持管理費 (※3)	4 百万円
	大規模改修費	0 百万円	建替え経費	0 百万円
	解体費	0 百万円	小計	20 百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	32 百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	213 百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	354 百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	通年で農林大学校養成部林業学科の学生が利用している。
これまでの保全の状況	平成27年度劣化診断では、複数の項目がC判定となり、主なものとしては浴室天井の劣化、職員休憩室天井の雨漏り、分電盤の更新、換気設備の交換等の修繕が必要となっている。
その他	現存する本館校舎に併設していた講堂の解体(平成23年度実施)の際には、建物の寄贈元や林業関係団体から存続を求める陳情等があった経緯もあり、廃止・売却等の処分にあたっては関係各所へ説明も必要になると思われる。

財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、森林・林業研究センター敷地に隣接した環境の下、今後も県林業の後継者・担い手の人材育成拠点としての役割が期待されている一方で、施設面においては築45年を越え、老朽化の深刻化に伴う改修等が必要となっており、第2段階の結果のとおり、改善・改修が妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

総合評価

施設面: **改修**



運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。



# 施設アセスメントシート

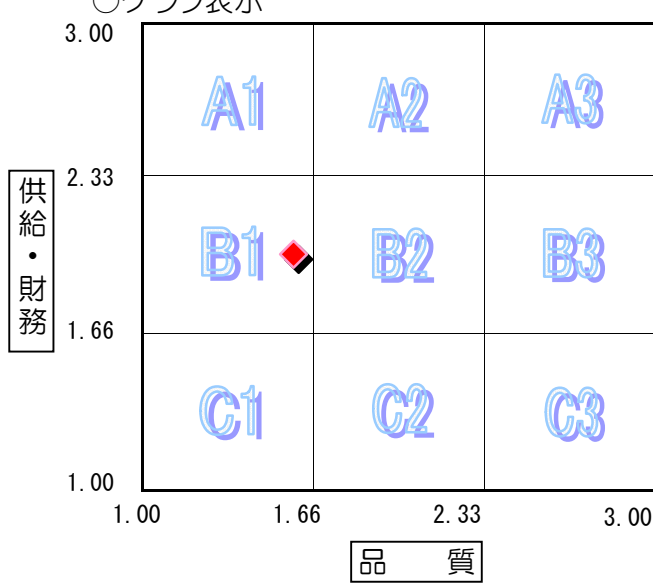
基本情報	施設番号	265121011001	施設名称	水産技術研究所		外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	水産技術研究所		
	用途	研究施設		設置年	1971	
	施設目的	水産資源に関する調査研究、水産物に関する加工技術開発研究、水産業に関する技術普及、情報発信等の実施				
	敷地面積	7,038.00 m <sup>2</sup>	延床面積	3,027.27 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	208,124 千円	建物台帳価格	154,768 千円		
	用途地域	準工業地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅: 焼津駅から バス15分 徒歩10分				

◆ 第1段階 **B1**    品質 1.62点    供給・財務 2.00点

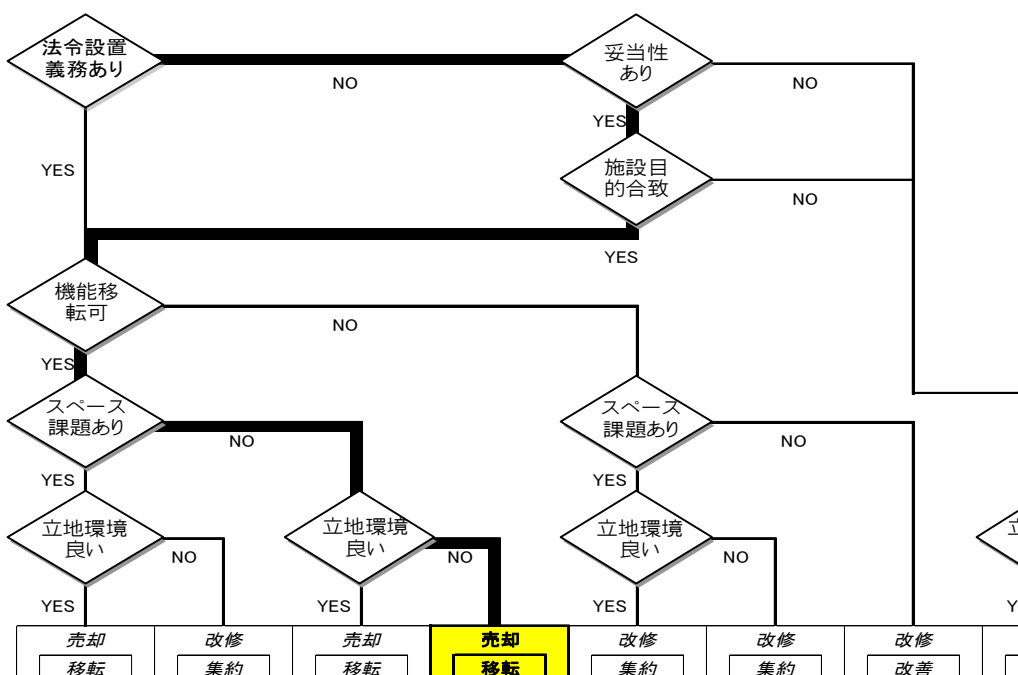
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	41.3年	1.19点
品質	建築劣化度	屋上防水	1974.7年 1.00点
		外壁	1982.2年 1.34点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2001.6年 2.66点
		受変電設備	1998.2年 2.27点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 2.19点
品質	エネルギー/面積	0.82GJ (52.53)	2.00点
供給	面積/人数	28.11m <sup>2</sup> (43.39)	2.00点
財務	コスト/人	280,001円 (46.55)	2.00点
財務	コスト/面積	3,330円 (44.73)	3.00点
財務	収入/人	166円 (41.18)	1.00点
財務	支出/人	968円 (53.87)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 **施設面: 売却**    **運用面: 移転**



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	YES
スペース課題あり	NO
立地環境良	NO



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	332	百万円	維持管理費 B(※2)	98	百万円
	使用年数 A(※1)	41.3	年	小計	430	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	87	百万円	維持管理費 (※3)	24	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	111	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	174	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	1,319	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	2,154	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	焼津市小川から同市鰯ヶ島へ移転し、焼津漁港管理事務所と合築する。 H28～H29建設工事、H30年3月移転予定
現在の利用状況	施設目的に沿って利用。
これまでの保全の状況	・外壁にクラック、モルタル浮き、破損(C判定)あり。 ・高圧引込ケーブル、高圧受電盤、発電機が耐用年数を大幅に超え経年劣化(C判定)が進んでいる。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	移転するため、第2段階の結果のとおり、移転・売却が妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	H28～H29建設工事、H30年3月移転予定

#### □総合評価


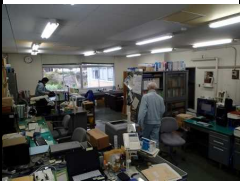
施設面: **売却**

運用面: **移転**

補足

現行計画(移転建て替え)に沿って、移転・売却を図っていく施設。

# 施設アセスメントシート

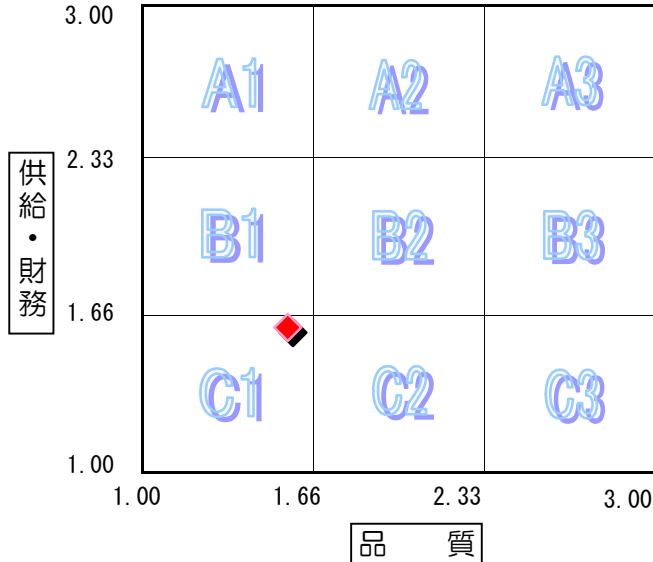
基本情報	施設番号	265121011002	施設名称	水産技術研究所伊豆分場	外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	水産技術研究所	
	用途	研究施設	設置年	1970	
	施設目的	水産資源に関する調査研究、水産物に関する加工技術開発研究、水産業に関する技術普及、情報発信等の実施			内部
	敷地面積	3,701.58 m <sup>2</sup>	延床面積	1,650.25 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	108,890 千円	建物台帳価格	54,368 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅:伊豆急下田から バス15分 徒歩1分			

◆ 第1段階 C1    品質 1.60点    供給・財務 1.60点

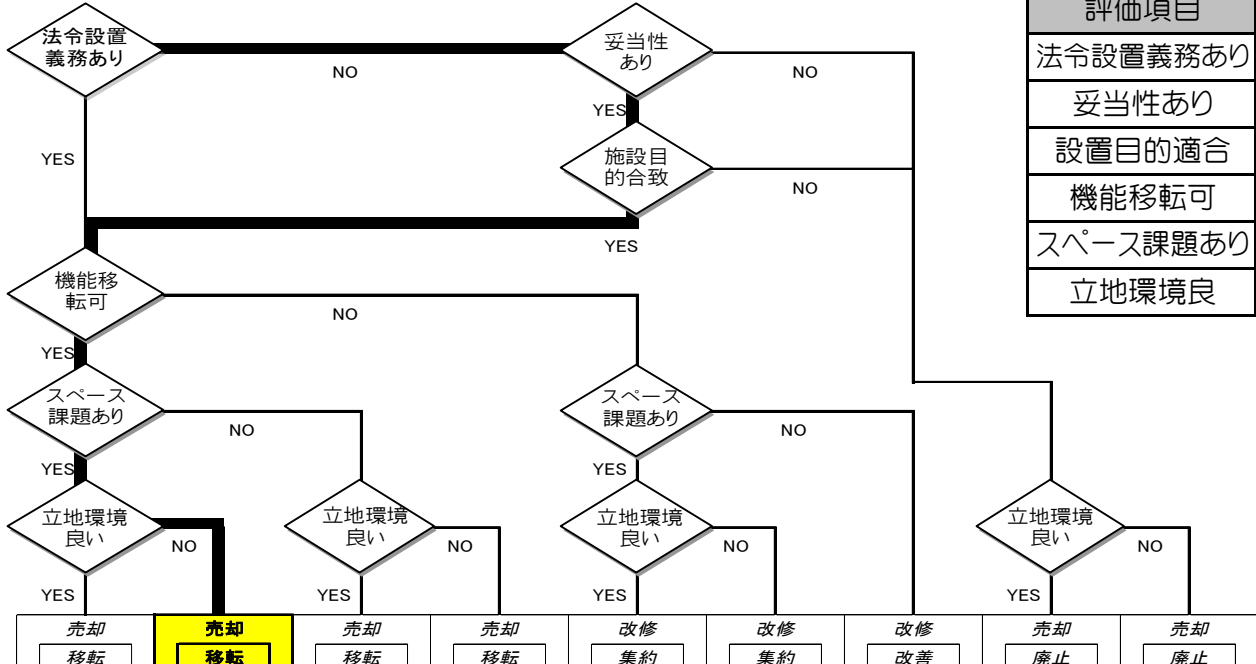
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	46.0年	1.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2011.0年 3.00点
		外壁	2012.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1970.0年 1.00点
		受変電設備	1970.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 2.00点
品質	エネルギー/面積	1.39GJ (46.73)	2.00点
供給	面積/人数	34.64m <sup>2</sup> (44.37)	2.00点
財務	コスト/人	757,655円 (55.26)	1.00点
財務	コスト/面積	5,050円 (47.19)	2.00点
財務	収入/人	163円 (41.07)	1.00点
財務	支出/人	951円 (53.94)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 売却    運用面: 移転



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	YES
スペース課題あり	YES
立地環境良い	NO

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	110	百万円	維持管理費 B(※2)	70	百万円
	使用年数 A(※1)	46.0	年	小計	180	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	95	百万円	維持管理費 (※3)	15	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	1,040	百万円
	解体費	40	百万円	小計	1,190	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	95	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	719	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	1,174	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	平成29年度から31年度前半までの間に、同敷地内で、建て替えを実施する。
現在の利用状況	施設目的に沿って利用。
これまでの保全の状況	屋上防水の劣化、外壁(モルタル塗り)のクラック、屋内床タイルの浮きなど、多数の箇所でC判定となっている。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、賀茂地域における行政サービスの引き継ぎの提供が必要であり、施設においては、今後、現地において、建て替えを予定しているため、第2段階においては移転・売却とされたが、集約・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	平成29年度～31年度前半に建て替え。



#### □総合評価

施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足	現行計画(現地建替え)に沿って、集約・改修を図っていく施設
----	-------------------------------

# 施設アセスメントシート

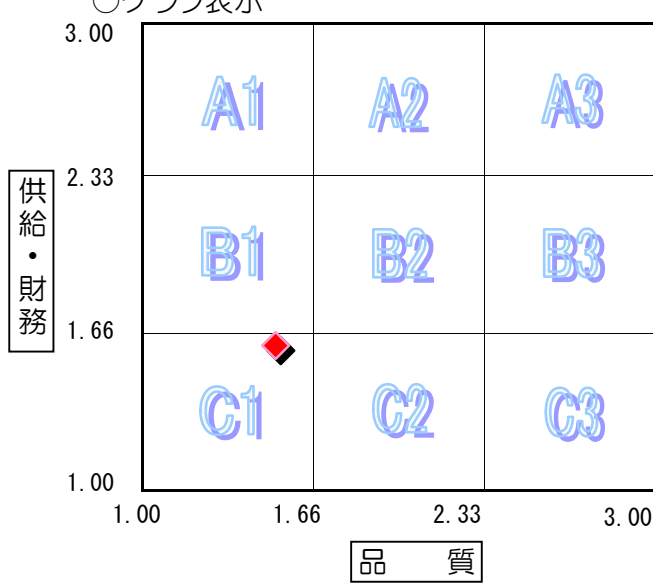
基本情報	施設番号	265121011005	施設名称	水産技術研究所富士養鱒場	外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	水産技術研究所	
	用途	研究施設	設置年	1995	
	施設目的	ニジマスなどの冷水性淡水魚の養殖、アユなどの内水面漁業に関する研究、県下全域の冷水性淡水魚及び海面養殖魚に関する普及、情報発信等			
	敷地面積	25,717.16 m <sup>2</sup>	延床面積	1,983.33 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	91,259 千円	建物台帳価格	2,230,104 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅:富士宮駅から バス50分 徒歩3分			

◆第1段階 C1    品質 1.55点    供給・財務 1.60点

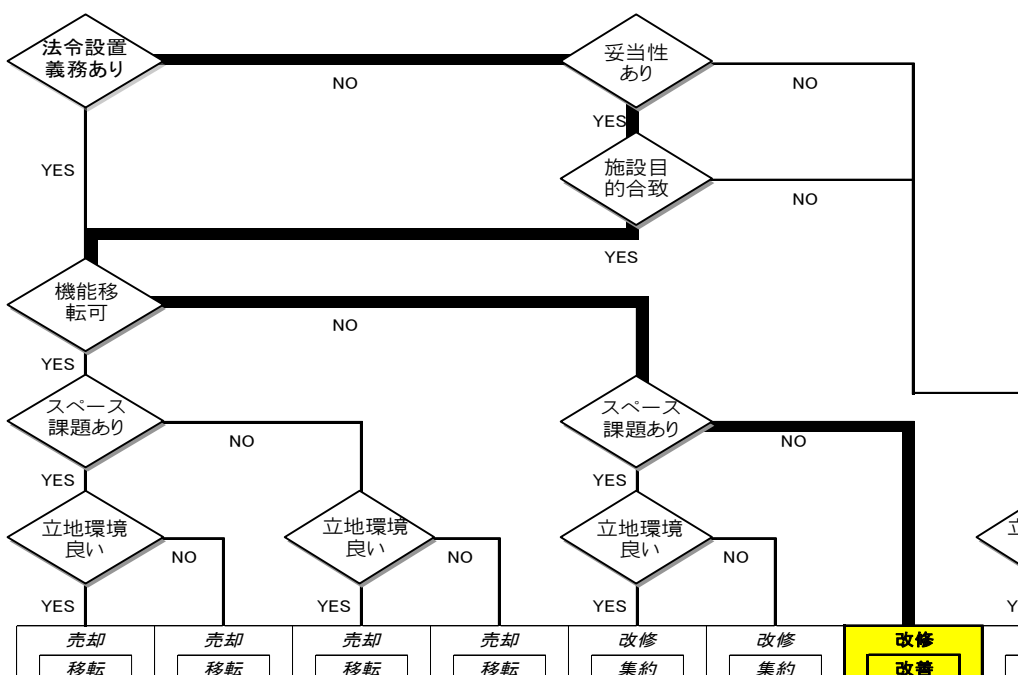
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	21.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1995.0年 1.00点
		外壁	1995.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1995.0年 1.00点
		受変電設備	1995.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 1.00点
品質	エネルギー/面積	1.59GJ (44.74)	1.00点
供給	面積/人数	132.25m <sup>2</sup> (59.04)	2.00点
財務	コスト/人	2,017,916円 (78.25)	1.00点
財務	コスト/面積	8,139円 (51.62)	2.00点
財務	収入/人	187円 (41.92)	1.00点
財務	支出/人	1,090円 (53.44)	2.00点

○グラフ表示



◆第2段階 施設面: 改修    運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	3,597	百万円	維持管理費 B(※2)	116	百万円
	使用年数 A(※1)	21.0	年	小計	3,713	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	114	百万円	維持管理費 (※3)	55	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	170	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	114	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	864	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	1,411	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	施設目的に沿って利用
これまでの保全の状況	本館研究室前廊下やトイレの天井が劣化(C判定)しており、大量のカビが発生している。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては立地に特段の理由があるため、第2段階においては改善とされたが継続が妥当。施設面においては、築20年を越え、湿気により腐食等劣化があるため、第2段階の結果のとおり改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	現在の立地場所に試験研究に必要な水源があるため。

#### □総合評価



施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

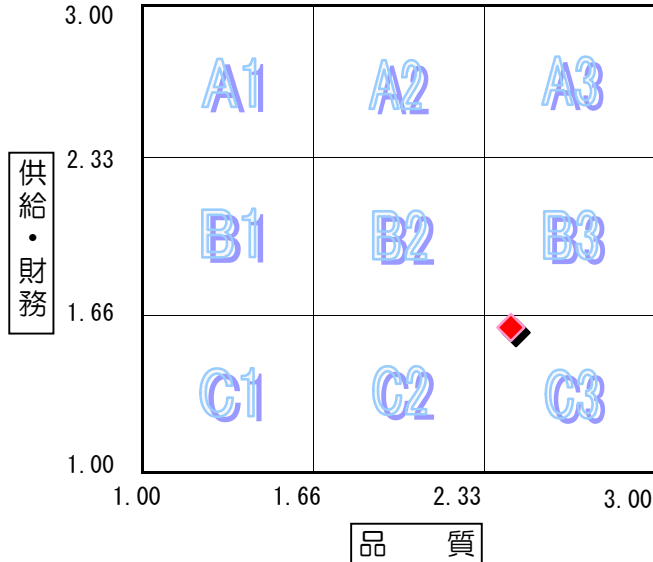
基本情報	施設番号	265121011006	施設名称	水産技術研究所浜名湖分場	外部 	
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	水産技術研究所		
	用途	研究施設	設置年	2000		
	施設目的	水産資源に関する調査研究、水産業に関する技術普及、情報発信等の実施				内部 
	敷地面積	13,431.69 m <sup>2</sup>	延床面積	3,843.98 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	177,295 千円	建物台帳価格	1,455,778 千円		
	用途地域	商業地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅: JR弁天島駅から 徒歩15分				

◆ 第1段階 C3    品質 2.53点    供給・財務 1.60点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

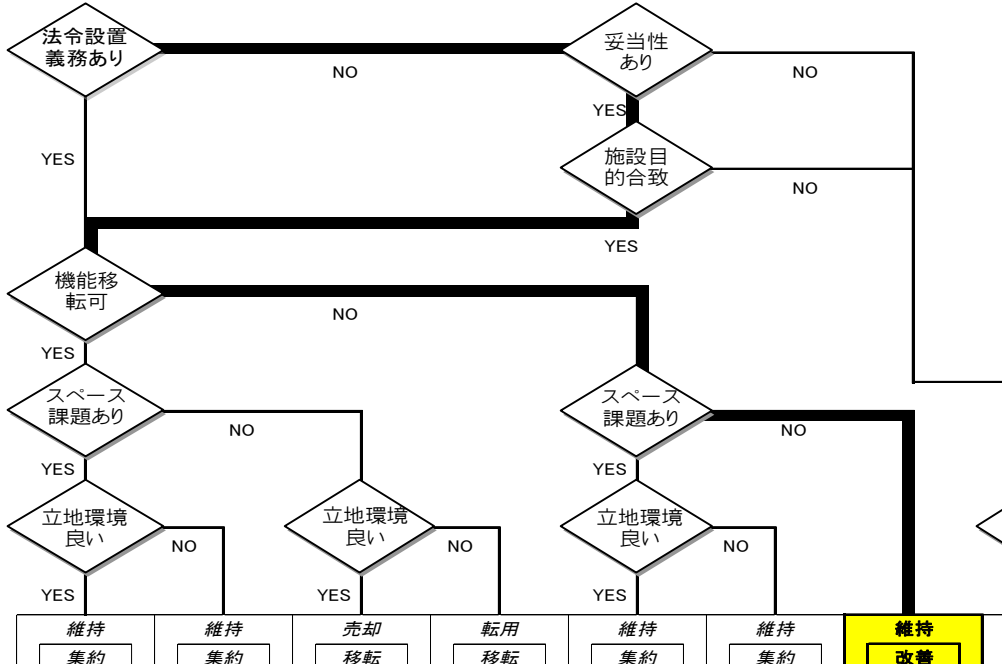
品質	建築後経過年数	16.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2007.2年 2.52点
		外壁	2000.0年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2007.7年 2.52点
		受変電設備	2000.0年 2.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 1.55点
品質	エネルギー/面積	2.62GJ (34.29)	1.00点
供給	面積/人数	32.59m <sup>2</sup> (44.06)	2.00点
財務	コスト/人	2,051,001円 (78.86)	1.00点
財務	コスト/面積	9,071円 (52.95)	2.00点
財務	収入/人	123円 (39.66)	1.00点
財務	支出/人	718円 (54.77)	2.00点

○グラフ表示



品質

◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良い	-



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	1,910	百万円	維持管理費 B(※2)	135	百万円
	使用年数 A(※1)	16.0	年	小計	2,045	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	222	百万円	維持管理費 (※3)	85	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	306	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	222	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	1,675	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	2,736	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	施設目的に沿って利用 併設の体験学習施設「ウォット」は年末年始と週1回の閉館日を除き営業
これまでの保全の状況	展示棟屋上防水が劣化・雨漏り H26展示棟屋上防水工事(14年経過)1,059千円 H23~26オープンデッキ修繕(11~14年経過)4年計 5,873千円 H27ウォット系統エアコン修繕 1,340千円(使用頻度が高いため劣化が早く、かつ影響大)
その他	浜名湖湖岸に立地しているため、海水、潮風により設備類の錆・腐食等劣化がかなり早い

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては立地に特段の理由があるため、第2段階においては、集約とされたが継続が妥当。 施設面においては海水、潮風により設備類の錆・腐食等劣化がかなり早いいため、随時修繕することとし、第2段階の結果のとおり維持が妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	現在の立地場所に海水取水管が設置されているため。 また、主要業務に地域特性があるため。

#### □総合評価

施設面: **維持**



運用面: **改善**

補足

施設の状態は良好であるため引き続き適正に管理していくが、コスト面等の改善を図る必要がある施設。



# 施設アセスメントシート

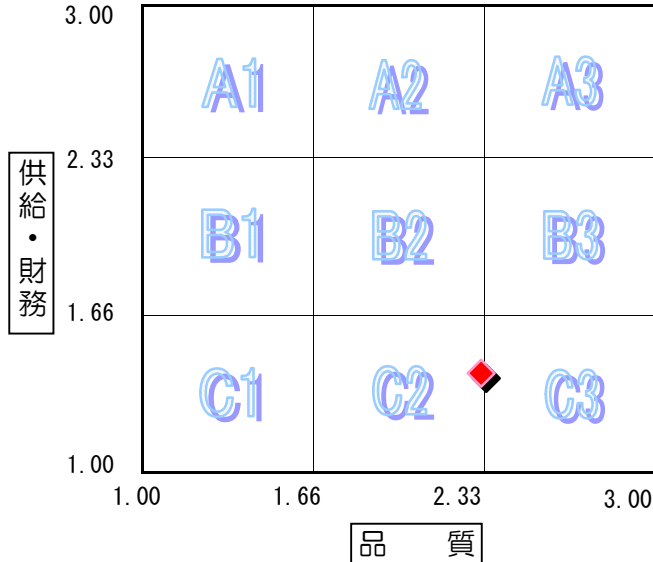
基本情報	施設番号	265121011007	施設名称	水産技術研究所駿河湾深層水水産利用施設	外部 	
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	水産技術研究所		
	用途	研究施設	設置年	2003	内部 	
	施設目的	深層水の特徴を利用し、水産生物の種苗生産等における利用技術開発を実施				
	敷地面積	7,506.76 m <sup>2</sup>	延床面積	2,071.15 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	614,861 千円		
	用途地域	準工業地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅:焼津駅から バス15分 徒歩5分				

◆第1段階 C3    品質 2.41点    供給・財務 1.40点

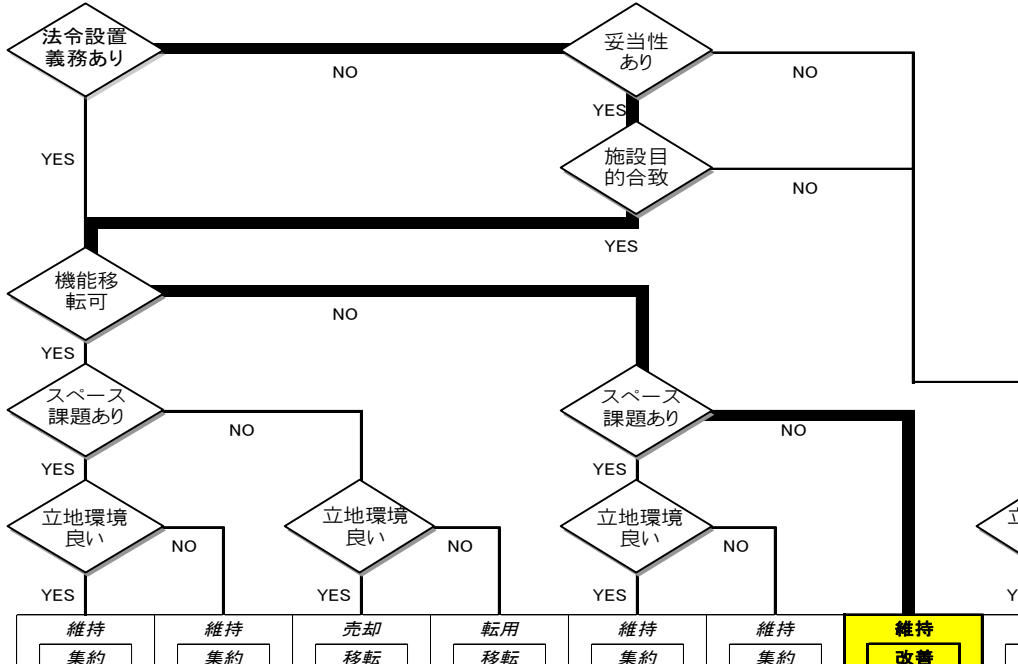
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	13.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2003.0年 2.00点
		外壁	2003.0年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2003.0年 2.00点
		受変電設備	2003.0年 2.00点
品質	津波性能	2.74点	耐震性能 0.39点
品質	エネルギー/面積	1.34GJ (47.23)	2.00点
供給	面積/人数	267.00m <sup>2</sup> (79.29)	1.00点
財務	コスト/人	1,576,309円 (70.20)	1.00点
財務	コスト/面積	5,328円 (47.59)	2.00点
財務	収入/人	171円 (41.35)	1.00点
財務	支出/人	996円 (53.77)	2.00点

○グラフ表示



◆第2段階 施設面: 維持    運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	733	百万円	維持管理費 B(※2)	68	百万円
	使用年数 A(※1)	13.0	年	小計	801	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	119	百万円	維持管理費 (※3)	52	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	171	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	119	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	902	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	1,474	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	施設目的に沿って利用。
これまでの保全の状況	屋根のステンレス板が劣化(C判定)し、雨漏りが発生している。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては立地に特段の理由があるため、第2段階においては改善とされていたが継続が妥当。施設面においては築後12年を経過し徐々に劣化や損傷が見える次期に入ってきたため、必要に応じ修繕することとし、第2段階の結果のとおり維持が妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	現在の立地場所に深層水取水管が設置されているため。

#### □総合評価



施設面: **維持**

運用面: **改善**

補足

施設の状態は良好であるため引き続き適正に管理していくが、コスト面等の改善を図る必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

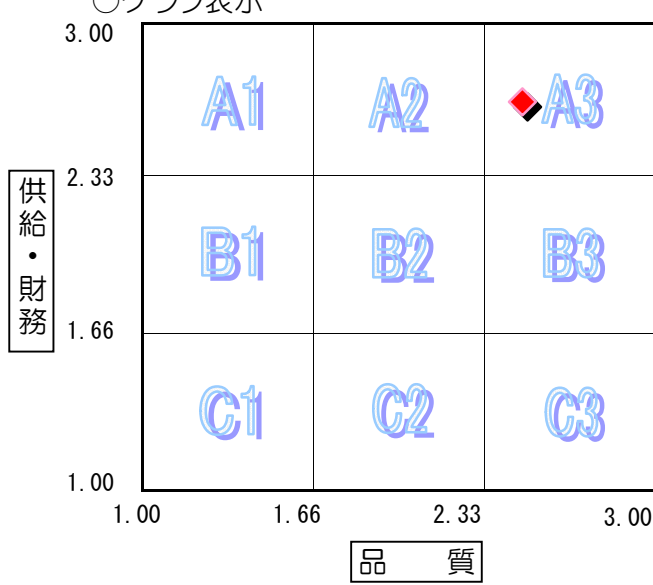
基本情報	施設番号	265121013007	施設名称	水産技術研究所富士養鱒場	外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	水産技術研究所	
	用途	研究施設	設置年	1997	
	施設目的	ニジマス等のサケ科魚類の種苗生産業務			内部
	敷地面積	9,511.50 m <sup>2</sup>	延床面積	789.27 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	77,165 千円	建物台帳価格	117,562 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅:富士宮駅から バス50分 徒歩3分			

◆第1段階 A3    品質 2.58点    供給・財務 2.67点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

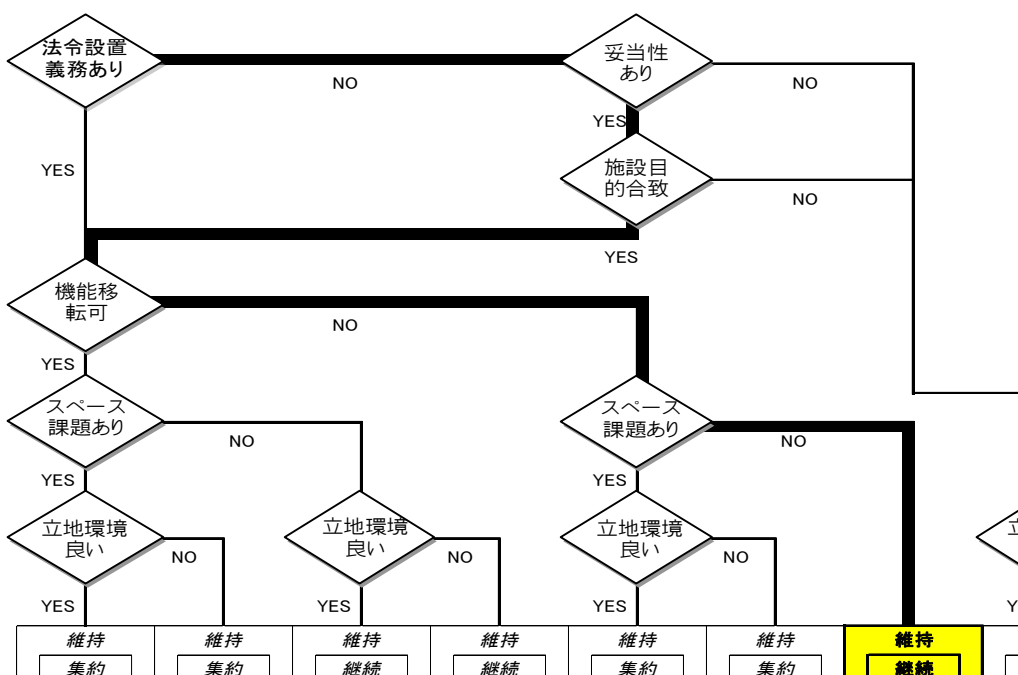
品質	建築後経過年数	19.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1997.0年 2.00点
		外壁	1997.0年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1997.0年 2.00点
		受変電設備	1997.0年 2.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 -
品質	エネルギー/面積	0.11GJ (59.70)	3.00点
供給	面積/人数	129.67m <sup>2</sup> (58.65)	2.00点
財務	コスト/人	121,242円 (43.66)	3.00点
財務	コスト/面積	461円 (40.62)	3.00点
財務	収入/人	-	-
財務	支出/人	-	-

○グラフ表示



品質: 1.00, 1.66, 2.33, 3.00  
供給・財務: 1.00, 1.66, 2.33, 3.00

◆第2段階 施設面: 維持    運用面: 継続



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	250	百万円	維持管理費 B(※2)	0	百万円
	使用年数 A(※1)	19.0	年	小計	250	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	45	百万円	維持管理費 (※3)	0	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	45	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	45	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	344	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	562	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	施設目的に沿って利用
これまでの保全の状況	調餌ふ化棟の天井が劣化(C判定)しており、大量のカビが発生している。
その他	(貸付方針については借受人と別途協議中である)

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては立地に特段の理由があり、施設面においては湿気により腐食等劣化するため、必要に応じ修繕することとし、第2段階の結果のとおり、継続・維持が妥当
上を裏付ける根拠(ある場合)	現在の立地場所に生産種苗に必要な水があるため。

#### □総合評価



施設面: **維持**

運用面: **継続**

補足

施設の状態及び利用状況も良好であるため、引き続き適正に管理していく施設。

# 施設アセスメントシート

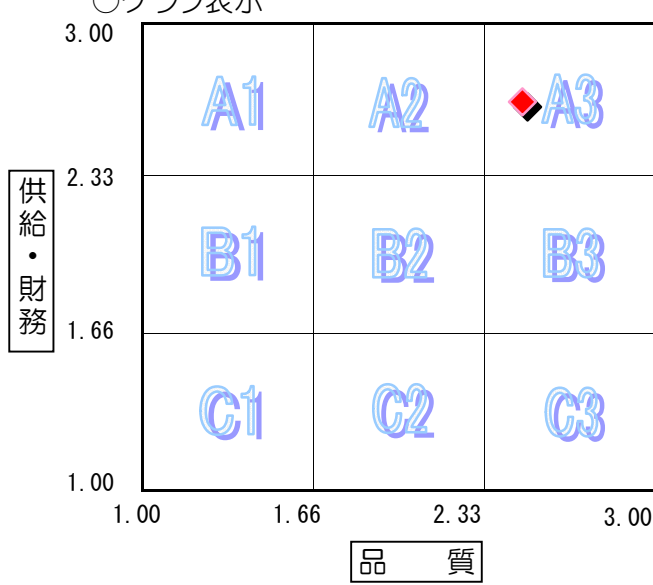
基本情報	施設番号	265121013007	施設名称	水産技術研究所富士養鱒場貸付財産	外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	水産技術研究所	
	用途	研究施設	設置年	1997	
	施設目的	ニジマス等のサケ科魚類の種苗生産業務			
	敷地面積	9,511.50 m <sup>2</sup>	延床面積	789.27 m <sup>2</sup>	内部
	土地台帳価格	77,165 千円	建物台帳価格	117,562 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅:富士宮駅から バス50分 徒歩3分			

◆ 第1段階 A3    品質 2.58点    供給・財務 2.67点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

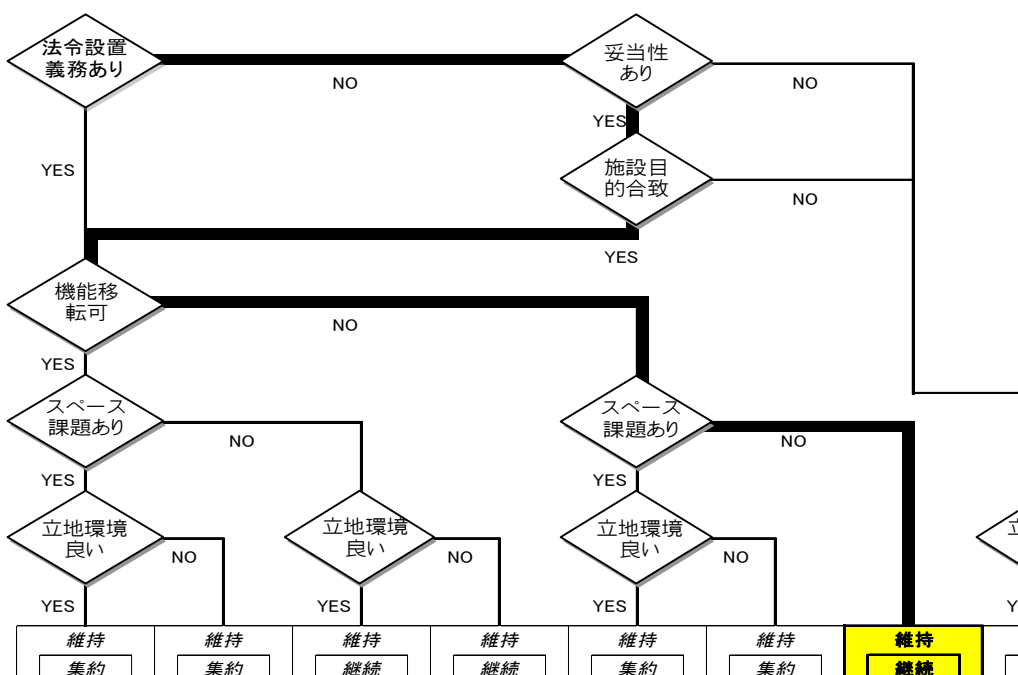
品質	建築後経過年数	19.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1997.0年 2.00点
		外壁	1997.0年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1997.0年 2.00点
		受変電設備	1997.0年 2.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 -
品質	エネルギー/面積	0.11GJ (59.70)	3.00点
供給	面積/人数	129.67m <sup>2</sup> (58.65)	2.00点
財務	コスト/人	121,242円 (43.66)	3.00点
財務	コスト/面積	461円 (40.62)	3.00点
財務	収入/人	-	-
財務	支出/人	-	-

○グラフ表示



品質: 1.00, 1.66, 2.33, 3.00  
供給・財務: 1.00, 1.66, 2.33, 3.00

◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 継続



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	250	百万円	維持管理費 B(※2)	0	百万円
	使用年数 A(※1)	19.0	年	小計	250	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	45	百万円	維持管理費 (※3)	0	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	45	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	45	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	344	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	562	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	施設目的に沿って利用
これまでの保全の状況	調餌ふ化棟の天井が劣化(C判定)しており、大量のカビが発生している。
その他	(貸付方針については借受人と別途協議中である)

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては立地に特段の理由があり、施設面においては湿気により腐食等劣化するため、必要に応じ修繕することとし、第2段階の結果のとおり、継続・維持が妥当
上を裏付ける根拠(ある場合)	現在の立地場所に生産種苗に必要な水があるため。

#### □総合評価

施設面: **維持**



運用面: **継続**

補足

施設の状態及び利用状況も良好であるため、引き続き適正に管理していく施設



# 施設アセスメントシート

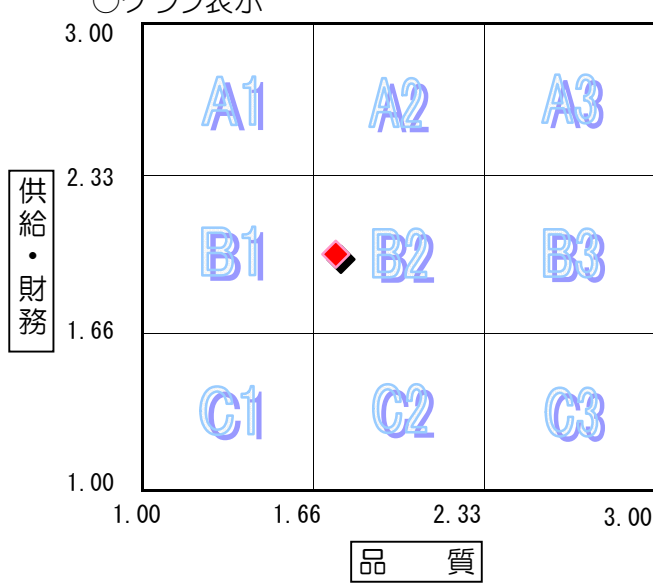
基本情報	施設番号	291101011005	施設名称	下田土木事務所松崎支所	外部
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	下田土木事務所	
	用途	庁舎等	設置年	1990	
	施設目的	管内の土木行政の実施			
	敷地面積	0.00 m <sup>2</sup>	延床面積	356.83 m <sup>2</sup>	内部
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	66,808 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅:修善寺駅から バス100分 徒歩3分			

◆第1段階 **B2** 品質 1.80点 供給・財務 2.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

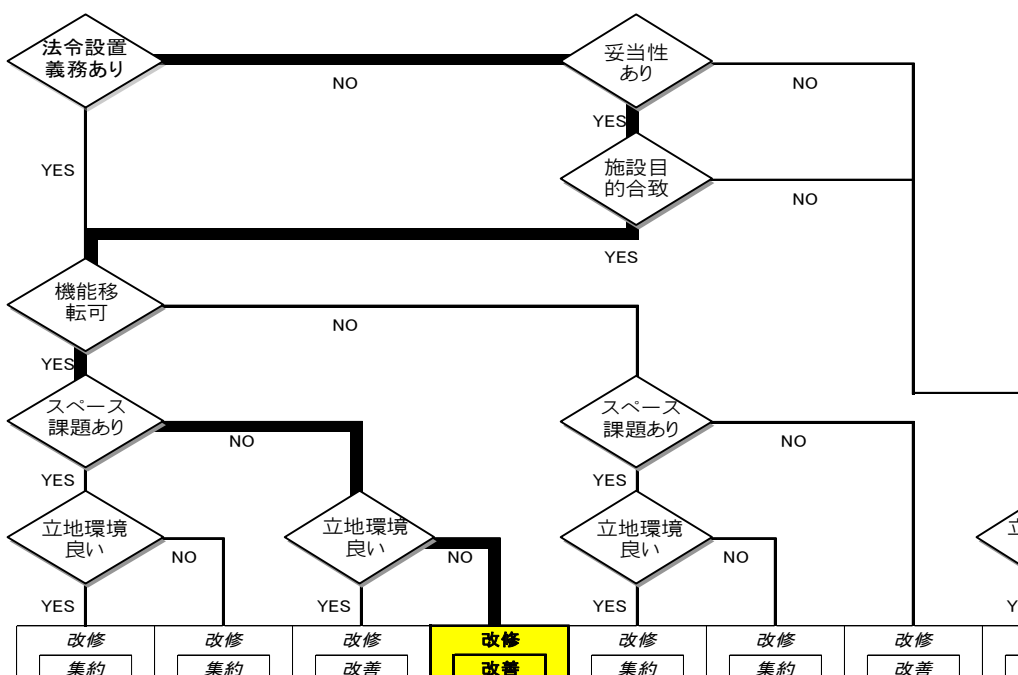
品質	建築後経過年数	26.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1990.0年 1.00点
		外壁	1990.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2014.0年 3.00点
		受変電設備	1990.0年 1.00点
品質	津波性能	1.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.68GJ (46.60)	2.00点
供給	面積/人数	11.38m <sup>2</sup> (47.39)	3.00点
財務	コスト/人	554,308円 (51.55)	2.00点
財務	コスト/面積	12,427円 (57.76)	1.00点

○グラフ表示



品質

◆第2段階 施設面: 改修 運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	YES
スペース課題あり	NO
立地環境良	NO



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	106	百万円	維持管理費 B(※2)	24	百万円
	使用年数 A(※1)	26.0	年	小計	130	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	21	百万円	維持管理費 (※3)	9	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	30	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	21	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	103	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	167	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	管財課が平成25年度に実施したL2津波に対する「対津波安全診断」と「設備診断」の結果、総合判定で移転建替えの検討が必要とされたため、財政課と協議を行っている。
現在の利用状況	管内の工事の設計・監督事務所として使用されている。
これまでの保全の状況	平成18年度倉庫シャッター取換工事(1,124千円) 平成18年度外壁漏水修繕工事(630千円) 平成21年度倉庫シャッター取換工事(1,575千円) 平成26年度トイレ配管修繕工事(1,679千円) 平成26年度空調機交換工事(OA室、待機室)(958千円) 平成27年度外壁ガラスブロック修繕工事(750千円) 平成27年度空調機交換工事(執務室)(2,268千円)
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後とも継続して維持していく必要がある一方で、施設面では、津波に対する安全性が懸念されるため、第2段階の結果のとおり改修・改善とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	



#### □総合評価

施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足 津波浸水域に立地し、施設の老朽化及び津波対策の必要性から、改修を検討していく必要がある施設であるが、移転・売却も合わせて検討していく必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

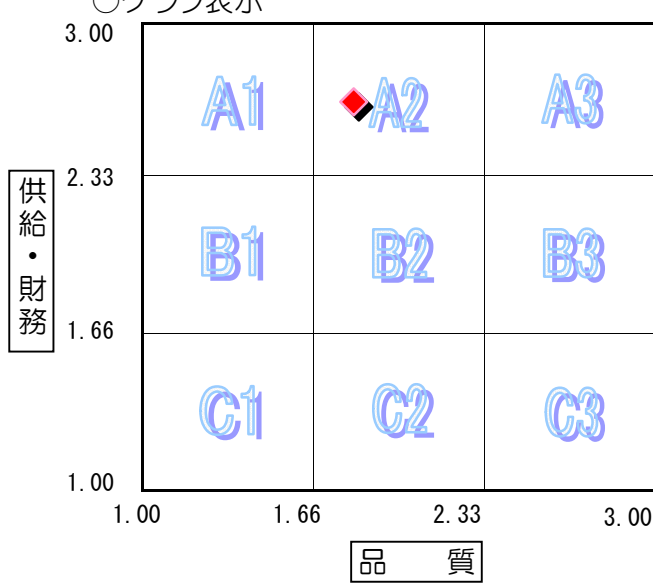
基本情報	施設番号	291103011006	施設名称	熱海土木事務所伊東支所		外部 
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	熱海土木事務所		
	用途	庁舎等		設置年	1985	
	施設目的	管内の土木行政の実施				内部 
	敷地面積	1,407.51 m <sup>2</sup>	延床面積	374.00 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	113,405 千円	建物台帳価格	46,251 千円		
	用途地域	近隣商業地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	-				

◆ 第1段階 A2    品質 1.88点    供給・財務 2.67点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

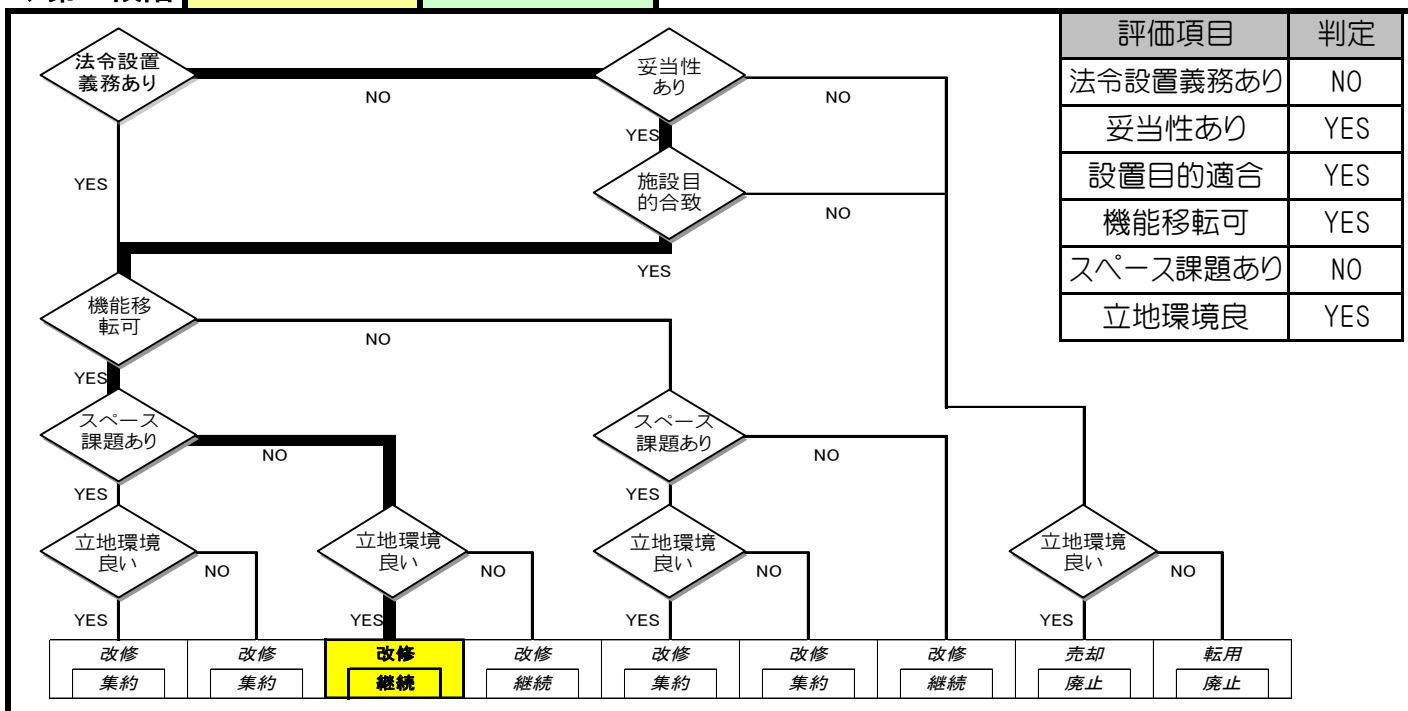
品質	建築後経過年数	31.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1985.0年 1.00点
		外壁	1985.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	- -
		受変電設備	- -
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.63GJ (48.19)	2.00点
供給	面積/人数	11.30m <sup>2</sup> (47.22)	3.00点
財務	コスト/人	158,465円 (44.33)	3.00点
財務	コスト/面積	4,237円 (46.03)	2.00点

○グラフ表示



品質

◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 継続



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	77	百万円	維持管理費 B(※2)	17	百万円
	使用年数 A(※1)	31.0	年	小計	94	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	22	百万円	維持管理費 (※3)	6	百万円
	大規模改修費	87	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	114	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	22	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	108	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	175	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	管内伊東市内の工事の設計・監督事務所として使用されている。
これまでの保全の状況	建物については、大きな補修が必要になる箇所はないが、設備について経年劣化が進行している。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、伊東市管内の土木行政を継続して担う責務があり、地理的にも災害・事故等への迅速な対応が可能のため、第2段階の結果のとおり継続・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価



施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めつつ、中期的には建替えも含めた改修を検討していく必要がある施設

# 施設アセスメントシート

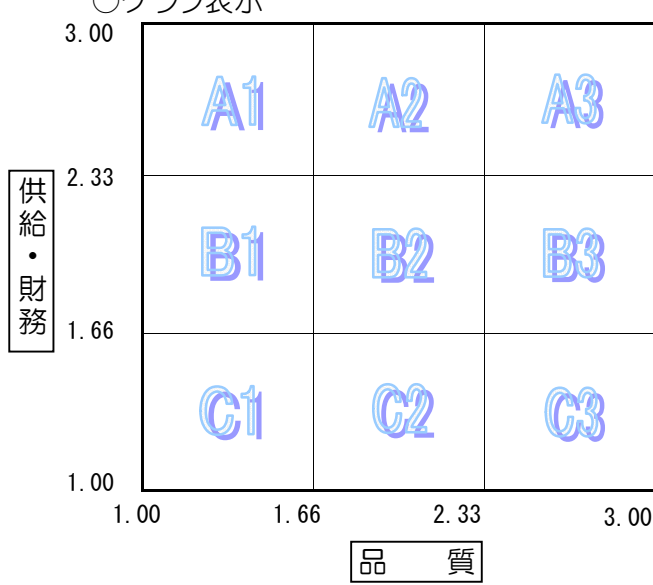
基本情報	施設番号	291103011011	施設名称	熱海土木事務所ダム監督員宿舎		外部 
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	熱海土木事務所		
	用途	職員住宅		設置年	1981	
	施設目的					
	敷地面積	380.76 m <sup>2</sup>	延床面積	262.13 m <sup>2</sup>		内部 
	土地台帳価格	25,021 千円	建物台帳価格	15,682 千円		
	用途地域	住居地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	-				

◆ 第1段階 A2    品質 1.87点    供給・財務

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

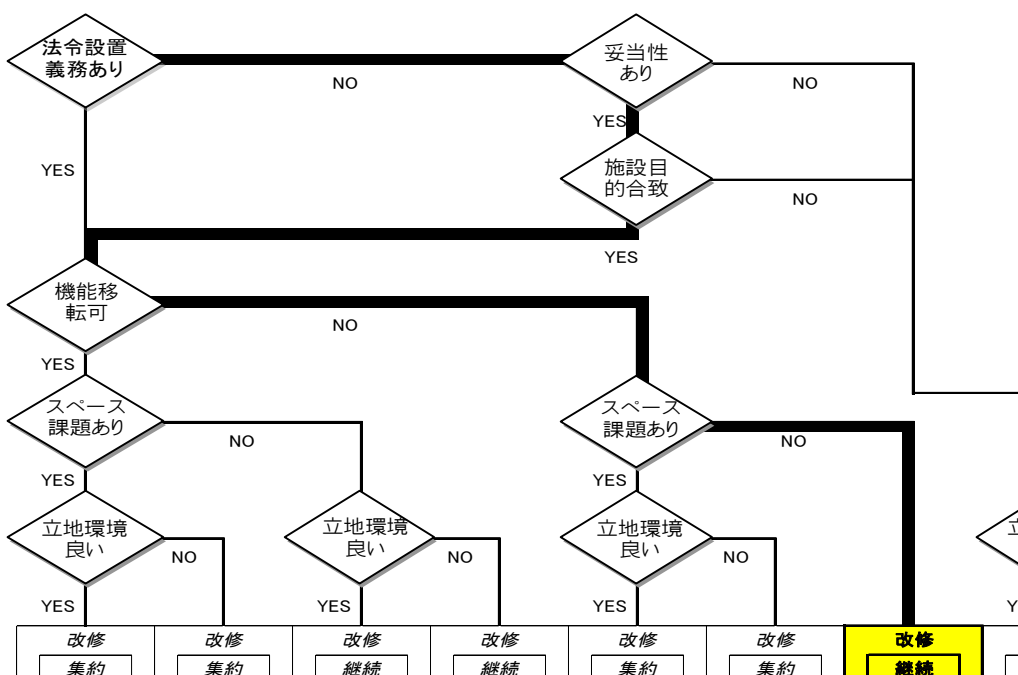
品質	建築後経過年数	35.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1981.0年 1.00点
		外壁	1981.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	-
		受変電設備	-
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	-	-
供給	面積/人数	-	-
供給	入居率・入所率	28.6%	-
財務	コスト/面積	-	-

○グラフ表示



品質

◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 継続



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	39	百万円	維持管理費 B(※2)	0	百万円
	使用年数 A(※1)	35.0	年	小計	39	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	8	百万円	維持管理費 (※3)	0	百万円
	大規模改修費	44	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	52	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	8	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	52	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	89	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	四戸中、二戸の入居があり、使用されている。
これまでの保全の状況	劣化診断の結果、外壁等の大規模な修繕が必要となっている。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面において、ダムの管理を継続する責務があるため、第2段階の結果のとおり継続・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価

施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めつつ、中期的には建替えも含めた改修を検討していく必要がある施設

# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	291105011005	施設名称	沼津土木事務所修善寺支所	外部
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	沼津土木事務所	
	用途	庁舎等	設置年	1991	内部
	施設目的	管内(伊豆市)の土木行政の実施			
	敷地面積	1,924.31 m <sup>2</sup>	延床面積	315.00 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	111,610 千円	建物台帳価格	68,921 千円	内部
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅:修善寺駅から 徒歩20分			



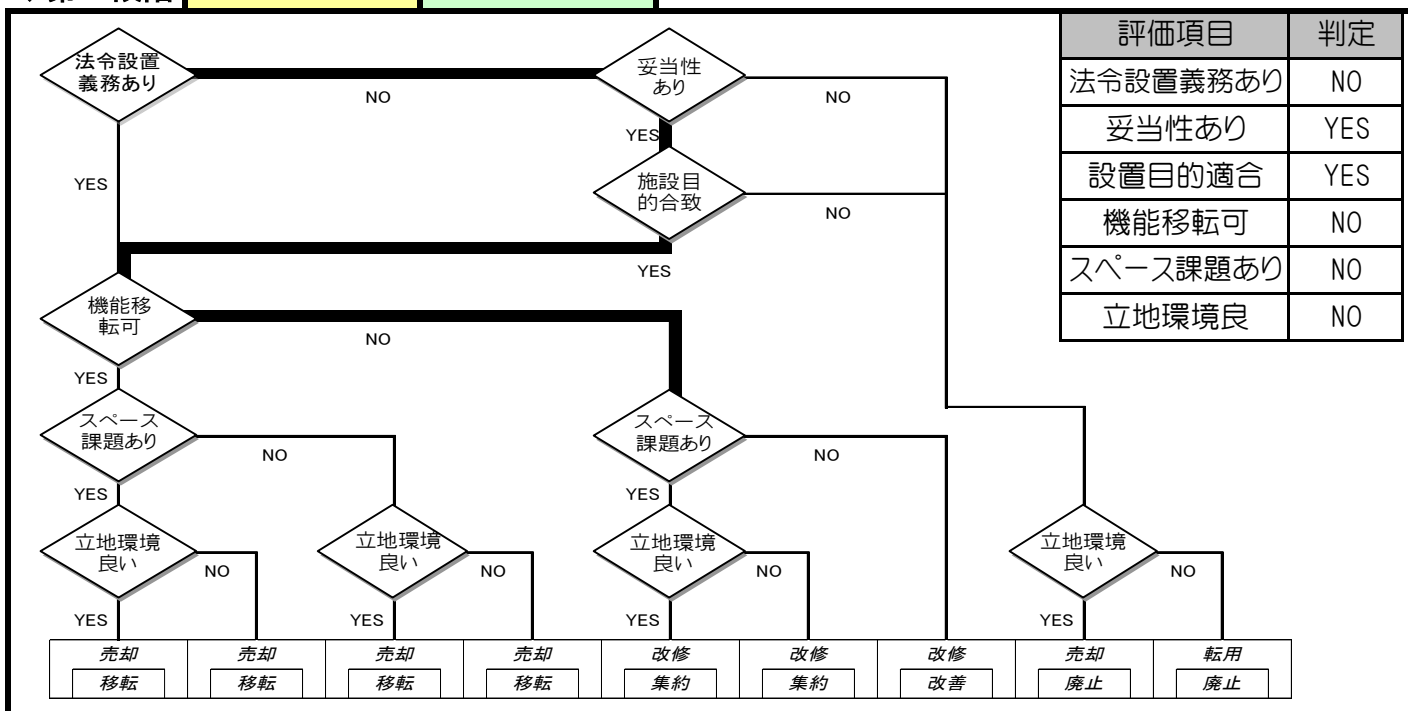
◆第1段階 C2    品質 2.22点    供給・財務 1.33点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	25.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2016.0年 3.00点
		外壁	2016.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1991.0年 1.00点
		受変電設備	- -
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.68GJ (46.49)	2.00点
供給	面積/人数	9.50m <sup>2</sup> (43.16)	2.00点
財務	コスト/人	893,001円 (57.73)	1.00点
財務	コスト/面積	28,349円 (80.55)	1.00点

○グラフ表示

◆第2段階 施設面: 改修    運用面: 改善



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	113	百万円	維持管理費 B(※2)	22	百万円
	使用年数 A(※1)	25.0	年	小計	135	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	18	百万円	維持管理費 (※3)	9	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	27	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	18	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	91	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	147	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	執務室として常時使用。
これまでの保全の状況	H27年度に屋上防水工事、外壁補修工事及び非常用発電設備修繕工事を実施。(約750万円)
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、伊豆市管内の土木行政を継続して担う責務があり、地理的にも災害・事故等への迅速な対応が可能のため、第2段階の結果のとおり改善・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価

施設面: **改修**



運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。



# 施設アセスメントシート

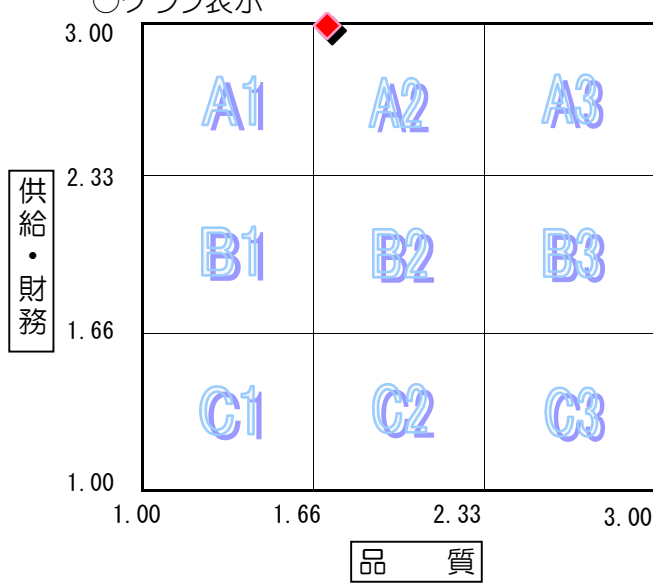
基本情報	施設番号	291105011006	施設名称	沼津土木事務所土肥支所	外部
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	沼津土木事務所	
	用途	庁舎等	設置年	1992	
	施設目的	平成17年3月31日廃止			
	敷地面積	1,000.00 m <sup>2</sup>	延床面積	379.32 m <sup>2</sup>	内部
	土地台帳価格	55,571 千円	建物台帳価格	93,789 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅:修善寺駅から バス53分			

◆第1段階 A2    品質 1.76点    供給・財務 3.00点

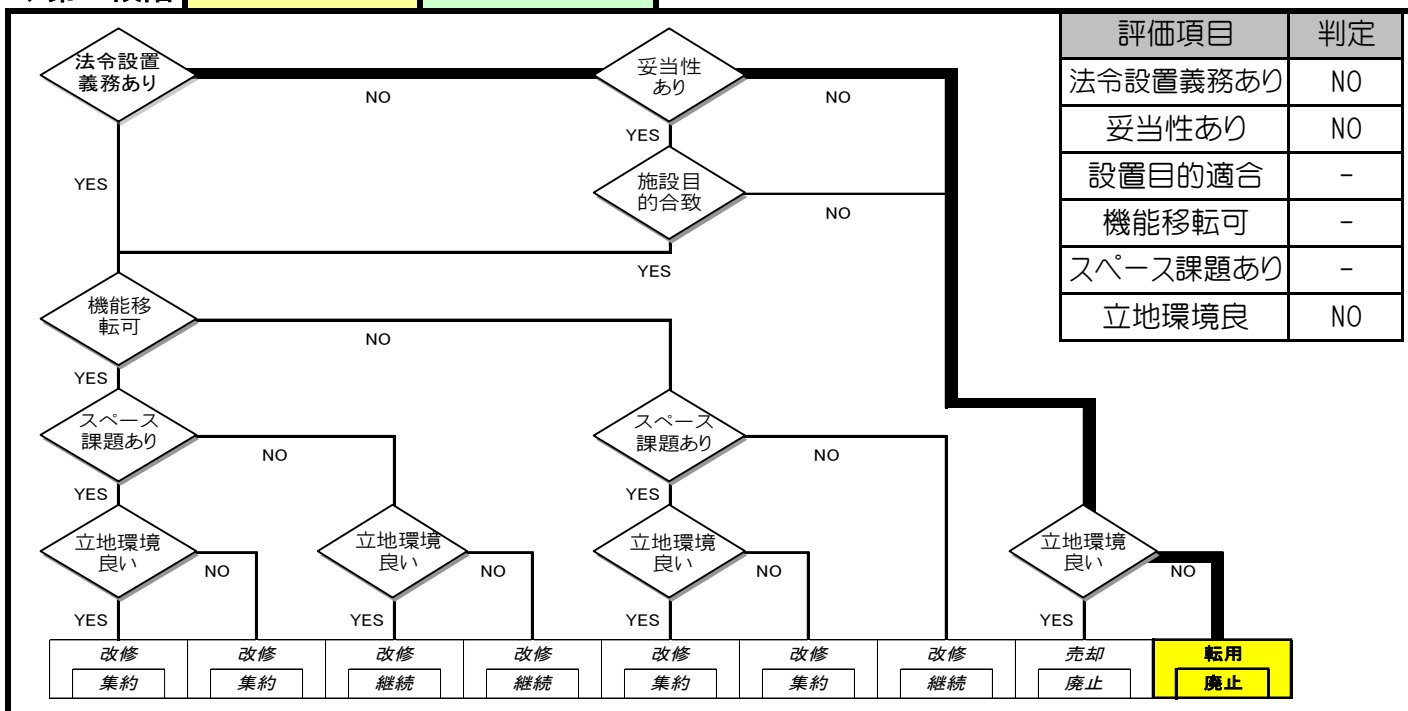
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	24.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1992.0年 1.00点
		外壁	1992.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1992.0年 1.00点
		受変電設備	- -
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 -
品質	エネルギー/面積	0.07GJ (64.19)	3.00点
供給	面積/人数	- -	-
財務	コスト/人	- -	-
財務	コスト/面積	1,668円 (42.35)	3.00点

○グラフ表示



◆第2段階 施設面: 転用    運用面: 廃止



◆第3段階

コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	158	百万円	維持管理費 B(※2)	9	百万円
	使用年数 A(※1)	24.0	年	小計	167	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	22	百万円	維持管理費 (※3)	4	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	26	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	22	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	110	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	177	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	一部倉庫として利用
これまでの保全の状況	屋上防水劣化による雨漏り有り。軒天、玄関内部天井の腐食による剥がれ有り。屋上アンテナタワーモニュメントの腐食による落下の危険性有り。
その他	敷地は港湾用地(荷捌き地)として埋め立てられた土地を支所用に種類替えしたものであり、土地の利用については港湾局との協議が必要。

財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	支所は既に廃止されており、その後再活用されていないため、第2段階の結果のとおり廃止・転用が妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	



総合評価

施設面: **転用**

運用面: **廃止**

補足	機能は廃止だが、立地環境等から直ちに売却が困難である場合には、他の用途への転用による活用も含めて処分を検討する必要がある施設。
----	---

# 施設アセスメントシート

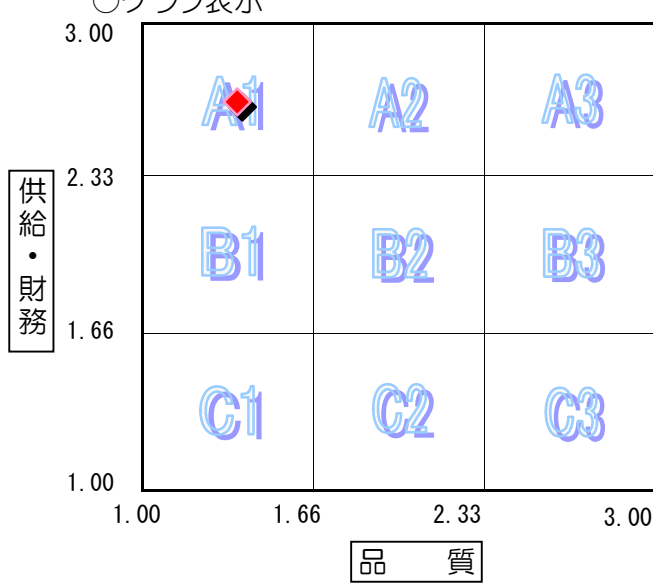
基本情報	施設番号	291107011001	施設名称	富士土木事務所富士宮分行舎	外部
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	富士土木事務所	
	用途	庁舎等	設置年	1974	
	施設目的	管内の土木行政の実施			
	敷地面積	1,656.99 m <sup>2</sup>	延床面積	234.25 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	85,453 千円	建物台帳価格	0 千円	
	用途地域	工業地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	-			

◆ 第1段階 A1    品質 1.39点    供給・財務 2.67点

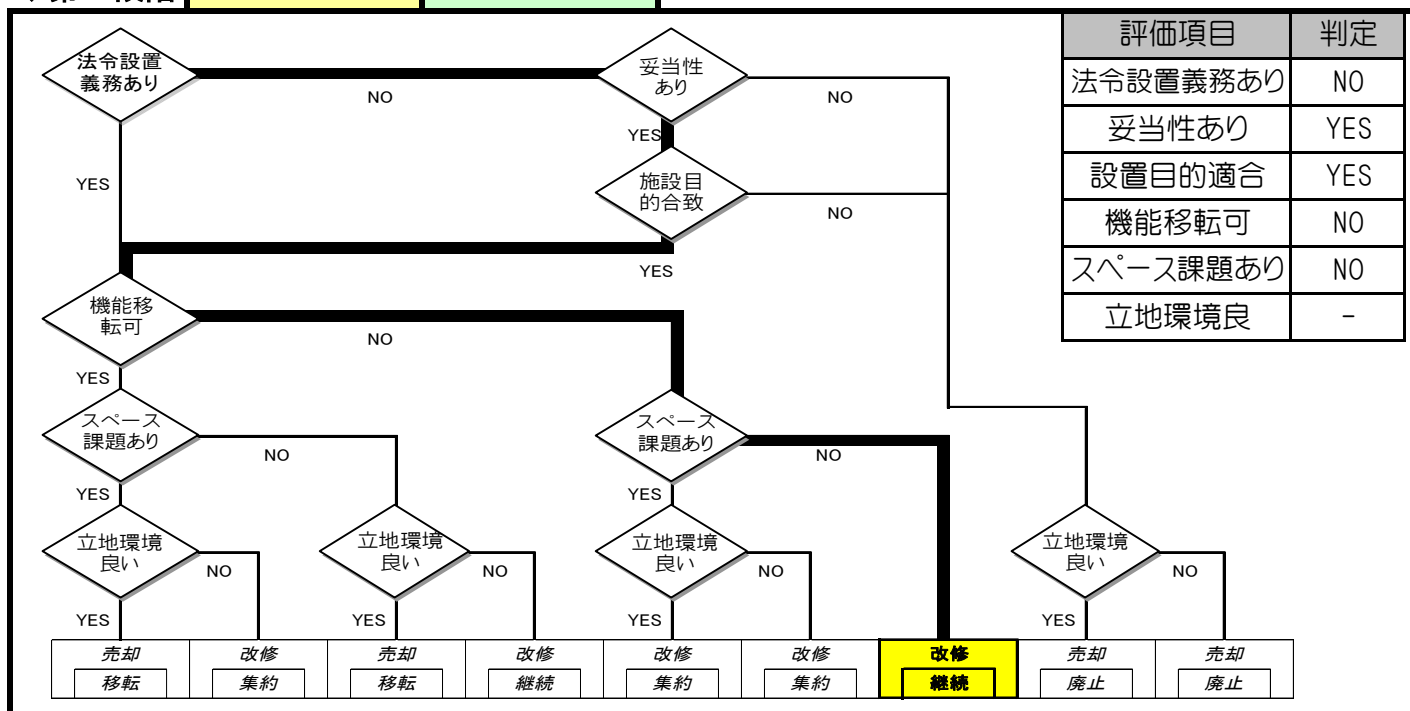
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	42.0年	1.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1974.0年 1.00点
		外壁	1974.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2001.0年 2.00点
		受変電設備	- -
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.68GJ (46.55)	2.00点
供給	面積/人数	11.67m <sup>2</sup> (48.05)	3.00点
財務	コスト/人	194,828円 (45.00)	3.00点
財務	コスト/面積	7,485円 (50.68)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 継続



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	16	百万円	維持管理費 B(※2)	44	百万円
	使用年数 A(※1)	42.0	年	小計	60	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	14	百万円	維持管理費 (※3)	10	百万円
	大規模改修費	54	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	78	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	14	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	68	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	110	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	富士宮市内の道路・河川工事関係者や道路・河川占用等申請者が頻繁に来庁する。
これまでの保全の状況	劣化診断の結果、耐震補強は実施しているので、躯体の安全は確保されているが、屋根材や建具等をはじめ、電気設備が著しく劣化している。電話等の不具合も年1回程度あり、修理している。庁舎の改修方針が決定していないので、女子更衣室の設置を見送った経緯がある。
その他	星山放水路を管理しているため移転は困難。

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、星山放水路の管理を継続して行う責務があるが、施設については、老朽化が著しいため、第2段階の結果のとおり継続・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価



施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めつつ、中期的には建替えも含めた改修を検討していく必要がある施設

# 施設アセスメントシート

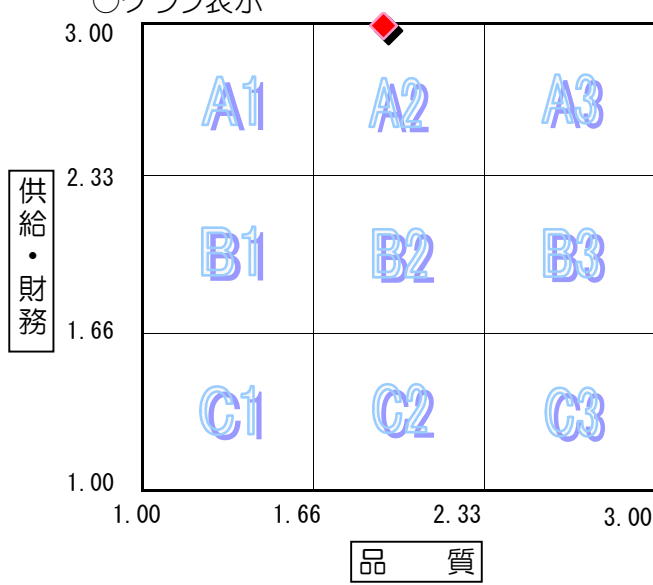
基本情報	施設番号	291109011004	施設名称	静岡土木事務所河川事務所	 外部   内部
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	静岡土木事務所	
	用途	庁舎等	設置年	1980	
	施設目的	管内河川行政事業の実施(観測システムに係る機器の設置)			
	敷地面積	286.19 m <sup>2</sup>	延床面積	205.20 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	43,337 千円	建物台帳価格	0 千円	
	用途地域	第2種住居専用地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅:東静岡から 徒歩15分 タクシー5分			

◆ 第1段階 A2    品質 2.00点    供給・財務 3.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

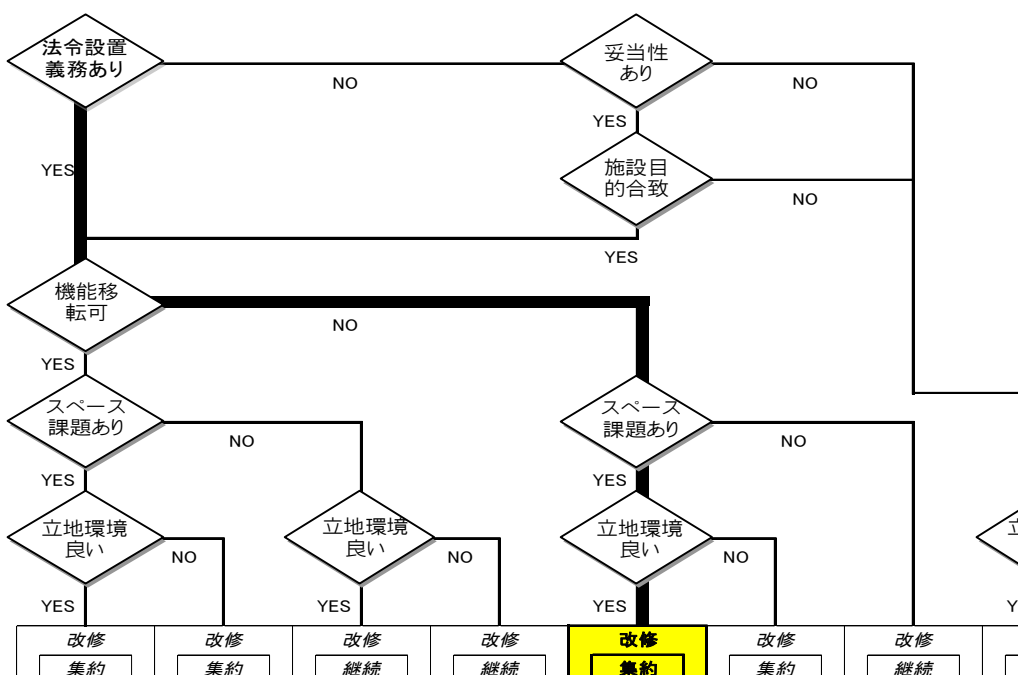
品質	建築後経過年数	36.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	-
		外壁	1980.0年
品質	設備劣化度	空気調和設備	-
		受変電設備	-
品質	津波性能	3.00点	耐震性能
品質	エネルギー/面積	0.12GJ (62.74)	3.00点
供給	面積/人数	-	-
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	3,189円 (44.53)	3.00点

○グラフ表示



品質

◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 集約



評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良	YES

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	20	百万円	維持管理費 B(※2)	14	百万円
	使用年数 A(※1)	36.0	年	小計	34	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	12	百万円	維持管理費 (※3)	4	百万円
	大規模改修費	48	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	63	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	12	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	59	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	96	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	総合治水対策の通信システムの中継機器を設置している。中継機器設置場所以外は書類・物品等の保管庫としても利用中。
これまでの保全の状況	過去に大規模な修繕等をした履歴なし。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	総合治水対策の通信システムの中継機器が設置されている。しかし、システムの老朽化が進み、システム全体の段階的な更新を検討している。そのため、現状を維持しながら、システムの更新の段階に合わせて、中継機器の移設を含めた廃止・継続の方向性を検討していくことが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価



施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足

中継機器の移設の可否を判断し、移設が可能であれば、廃止・売却を検討していく必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

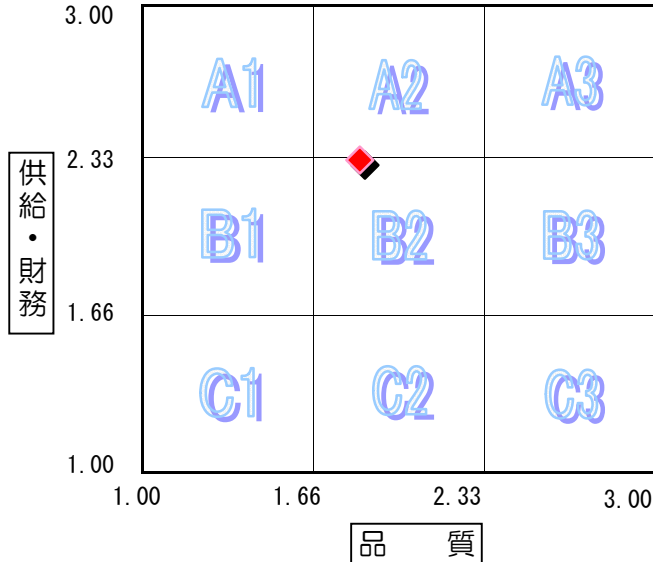
基本情報	施設番号	291113011004	施設名称	島田土木事務所川根支所	外部
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	島田土木事務所	
	用途	庁舎等	設置年	1983	
	施設目的	管内(旧川根町、川根本町)の土木行政事務を行う職員の庁舎			
	敷地面積	4,709.84 m <sup>2</sup>	延床面積	493.50 m <sup>2</sup>	内部
	土地台帳価格	121,278 千円	建物台帳価格	44,473 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅:大井川鐵道家山駅から 徒歩15分			

◆ 第1段階 A2    品質 1.90点    供給・財務 2.33点

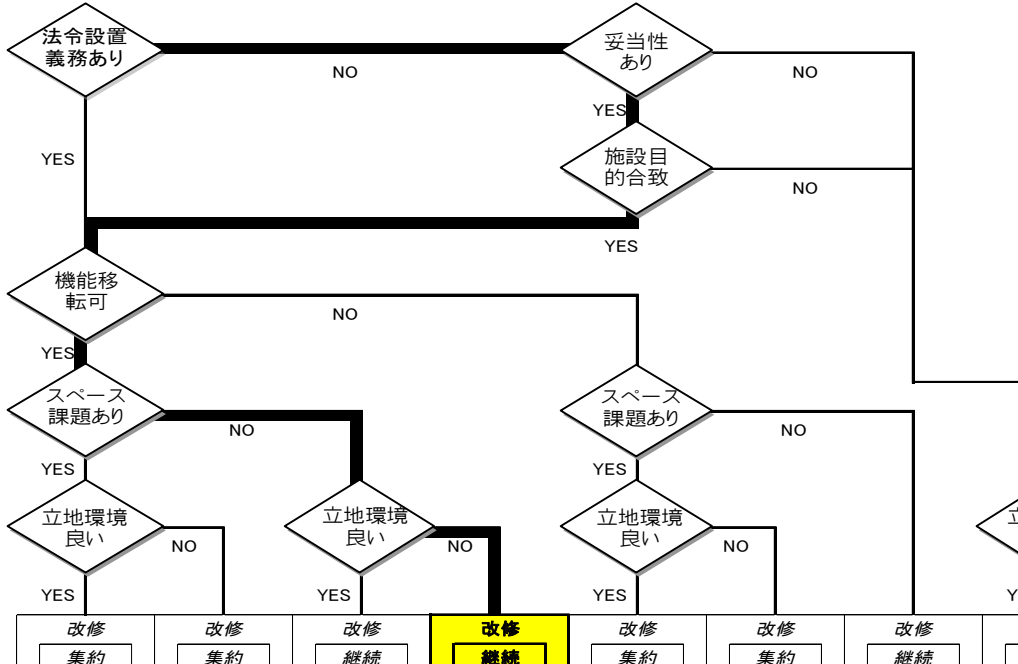
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	33.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1983.0年 1.00点
		外壁	1983.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2014.0年 3.00点
		受変電設備	1983.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.44GJ (53.52)	2.00点
供給	面積/人数	10.67m <sup>2</sup> (45.79)	3.00点
財務	コスト/人	311,339円 (47.12)	2.00点
財務	コスト/面積	7,571円 (50.80)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 継続



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	YES
スペース課題あり	NO
立地環境良	NO



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	78	百万円	維持管理費 B(※2)	31	百万円
	使用年数 A(※1)	33.0	年	小計	109	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	28	百万円	維持管理費 (※3)	10	百万円
	大規模改修費	114	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	152	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	28	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	143	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	231	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	平日昼間は業者(土木・建築等工事関係者)が多く来所している。
これまでの保全の状況	
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的に行政サービスを提供する責務がある一方で、施設面においては老朽化しているため改修等の手当てをする必要があり、第2段階の結果のとおり、継続・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価



施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めつつ、中期的には建替えも含めた改修を検討していく必要がある施設

# 施設アセスメントシート

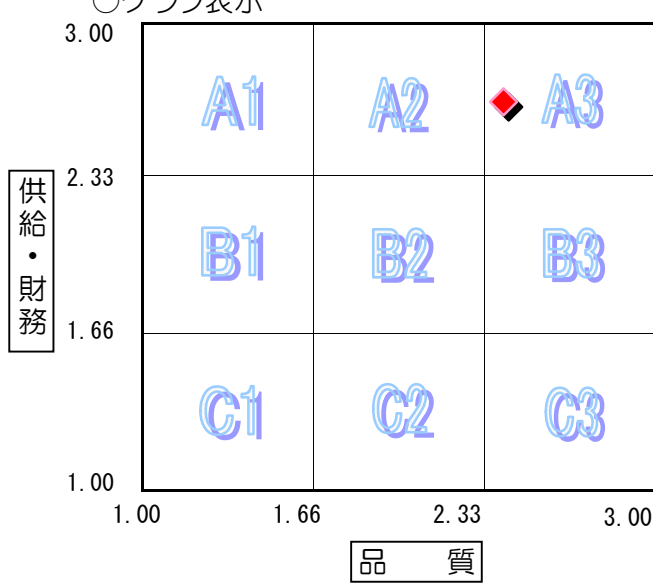
基本情報	施設番号	291113011005	施設名称	島田土木事務所		外部
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	島田土木事務所		
	用途	庁舎等		設置年	2000	
	施設目的	管内(島田市、藤枝市、焼津市、牧之原市、吉田町、川根本町)の土木行政事務を行う職員の庁舎				
	敷地面積	11,137.17 m <sup>2</sup>	延床面積	4,188.58 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	575,298 千円	建物台帳価格	737,838 千円		
	用途地域	第1種住居専用地域	路線価	54,000 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅: JR六合駅から徒歩8分				

◆ 第1段階 A3    品質 2.50点    供給・財務 2.67点

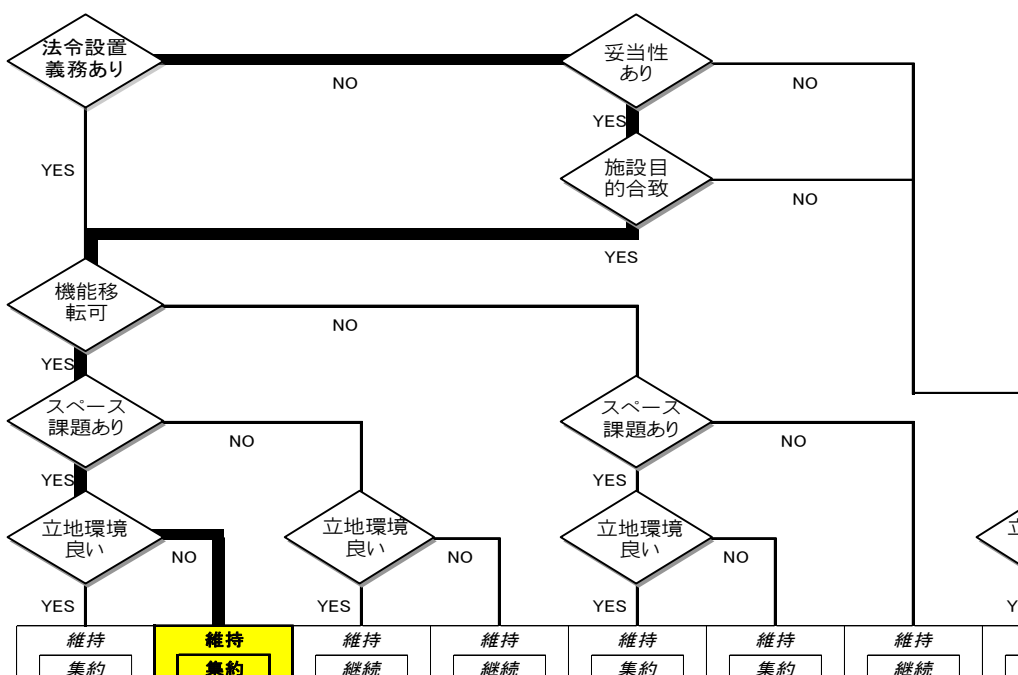
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	16.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2000.0年 2.00点
		外壁	2000.0年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2000.0年 2.00点
		受変電設備	2000.0年 2.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.97GJ (38.26)	1.00点
供給	面積/人数	10.57m <sup>2</sup> (45.58)	3.00点
財務	コスト/人	188,604円 (44.88)	3.00点
財務	コスト/面積	5,358円 (47.63)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 集約



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	YES
スペース課題あり	YES
立地環境良	NO

◆第3段階

コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	949	百万円	維持管理費 B(※2)	198	百万円
	使用年数 A(※1)	16.0	年	小計	1,147	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	241	百万円	維持管理費 (※3)	124	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	365	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	241	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	1,211	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	1,959	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	平日昼間は一般県民(各種許可申請・届出・証明願等)及び業者(土木・建築等工事関係者)が多く来所している。
これまでの保全の状況	外壁タイル張りが劣化(C判定)しており、地震等の大きな力が加わった場合、タイルが落下するおそれがある。
その他	

財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的にサービスを提供する責務があり、施設面においては徐々に老朽化をするため改修ながらも集約を検討する必要があり、第2段階の結果のとおり、集約・維持とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	



総合評価

施設面: **維持**

運用面: **集約**

補足	施設の状態は良好であるため引き続き適正に管理していくが、スペースに課題(旧空港建設事務所の移転に伴う空きスペース)があるため、他の機能を取り込む等の検討をする必要がある施設。
----	---

# 施設アセスメントシート

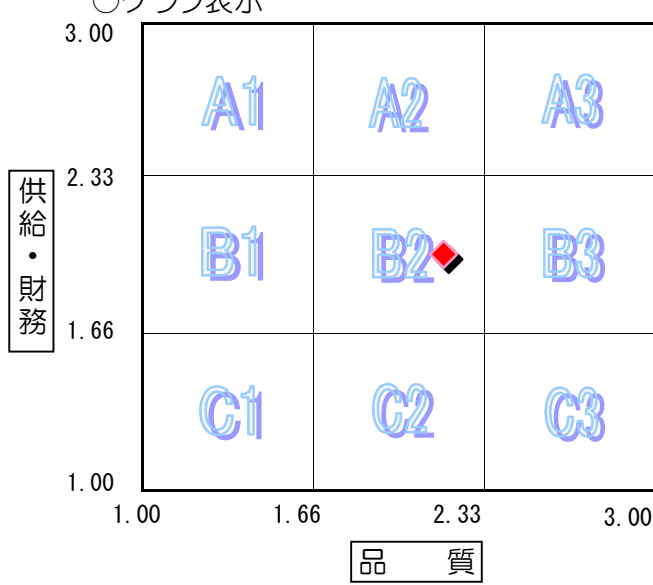
基本情報	施設番号	291117011001	施設名称	袋井土木事務所		外部 
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	袋井土木事務所		
	用途	庁舎等		設置年	1979	
	施設目的	管内(御前崎市、菊川市、掛川市、袋井市、森町、磐田市)の土木行政事務を行う職員の庁舎				内部 
	敷地面積	0.00 m <sup>2</sup>		延床面積	2,454.22 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	0 千円		建物台帳価格	224,376 千円	
	用途地域	指定なし		路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅:JR 袋井駅から徒歩5分				

◆ 第1段階 B2    品質 2.25点    供給・財務 2.00点

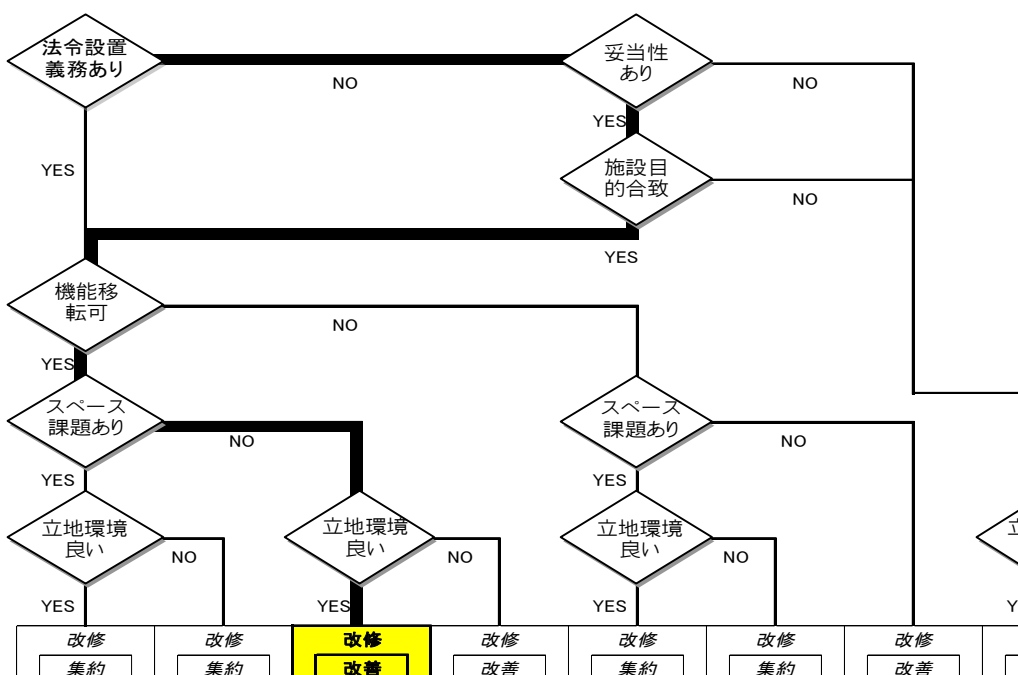
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	37.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水 2007.0年	3.00点
		外壁 2005.0年	2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備 1996.0年	2.00点
		受変電設備 2013.0年	3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.11GJ (34.00)	1.00点
供給	面積/人数	7.83m <sup>2</sup> (39.40)	1.00点
財務	コスト/人	179,482円 (44.72)	3.00点
財務	コスト/面積	7,459円 (50.64)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	YES
スペース課題あり	NO
立地環境良	YES

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	383	百万円	維持管理費 B(※2)	232	百万円
	使用年数 A(※1)	37.0	年	小計	615	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	141	百万円	維持管理費 (※3)	63	百万円
	大規模改修費	568	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	773	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	141	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	710	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	1,148	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	県の行政機関として来庁者から有効に利用されている。
これまでの保全の状況	・直流電源設備H26劣化診断C・冷温水機H23劣化診断Bなど
その他	県の行政機関として機構改革等特殊事情がない限り引き続き利用することが求められる。

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的に行政サービスを提供する責務がある一方で、施設面においては築36年を超えて老朽化しているため改修等の手当てをする必要があり、第2段階の結果のとおり、改善・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価


施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

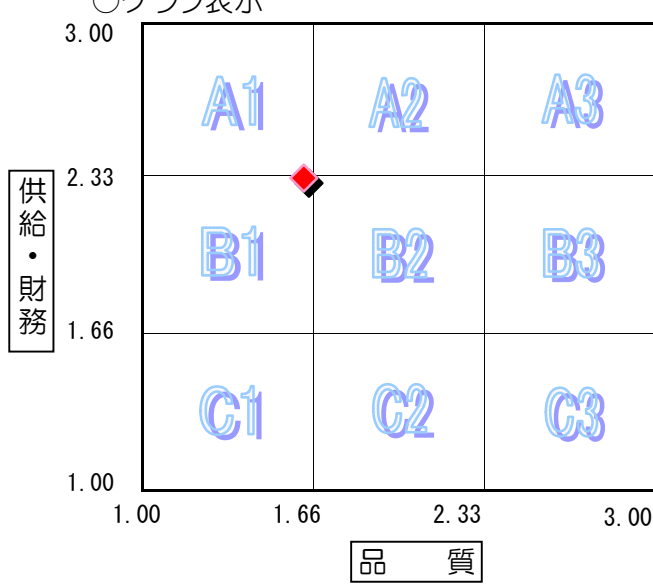
基本情報	施設番号	291117011002	施設名称	袋井土木事務所掛川支所	外部
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	袋井土木事務所	
	用途	庁舎等	設置年	1974	
	施設目的	管内(御前崎市、菊川市、掛川市)の土木行政事務を行う職員の庁舎			
	敷地面積	2,521.78 m <sup>2</sup>	延床面積	280.47 m <sup>2</sup>	内部
	土地台帳価格	146,108 千円	建物台帳価格	7,522 千円	
	用途地域	住居地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅:JR掛川駅から 徒歩25分			

◆第1段階 A2    品質 1.67点    供給・財務 2.33点

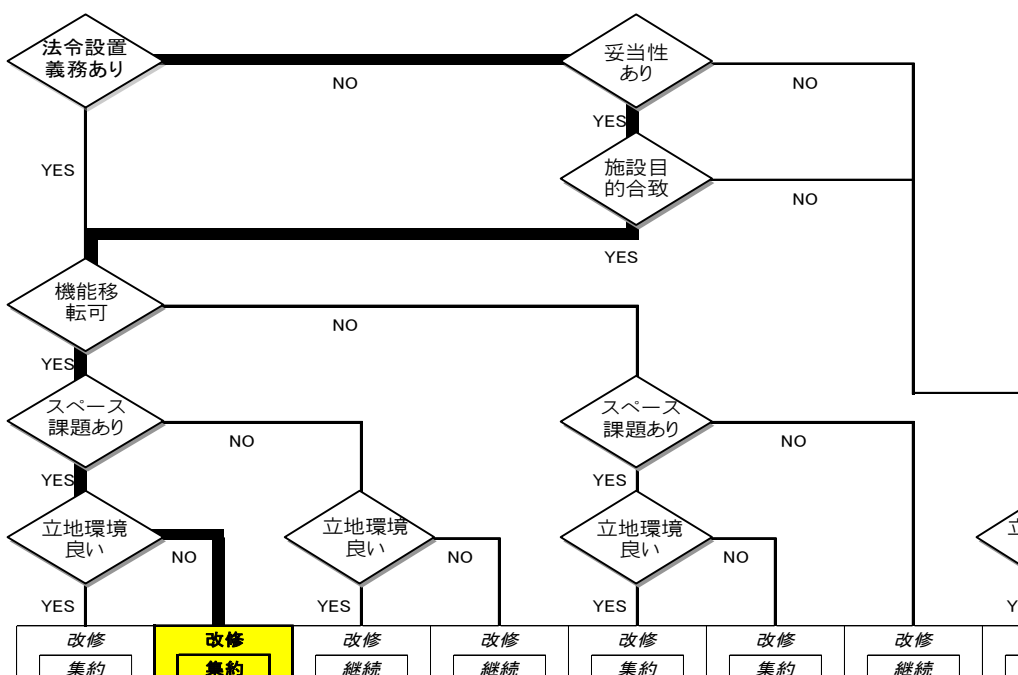
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	42.0年	1.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2011.0年 3.00点
		外壁	2004.0年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2001.0年 2.00点
		受変電設備	- -
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.42GJ (25.25)	1.00点
供給	面積/人数	10.56m <sup>2</sup> (45.54)	3.00点
財務	コスト/人	177,548円 (44.68)	3.00点
財務	コスト/面積	11,395円 (56.28)	1.00点

○グラフ表示



◆第2段階 施設面: 改修    運用面: 集約



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	YES
スペース課題あり	YES
立地環境良い	NO

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	10	百万円	維持管理費 B(※2)	78	百万円
	使用年数 A(※1)	42.0	年	小計	88	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	16	百万円	維持管理費 (※3)	19	百万円
	大規模改修費	65	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	100	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	16	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	81	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	131	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	県の行政機関として来庁者から有効に利用されている。
これまでの保全の状況	建設当初から、アスベストを含んだ吹付けロックウールが天井裏に使用されている。平成17年度調査以降、毎年、事務室内(既存部分・増築部分)の濃度測定を実施しているが、「空気中への飛散はない」との結果を得ている。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	西部健康福祉センター掛川支所の空きスペースに移転(平成28年度に移転改修工事を実施)したため、第2段階の結果のとおり、集約・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価



施設面: **売却**

運用面: **移転**

補足	現行計画(移転建て替え)に沿って、移転・売却を図っていく施設
----	--------------------------------



# 施設アセスメントシート

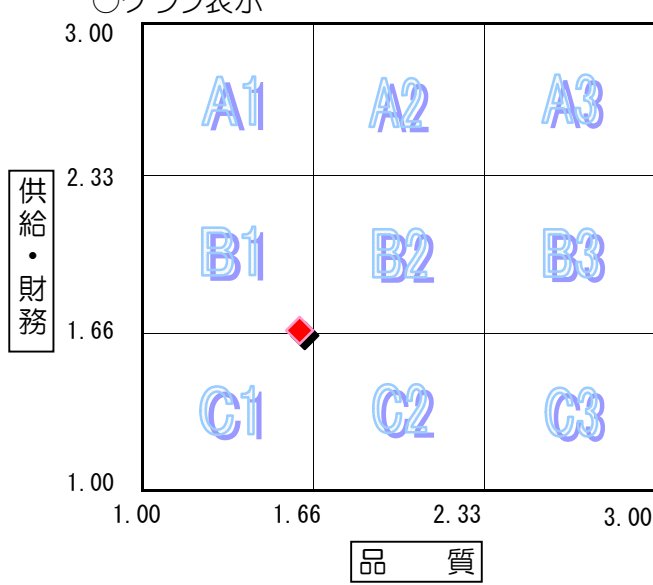
基本情報	施設番号	291121011005	施設名称	浜松土木事務所新居分庁舎	外部 
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	浜松土木事務所	
	用途	庁舎等	設置年	1982	
	施設目的	庁舎			内部 
	敷地面積	1,597.89 m <sup>2</sup>	延床面積	228.15 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	44,513 千円	建物台帳価格	28,060 千円	
	用途地域	工業地域	路線価	11,400 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅: JR新居町駅から 徒歩15分			

◆ 第1段階 **B1**    品質 1.65点    供給・財務 1.67点

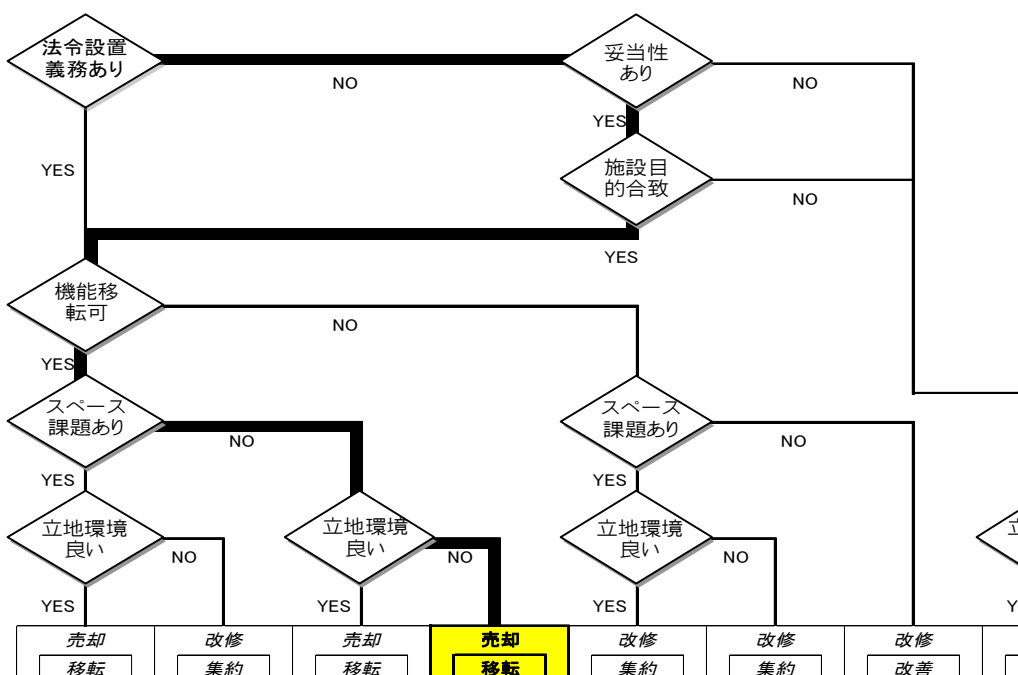
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	34.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1982.0年 1.00点
		外壁	1982.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1982.0年 1.00点
		受変電設備	1982.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.30GJ (28.64)	1.00点
供給	面積/人数	8.00m <sup>2</sup> (39.78)	1.00点
財務	コスト/人	340,510円 (47.65)	2.00点
財務	コスト/面積	10,447円 (54.92)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 **施設面: 売却**    **運用面: 移転**



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	YES
スペース課題あり	NO
立地環境良	NO

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	55	百万円	維持管理費 B(※2)	23	百万円
	使用年数 A(※1)	34.0	年	小計	78	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	7	百万円	維持管理費 (※3)	7	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	13	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	13	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	66	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	107	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	平成29年3月31日廃止(予定) 第4次地震被害想定津波浸水区域にあるため、浜松土木事務所(本所)へ統合する。
現在の利用状況	工事課新居班員6名が勤務。
これまでの保全の状況	出先機関庁舎等維持補修工事等(250万円未満)により雨漏り補修工事(137千円)や換気扇修繕(195千円)を実施。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	第4次地震被害想定津波浸水区域に存在しているため、平成29年4月1日に浜松土木事務所(本所)へ統合するが、施設の処分及び利活用については今後多角的に検討する。
上を裏付ける根拠(ある場合)	



#### □総合評価

施設面: **売却**

運用面: **移転**

補足	施設の老朽化が進んでおり、また、津波浸水域に立地することから移転するが、処分及び利活用については今後検討していく必要がある施設。
----	--

# 施設アセスメントシート

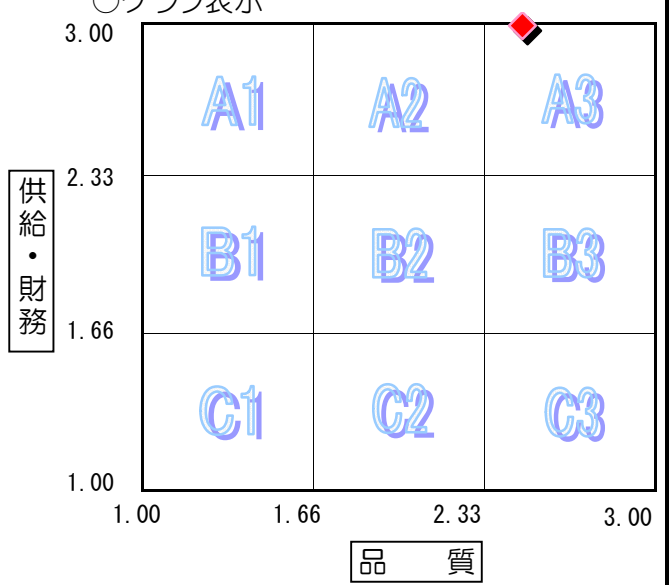
基本情報	施設番号	291121011012	施設名称	旧天竜土木事務所佐久間支所	外部 	
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	浜松土木事務所		
	用途	庁舎等	設置年	1996		
	施設目的	廃止				内部 
	敷地面積	0.00 m <sup>2</sup>	延床面積	588.28 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	177,143 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅: JR佐久間駅から 徒歩10分				

◆ 第1段階 A3    品質 2.58点    供給・財務 3.00点

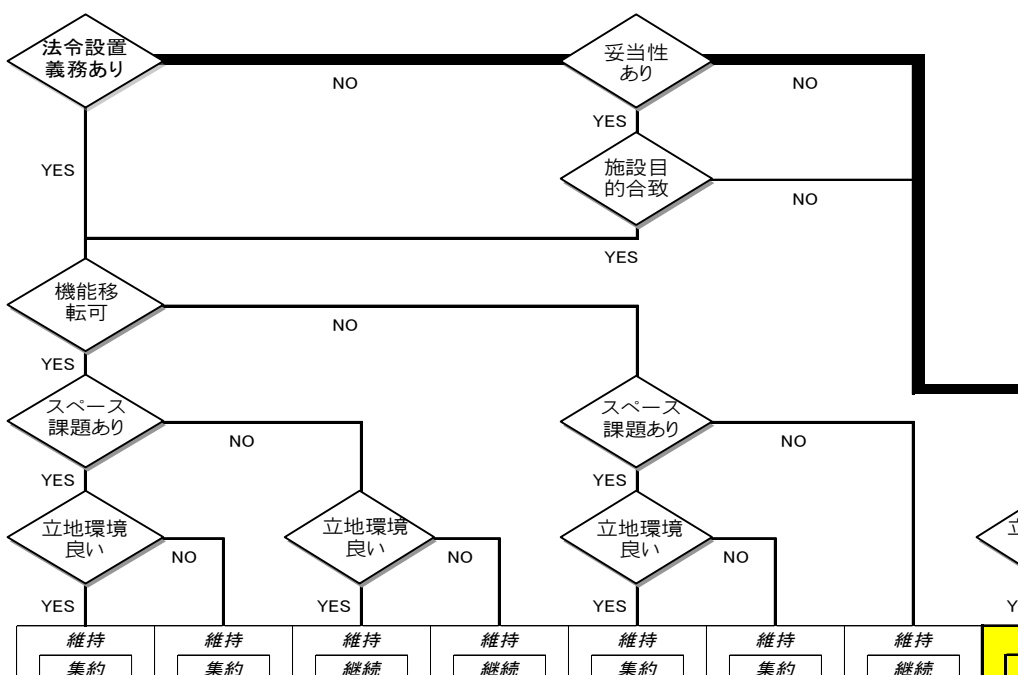
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	20.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1996.0年 2.00点
		外壁	1996.0年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1996.0年 2.00点
		受変電設備	1996.0年 2.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 -
品質	エネルギー/面積	0.04GJ (65.27)	3.00点
供給	面積/人数	-	-
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	235円 (40.30)	3.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 売却    運用面: 廃止



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	NO
設置目的適合	-
機能移転可	-
スペース課題あり	-
立地環境良	YES

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	274	百万円	維持管理費 B(※2)	23	百万円
	使用年数 A(※1)	20.0	年	小計	297	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	17	百万円	維持管理費 (※3)	7	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	24	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	34	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	170	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	275	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	平成18年度をもって支所としての機能を廃止し、以降未利用の状態が続いている。 ※土地は借地
これまでの保全の状況	雨漏りにより天井が崩落するなど、庁舎の老朽化が進んでいるが、これまで特に修繕等は行っていない。
その他	地元住民からは長期間放置されているのは好ましくないため、早く処分を求める声が出ている。

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	これまで庁内や浜松市、民間事業者からの利用希望はなく、施設に求められる社会的ニーズは皆無であるため、第2段階の結果のとおり、廃止・売却(解体)とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	



#### □総合評価

施設面: 処分

運用面: 廃止

補足	機能は廃止されており、他の用途への転用の可能性も低いことから、処分を検討していく必要がある施設。 ※土地が借地であるため、施設面の分類は「処分」とする。
----	---

# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	291121011021	施設名称	旧天竜土木事務所春野支所	外部 	
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	浜松土木事務所		
	用途	庁舎等	設置年	1989		
	施設目的	廃止				内部 
	敷地面積	3,381.62 m <sup>2</sup>	延床面積	526.38 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	24,203 千円	建物台帳価格	87,094 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅:遠州鉄道 西鹿島駅から バス60分				

◆ 第1段階 **A1**    品質 1.61点    供給・財務 3.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	27.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1989.0年 1.00点
		外壁	1989.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1989.0年 1.00点
		受変電設備	1989.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 -
品質	エネルギー/面積	-	-
供給	面積/人数	-	-
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	122円 (40.14)	3.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 **施設面: 売却**    **運用面: 廃止**

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	NO
設置目的適合	-
機能移転可	-
スペース課題あり	-
立地環境良	YES

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	134	百万円	維持管理費 B(※2)	2	百万円
	使用年数 A(※1)	27.0	年	小計	136	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	15	百万円	維持管理費 (※3)	1	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	16	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	30	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	152	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	246	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	平成18年度をもって支所としての機能を廃止し、以降未利用の状態が続いている。
これまでの保全の状況	庁舎の基礎部分に亀裂(ズレ)が生じるなど、庁舎の老朽化が進んでいるが、これまで特に修繕等は行っていない。
その他	地元住民からは長期間放置されているのは好ましくないため、早く処分を求める声が出ている。

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	これまで庁内や浜松市からの利用希望はなく、施設に求められる社会的ニーズは皆無であるため、第2段階の結果のとおり、廃止・売却とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	



#### □総合評価

施設面: **売却**

運用面: **廃止**

補足	機能は廃止されており、他の用途への転用の可能性も低いことから、処分を検討していく必要がある施設。
----	--

# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	291125011002	施設名称	田子の浦港管理事務所	外部
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	田子の浦港管理事務所	
	用途	庁舎等	設置年	1994	
	施設目的	港湾管理事務所			内部
	敷地面積	2,911.02 m <sup>2</sup>	延床面積	1,508.68 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	143,888 千円	建物台帳価格	378,114 千円	
	用途地域	工業地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅: JR吉原駅から徒歩5分			
					

◆ 第1段階 A2    品質 2.10点    供給・財務 2.33点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	22.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1994.0年 1.00点
		外壁	2010.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2013.0年 3.00点
		受変電設備	1994.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.49GJ (51.97)	2.00点
供給	面積/人数	12.20m <sup>2</sup> (49.26)	3.00点
財務	コスト/人	272,858円 (46.42)	2.00点
財務	コスト/面積	3,798円 (45.40)	2.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 継続

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良い	-



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	610	百万円	維持管理費 B(※2)	66	百万円
	使用年数 A(※1)	22.0	年	小計	676	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	87	百万円	維持管理費 (※3)	30	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	117	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	87	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	436	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	706	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	来客数は少ないが、入出港届の提出などで、港湾関係者が、毎日来庁している。 また、事業進捗に係る地元説明の為、月に1回、夜間も開庁している。
これまでの保全の状況	(1) 屋上防水:各所で防水シート内への雨水の浸入がみられ、3階の天井には雨漏り跡も見られる。 →修理歴:玄関(H.15¥98,700-、H.26¥50,760-)、ポンプ室(H.21¥195,300-)、DS塔(H.27¥278,640-) (2) 壁面:何度か雨漏りが発生し修繕実施。全体的にタイル浮きとシーリング材劣化あり。 →修理歴:出窓(H.16¥299,250-、H.17¥525,000-、H.22¥693,000-)、通用口(H.27¥420,120-) (3) 外部に露出している金属部分(エアコン室外機、浄化槽の蓋、扉):各所で錆が発生している。 →修理歴:電気室鉄扉取換え(H.18¥714,000-)、自動ドア脇固定ガラス枠取替え(H.20¥283,500-、 H.25¥315,000-)、オイルフェンス収納庫フランス落し交換(H.24¥60,900-)、庁舎南面及び西面鉄扉錆止め補修(H.24¥178,500-)、郵便受取換(H.25¥89,775-)
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的に港を管理する責務があるが、施設面においては老朽化が進んでいることから、第2段階の結果のとおり継続・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価



施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、計画的な保全を適切に実施していくべき施設。

# 施設アセスメントシート

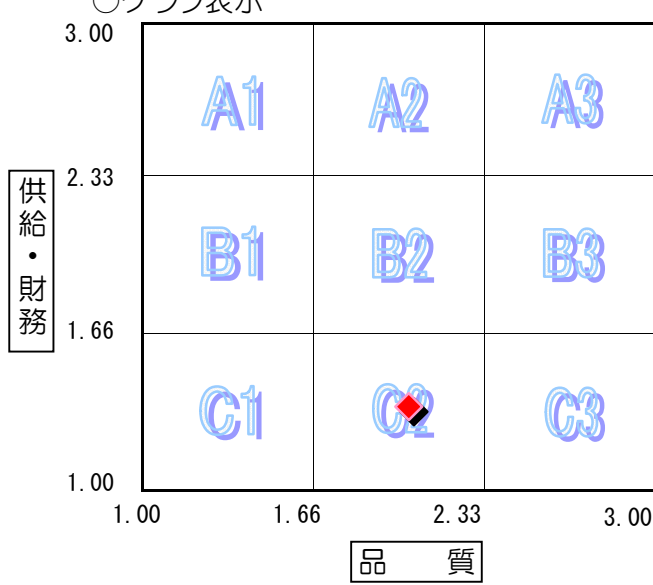
基本情報	施設番号	291127011003	施設名称	清水港管理局	外部
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	清水港管理局	
	用途	庁舎等	設置年	1986	
	施設目的	港湾管理事務所			
	敷地面積	1,694.26 m <sup>2</sup>	延床面積	3,146.17 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	95,798 千円	建物台帳価格	505,384 千円	
	用途地域	工業地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅:清水駅から バス15分			

◆ 第1段階 C2    品質 2.11点    供給・財務 1.33点

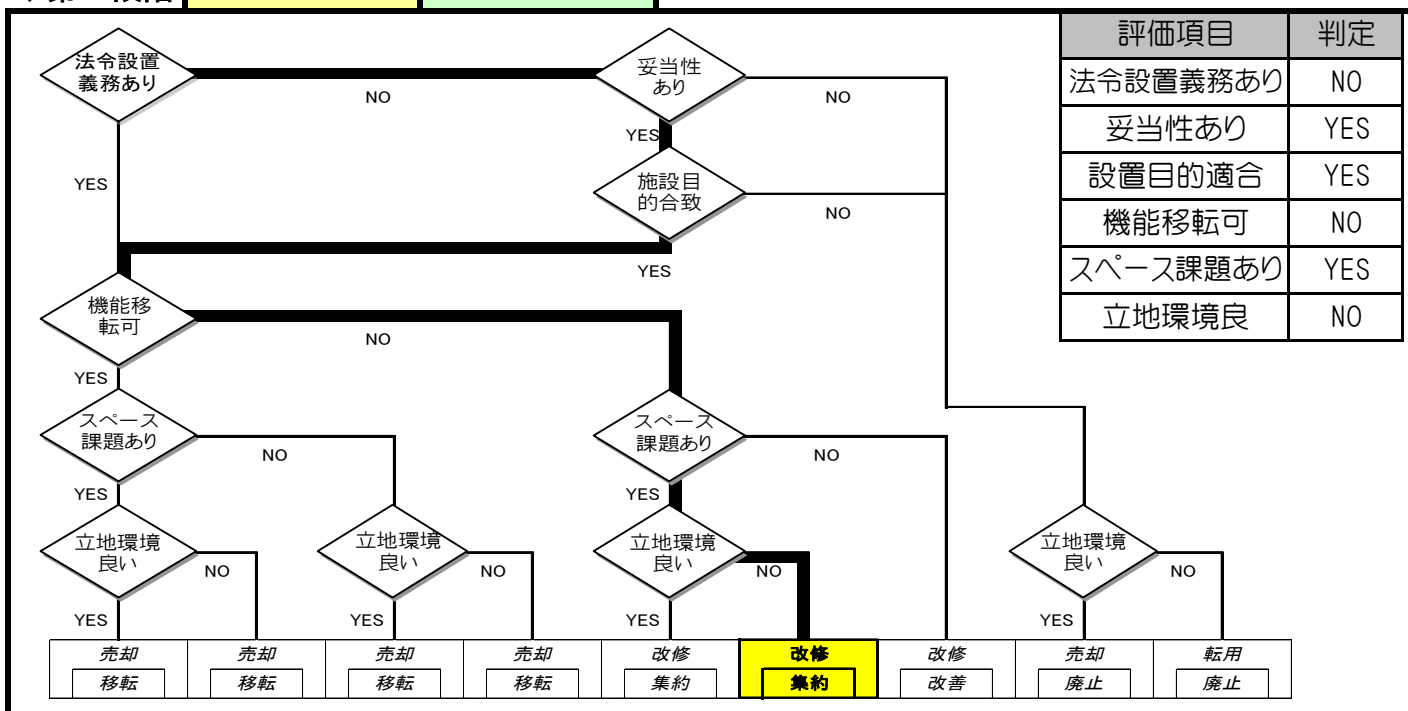
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	30.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1986.0年 1.00点
		外壁	2014.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2011.0年 3.00点
		受変電設備	1986.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	-	-
供給	面積/人数	16.38m <sup>2</sup> (58.67)	2.00点
財務	コスト/人	1,447,150円 (67.84)	1.00点
財務	コスト/面積	18,399円 (66.31)	1.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 集約



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	832	百万円	維持管理費 B(※2)	452	百万円
	使用年数 A(※1)	30.0	年	小計	1,284	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	181	百万円	維持管理費 (※3)	151	百万円
	大規模改修費	729	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	1,061	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	181	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	910	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	1,471	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	庁舎及び地震時の防災拠点
これまでの保全の状況	室内壁面クロス剥離(C判定)(県専用部H28年度予算要求)、窓枠の防水機能の劣化による雨水の吹込み(県専用部H28年度予算要求)、冷却塔の劣化(C判定)冷暖房施設更新の中で検討中、非常用発電機(C判定)防災対応機能をを含めた更新で検討中 H26 外壁改修工事(県負担 1,319万円)非常用放送設備取替工事(県負担 217万円) H25 昇降機改修工事(県負担621万円)
その他	築30年が経過、建築当時の施設設備が劣化、交換の時期に来ている。 当建物は、静岡市と区分所有しており、共用施設設備の修繕は、協調して予算化する必要がある。

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後とも継続して維持していく必要がある一方で、施設面では、築30年が経過、施設設備が劣化、交換の時期に来ており、第2段階の結果のとおり集約・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	



#### □総合評価

施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足 施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、スペースの活用に課題があるため、他の機能を取り込む等、集約を図る必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

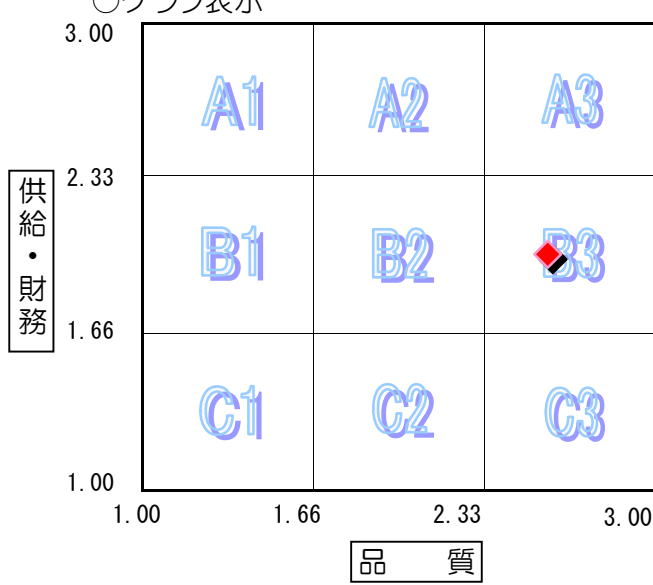
基本情報	施設番号	291127012004	施設名称	清水港湾交流センター	外部
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	清水港管理局	
	用途	集客施設	設置年	1999	
	施設目的	・製品輸入など国際経済交流の促進・地域学習と国際文化交流の促進・防災機能と港湾機能の充実			内部
	敷地面積	1,694.26 m <sup>2</sup>	延床面積	2,352.25 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	1,515,280 千円	
	用途地域	工業地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
交通アクセス	最寄り駅:清水駅から バス15分				

## ◆第1段階 B3 品質 2.68点 供給・財務 2.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	17.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1999.0年 2.00点
		外壁	2013.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1999.0年 2.00点
		受変電設備	1999.0年 2.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 -
品質	エネルギー/面積	0.53GJ (55.40)	3.00点
供給	利用者数	-	-
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	7,742円 (51.05)	2.00点

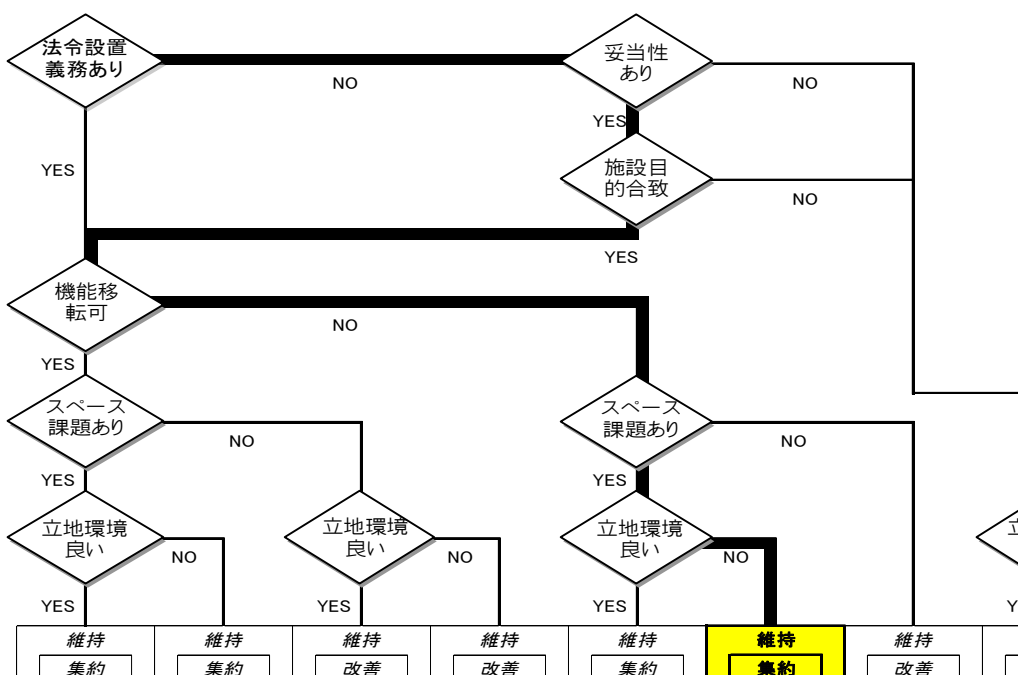
○グラフ表示



供給・財務

品質

## ◆第2段階 施設面: 維持 運用面: 集約



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良	NO

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	1,987	百万円	維持管理費 B(※2)	289	百万円
	使用年数 A(※1)	17.0	年	小計	2,276	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	136	百万円	維持管理費 (※3)	170	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	306	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	136	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	977	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	1,594	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	計画有(清水都心WF地区の整備)
現在の利用状況	1階フェリー待合所については、土曜祝日を中心にクルーズ船の寄港などによる集客があり、平均した利用件数となっている。多目的ホールについては、清水港クルーズセミナーなどの各種イベント誘致や実施により、利用件数及び利用者数ともに回復傾向にある。
これまでの保全の状況	平成24年度に外壁全面打診調査を実施。平成27年度に劣化診断及び定期点検を実施。平成27年度の劣化診断結果からC判定が8件あり。このうち、内壁タイル、非常用照明内蔵蓄電池ほか4件については、平成27年度に修繕済み。残る2件(2階ホール出入口床面、外壁タイル)は、平成28年度に実施予定であるが、外壁タイルについては多額の費用を要することから緊急箇所のみ修繕を行う。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	平成29年度に完了する日の出地区の物流機能移転・集約に合わせ、清水都心WF地区(当該施設を含む)の整備計画を策定し整備を進めるため、当該施設における今後の利用方針が定まっていない現時点では、第2段階の結果のとおり集約・維持とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	



#### □総合評価

施設面: **維持**

運用面: **集約**

補足 施設の状態は良好であるため引き続き適正に管理していくが、スペースに課題があるため、他の機能を取り込む等の検討をする必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

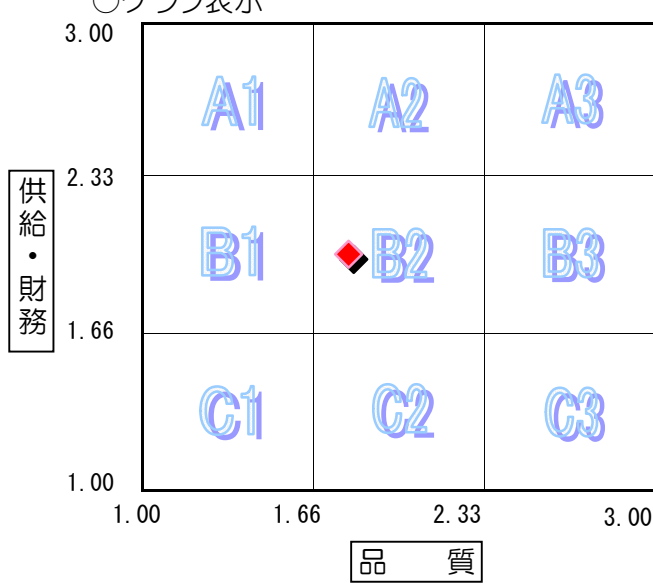
基本情報	施設番号	291129011001	施設名称	御前崎港管理事務所		外部
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	御前崎港管理事務所		
	用途	庁舎等		設置年	1970	
	施設目的	港湾管理事務所				
	敷地面積	0.00 m <sup>2</sup>		延床面積	873.64 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	0 千円		建物台帳価格	11,562 千円	
	用途地域	指定なし		路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅: 菊川駅から バス50分 徒歩20分				

◆ 第1段階 **B2**    品質 1.85点    供給・財務 2.00点

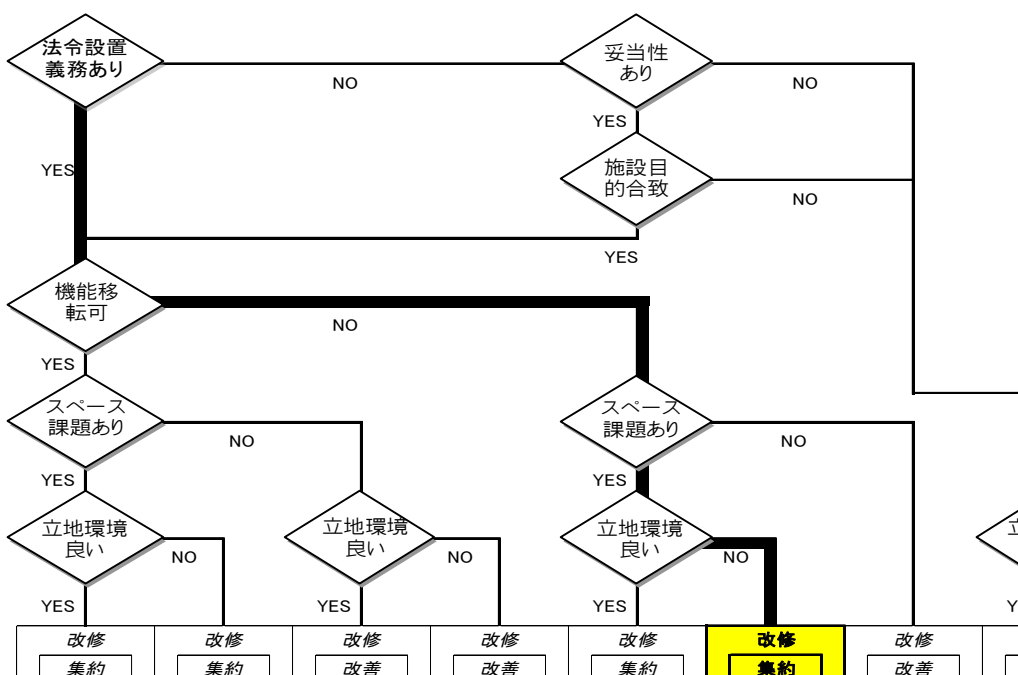
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	43.1年	1.36点
品質	建築劣化度	屋上防水	2009.8年 2.64点
		外壁	2006.1年 2.28点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2003.0年 2.00点
		受変電設備	2010.0年 3.00点
品質	津波性能	1.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.82GJ (42.57)	1.00点
供給	面積/人数	15.63m <sup>2</sup> (57.00)	2.00点
財務	コスト/人	248,079円 (45.97)	2.00点
財務	コスト/面積	5,395円 (47.69)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 **施設面: 改修**    **運用面: 集約**



評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良	NO



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	47	百万円	維持管理費 B(※2)	124	百万円
	使用年数 A(※1)	43.1	年	小計	171	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	50	百万円	維持管理費 (※3)	29	百万円
	大規模改修費	72	百万円	建替え経費	217	百万円
	解体費	13	百万円	小計	381	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	50	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	253	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	409	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	25年度実施の対津波安全性診断の結果、建替が妥当との診断を受け、御前崎港内での建替を実施すべく検討中。
現在の利用状況	港湾管理事務所として日常的に利用している。 ※底地は御前崎港港湾施設用地
これまでの保全の状況	劣化診断を27年度に実施した結果、C判定の箇所が17項目(天井材、床材劣化、電気設備、給排水設備劣化等) 22年度に受電設備交換231万円、25年度に屋上防水61万円、27年度に外部塗装工事87万円実施
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的に港を管理する責務があるが、対津波安全性が担保されていない現状と、建築後46年が経過し老朽化が否めないことから、第2段階の結果のとおり、集約・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価



施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足 老朽化状況から施設は改修とする施設であるが、津波安全対策の必要性及び施設の余剰スペースの増加から集約・改修を検討する必要がある施設。



# 施設アセスメントシート

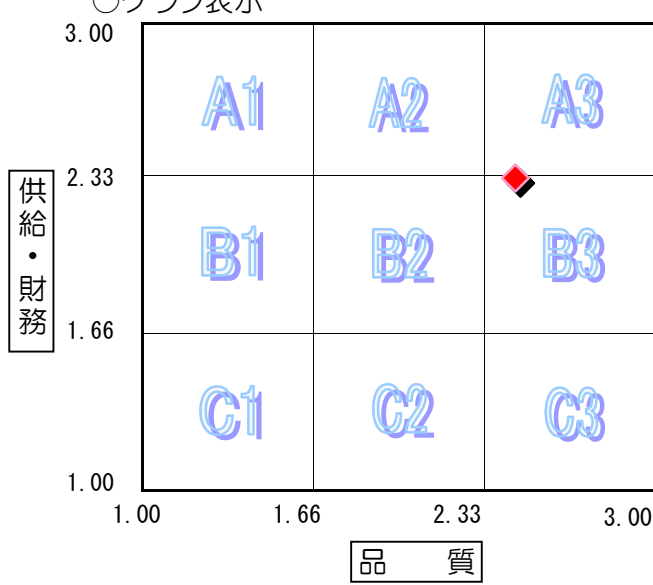
基本情報	施設番号	291600011001	施設名称	静岡県建設技術監理センター	外部
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	技術管理課	
	用途	庁舎等	設置年	1978	
	施設目的	建設工事の事業執行における支援及び執行体制の支援、産学官の連携を実施			
	敷地面積	1,977.40 m <sup>2</sup>	延床面積	1,692.52 m <sup>2</sup>	内部
	土地台帳価格	106,887 千円	建物台帳価格	119,102 千円	
	用途地域	準工業地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅: JR用宗駅から 徒歩12分			

◆ 第1段階 A3    品質 2.55点    供給・財務 2.33点

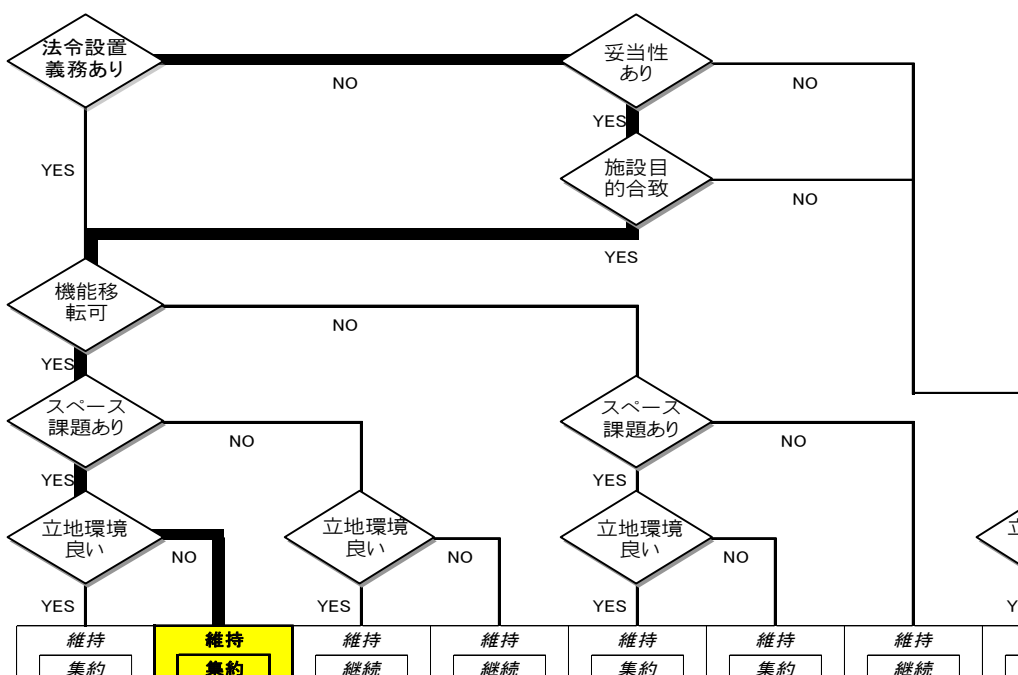
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	38.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2015.0年 3.00点
		外壁	2016.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2010.0年 3.00点
		受変電設備	2013.0年 3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.20GJ (60.65)	3.00点
供給	面積/人数	11.64m <sup>2</sup> (47.98)	3.00点
財務	コスト/人	394,850円 (48.65)	2.00点
財務	コスト/面積	5,132円 (47.31)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 集約



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	YES
スペース課題あり	YES
立地環境良	NO

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	225	百万円	維持管理費 B(※2)	46	百万円
	使用年数 A(※1)	38.0	年	小計	271	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	98	百万円	維持管理費 (※3)	12	百万円
	大規模改修費	392	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	502	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	98	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	490	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	791	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	建設工事の執行等支援や研修施設として、維持して使用していく方針である。
現在の利用状況	2階執務室は常時使用しているほか、1階OA研修室及び2階研修室は、各年間60日程度研修等で使用している。
これまでの保全の状況	過去の修繕・改修 H25:低圧受電切替改修工事(高圧から低圧に切替、819千円) H27:事務棟屋上防水改修工事(C判定、12,847千円) H28:事務棟外壁等修繕工事(C判定、15,963千円)
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	施設面においては、築38年となり老朽化が進んでいるが、運用面においては、今後も建設工事の事業執行や執行体制の支援及び職員等の研修を行っていく必要があるため、第2段階の結果のとおり、集約・維持とすることが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

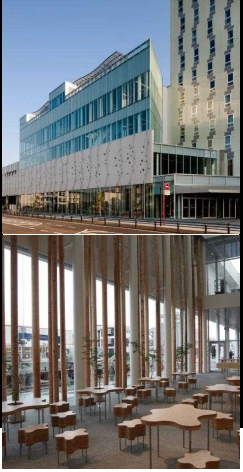
#### □総合評価

施設面: **維持**

運用面: **集約**

補足 施設の状態は良好であるため引き続き適正に管理していくが、スペースに課題があるため、他の機能を取り込む等の検討をする必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

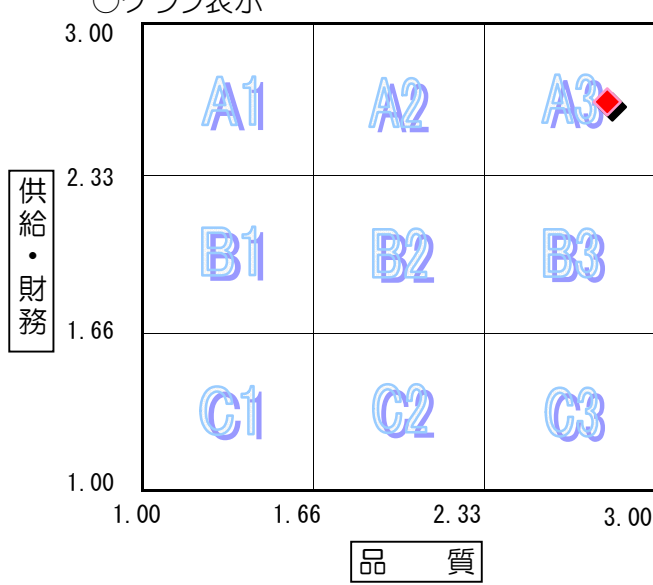
基本情報	施設番号	322300012000	施設名称	プラザヴェルデ		外部	
	財産管理者	文化・観光部	財産事務取扱者	旧 交流推進課			
	用途	貸館施設		設置年	2014		
	施設目的	多様で先進的な人、物及び情報が交流する優れたコンベンション開催の場を提供し、人々の来訪や交流の促進を図り、本県の経済活性化及び文化向上を図る。					
	敷地面積	8,094.61 m <sup>2</sup>	延床面積	15,509.03 m <sup>2</sup>			
	土地台帳価格	954,516 千円	建物台帳価格	7,180,840 千円			
	用途地域	商業地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>			
	交通アクセス	最寄り駅: 沼津駅から徒歩3分					

◆ 第1段階 A3    品質 2.93点    供給・財務 2.67点

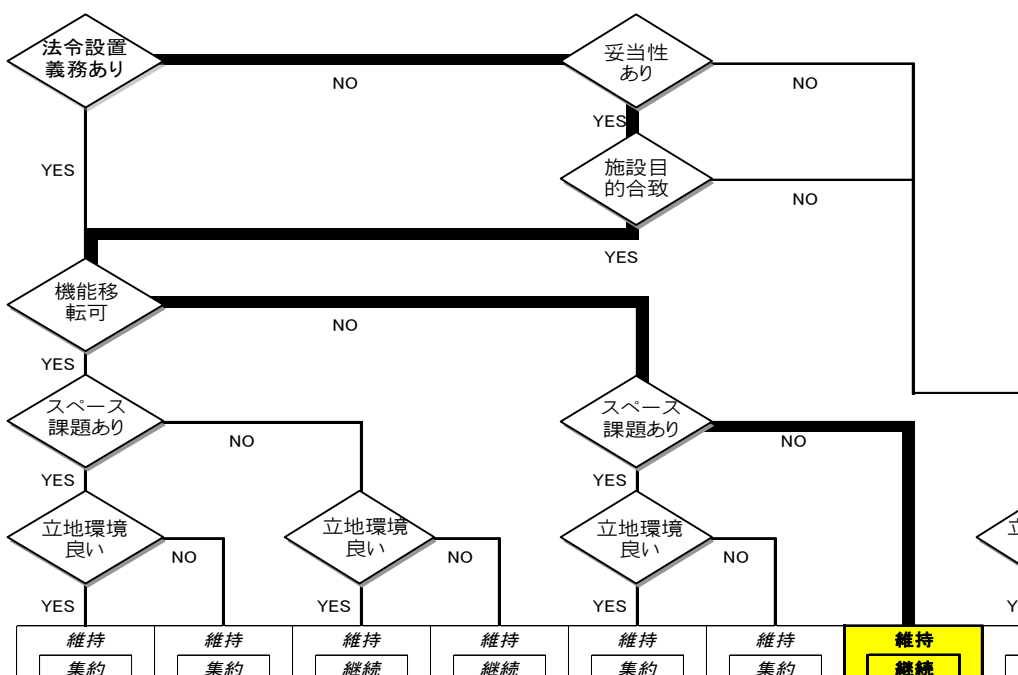
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	2.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2014.0年 3.00点
		外壁	2014.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	-
		受変電設備	-
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 -
品質	エネルギー/面積	0.83GJ (52.41)	2.00点
供給	稼働率	66.7%	3.00点
財務	コスト/人	189円 (41.45)	3.00点
財務	コスト/面積	8,657円 (52.36)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 継続



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

◆第3段階

コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	7,181	百万円	維持管理費 B(※2)	184	百万円
	使用年数 A(※1)	2.0	年	小計	7,365	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	894	百万円	維持管理費 (※3)	922	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	1,816	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	894	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	6,012	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	9,796	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	年間利用者数71.8万人(平成27年度)
これまでの保全の状況	小規模修繕(30万円以下)のものについては、指定管理者が随時行っている。
その他	

財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	年間の利用者数が目標の71万人(平成27年度)をこえ、他県からの人々の来訪や交流の促進により、地域に大きな波及効果を与えているため継続する。
上を裏付ける根拠(ある場合)	経済波及効果調査(平成28年度実施予定)

総合評価



施設面: **維持**

運用面: **継続**

補足

施設の状態及び利用状況も良好であるため、引き続き適正に管理していく施設

# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	322700012002	施設名称	草薙総合運動場		外部 	
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	公園緑地課			
	用途	集客施設		設置年	1973		
	施設目的	県中部地域のスポーツの拠点として、立地、歴史を踏まえ、全県レベルの利用も視野に入れ、地域や利用者が交流できる場としての公園運営を目指す。					内部 
	敷地面積	252,946.80 m <sup>2</sup>	延床面積	60,506.99 m <sup>2</sup>			
	土地台帳価格	36,489,023 千円	建物台帳価格	9,380,942 千円			
	用途地域	住居地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>			
	交通アクセス	最寄り駅: 静鉄県総合運動場駅から徒歩5分					

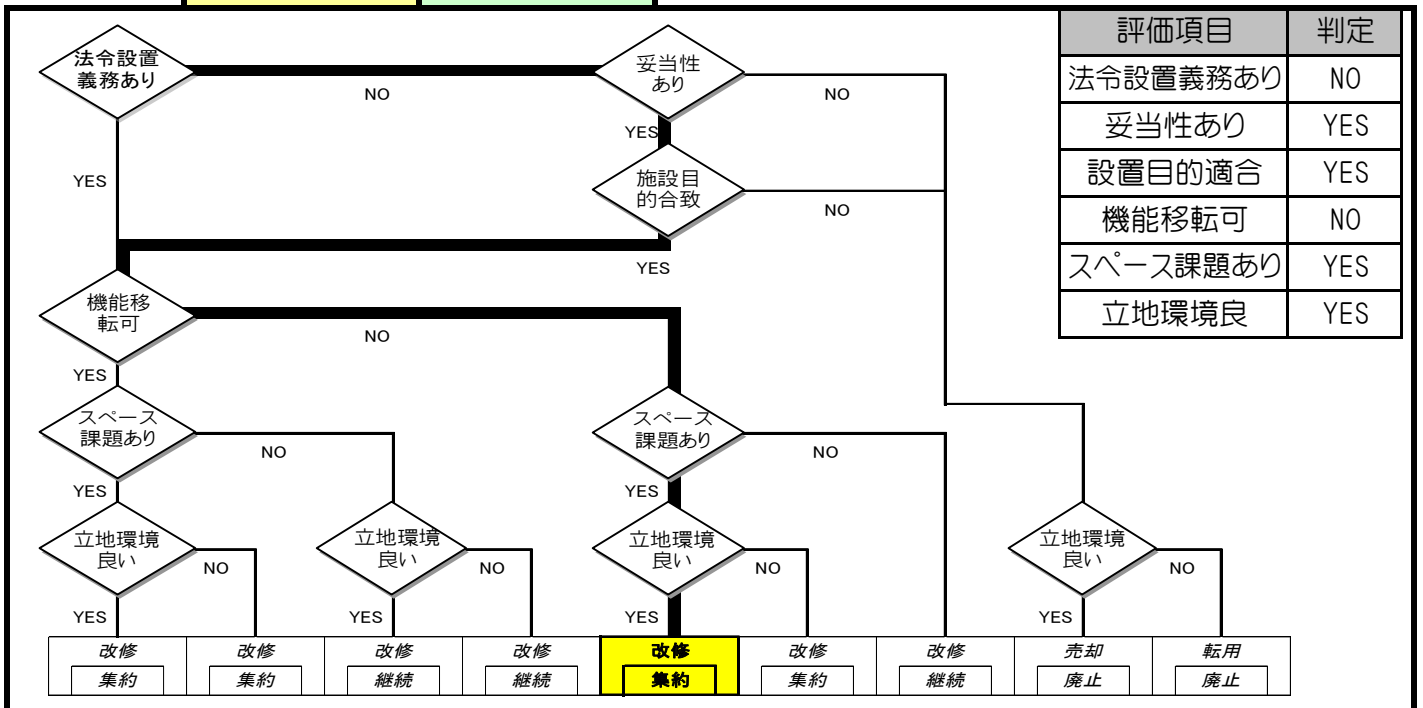
◆ 第1段階 A2    品質 2.10点    供給・財務 2.33点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	25.7年	1.96点
品質	建築劣化度	屋上防水	1996.6年 2.20点
		外壁	1994.4年 2.06点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1994.2年 2.06点
		受変電設備	1990.3年 1.70点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 2.33点
品質	エネルギー/面積	0.25GJ (58.25)	3.00点
供給	利用者数	724,671人 (60.44)	3.00点
財務	コスト/人	6,399円 (41.56)	3.00点
財務	コスト/面積	76,639円 (149.70)	1.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 集約



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	11,863	百万円	維持管理費 B(※2)	3,954	百万円
	使用年数 A(※1)	25.7	年	小計	15,817	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	3,487	百万円	維持管理費 (※3)	1,539	百万円
	大規模改修費	6,398	百万円	建替え経費	5,058	百万円
	解体費	204	百万円	小計	16,686	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	3,487	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	25,125	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	41,002	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	年間を通じて、様々な競技大会が開催されており、さらに駐車場が手狭であるため混雑している。
これまでの保全の状況	球技場、陸上競技場のキュービクルが劣化(C判定)、野球場連絡橋の劣化(C判定)、庭球場屋上防水の劣化(C判定)。リニューアル事業(硬式野球場、室内練習場、体育館)H22～H26、球技場防水工事H23～H24。約4500万円。 陸上競技場スタンド防水工事H26。約1800万円。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的にサービスを提供する責務がある一方で、施設面においては老朽化が深刻化しているため改修しながらも集約を検討する必要がある、第2段階の結果のとおり、集約・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価



施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足 施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、スペースの活用に課題があるため、他の機能を取り込む等、集約を図る必要がある施設。



# 施設アセスメントシート

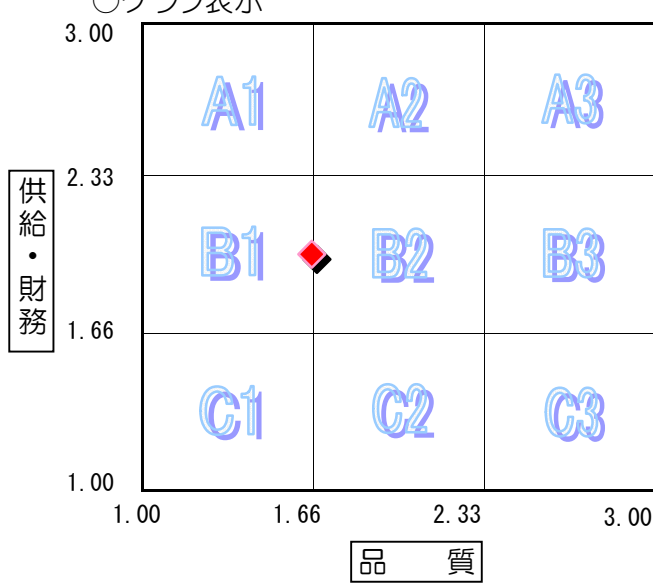
基本情報	施設番号	322700012003	施設名称	遠州灘海浜公園		外部
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	公園緑地課		
	用途	集客施設		設置年	1988	
	施設目的	県西部地域における県民のスポーツ・レクリエーション需要に対応し、また、野鳥観察園等自然環境を生かした環境学習の場としての公園運営を目指す。				
	敷地面積	0.00 m <sup>2</sup>	延床面積	1,606.76 m <sup>2</sup>		内部
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	228,683 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅: JR浜松駅から バス15分				

◆ 第1段階 **B2**    品質 1.70点    供給・財務 2.00点

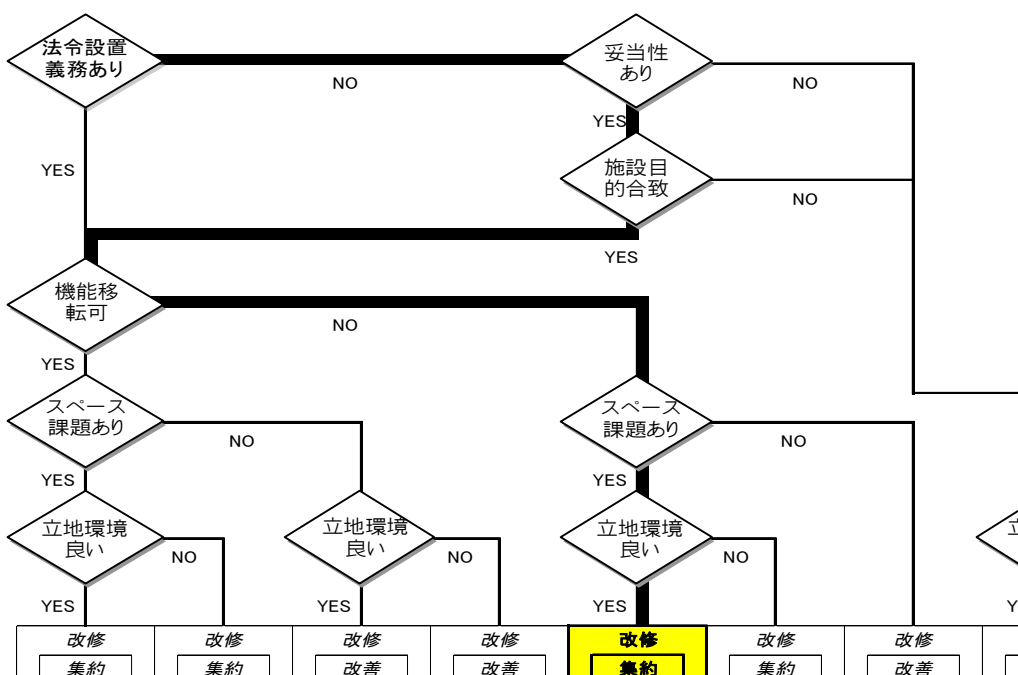
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	27.5年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1988.5年 1.00点
		外壁	1988.5年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1988.5年 1.00点
		受変電設備	1988.5年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.76GJ (53.09)	2.00点
供給	利用者数	129,347人 (45.80)	2.00点
財務	コスト/人	535円 (41.45)	3.00点
財務	コスト/面積	43,037円 (101.59)	1.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 **施設面: 改修**    **運用面: 集約**



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良	YES



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	471	百万円	維持管理費 B(※2)	1,522	百万円
	使用年数 A(※1)	27.5	年	小計	1,993	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	93	百万円	維持管理費 (※3)	553	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	645	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	93	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	667	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	1,089	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	平日は利用者が低迷しているが、週末は大会やイベントにより混雑している。
これまでの保全の状況	キュービクル、発電機が劣化(C判定)、管理棟屋根・外壁の劣化(C判定)。管理棟シーリング工事H26。約1000万円。大型遊具更新工事H27。約8000万円。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的にサービスを提供する責務がある一方で、施設面においては老朽化が深刻化しているため改修しながらも集約を検討する必要があり、第2段階の結果のとおり、集約・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	



#### □総合評価

施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足 施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、スペースの活用に課題があるため、他の機能を取り込む等、集約を図る必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	322700012004	施設名称	愛鷹広域公園		外部 	
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	公園緑地課			
	用途	集客施設		設置年	1995		
	施設目的	県東部地域を代表する野球場、多目的競技場を有する公園として、当地域のスポーツの拠点として、また、自然と親しむ場としての公園運営を目指す。					内部 
	敷地面積	0.00 m <sup>2</sup>	延床面積	13,516.04 m <sup>2</sup>			
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	1,821,968 千円			
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>			
	交通アクセス	最寄り駅: JR沼津駅から バス25分					

◆ 第1段階 A2    品質 2.01点    供給・財務 2.33点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	22.1年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水 2011.1年	2.77点
		外壁 1993.9年	1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備 2002.3年	1.88点
		受変電設備 1993.9年	1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 2.94点
品質	エネルギー/面積	0.29GJ (57.83)	3.00点
供給	利用者数	270,649人 (49.28)	2.00点
財務	コスト/人	459円 (41.45)	3.00点
財務	コスト/面積	9,185円 (53.11)	2.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 集約

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良	NO

◆第3段階

コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	3,266	百万円	維持管理費 B(※2)	1,455	百万円
	使用年数 A(※1)	22.1	年	小計	4,721	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	779	百万円	維持管理費 (※3)	658	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	1,437	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	779	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	5,612	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	9,159	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	平日は利用者が低迷しているが、週末は大会やイベントにより混雑している。
これまでの保全の状況	多目的競技場スタンド防水劣化(C判定)、空調機劣化(C判定) 多目的競技場スタンド防水工事H26。約3000万円
その他	

財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的にサービスを提供する責務がある一方で、施設面においては老朽化が深刻化しているため改修しながらも集約を検討する必要があり、第2段階の結果のとおり、集約・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	



総合評価

施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足 施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、スペースの活用に課題があるため、他の機能を取り込む等、集約を図る必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

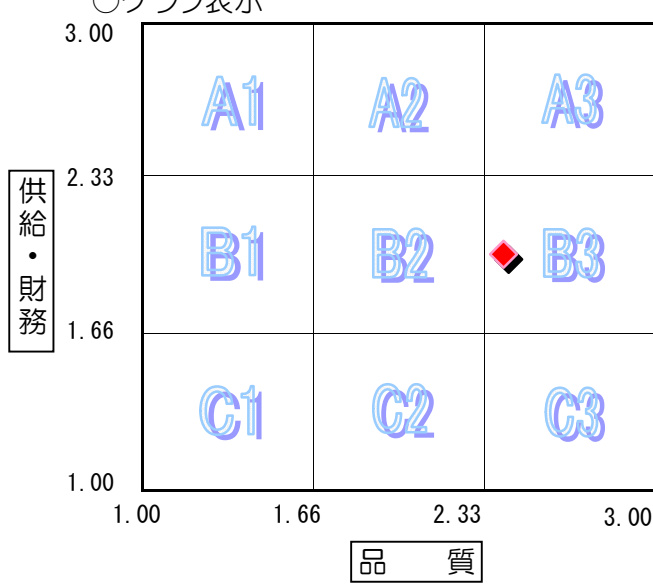
基本情報	施設番号	322700012005	施設名称	吉田公園		外部
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	公園緑地課		
	用途	集客施設		設置年	2001	
	施設目的	花や緑に親しみながらレクリエーションや憩いの場として、誰もが安心して利用できる場を目指し、新しいスタイルの県民参加の公園運営を目指す。				
	敷地面積	143,084.04 m <sup>2</sup>	延床面積	499.62 m <sup>2</sup>		内部
	土地台帳価格	1,696,568 千円	建物台帳価格	14,448 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅: JR藤枝駅から バス25分				

◆ 第1段階 B3    品質 2.50点    供給・財務 2.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

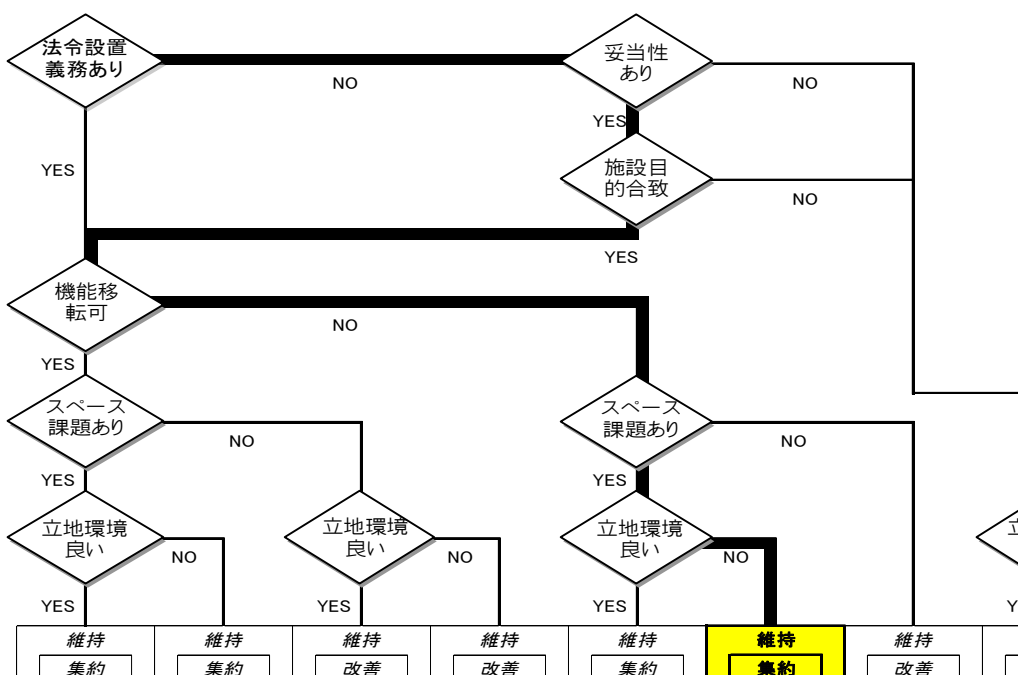
品質	建築後経過年数	15.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2001.0年 2.00点
		外壁	2001.0年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2001.0年 2.00点
		受変電設備	2001.0年 2.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	3.01GJ (30.38)	1.00点
供給	利用者数	223,432人 (48.11)	2.00点
財務	コスト/人	118円 (41.45)	3.00点
財務	コスト/面積	52,811円 (115.58)	1.00点

○グラフ表示



品質

◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 集約



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良	NO

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	112	百万円	維持管理費 B(※2)	289	百万円
	使用年数 A(※1)	15.0	年	小計	401	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	29	百万円	維持管理費 (※3)	193	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	222	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	29	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	207	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	339	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	平日は利用者が低迷しているが、週末はイベントにより混雑している。
これまでの保全の状況	劣化診断対象外 大きな修繕・改修をした履歴なし
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的にサービスを提供する責務があり、施設面においては徐々に老朽化をするため改修しながらも集約を検討する必要があり、第2段階の結果のとおり、集約・維持とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	



#### □総合評価

施設面: **維持**

運用面: **集約**

補足 施設の状態は良好であるため引き続き適正に管理していくが、スペースに課題があるため、他の機能を取り込む等の検討をする必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

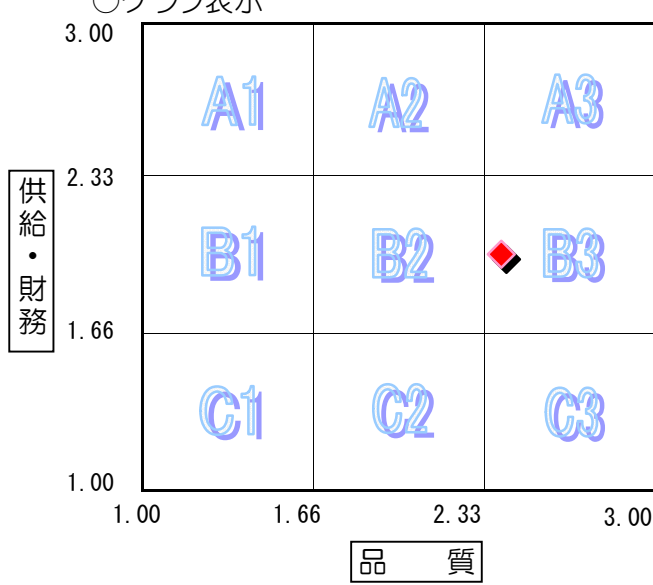
基本情報	施設番号	322700012006	施設名称	富士山こどもの国	外部
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	公園緑地課	
	用途	集客施設	設置年	1999	
	施設目的	次代を担う子ども達が、富士山麓の雄大な自然の中で、友達や家族と元気にのびのびと遊ぶことを通じて、生命の貴さや自然の豊かさを学び、夢や冒険心を育むことができる場として、また、地域や利用者が交流できる場としての			
	敷地面積	0.00 m <sup>2</sup>	延床面積	7,451.95 m <sup>2</sup>	内部
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	1,977,729 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅: JR富士駅から バス50分			

◆ 第1段階 B3    品質 2.49点    供給・財務 2.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

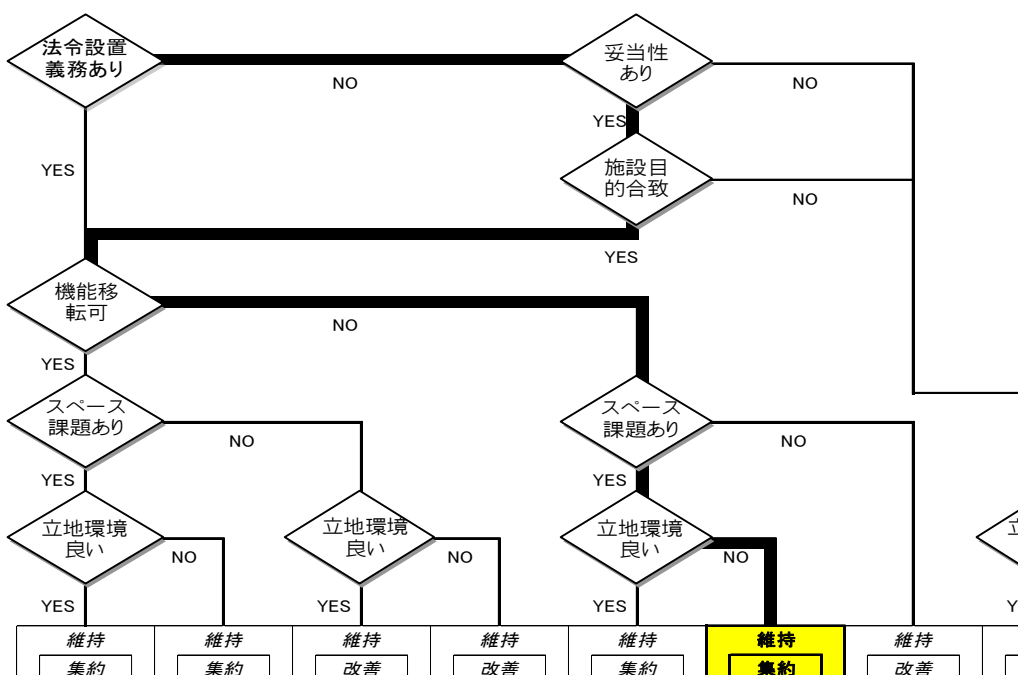
品質	建築後経過年数	17.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水 1999.0年	2.00点
品質		外壁 1999.0年	2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備 1999.0年	2.00点
品質		受変電設備 1999.0年	2.00点
品質	津波性能	3.00点   耐震性能	2.82点
品質	エネルギー/面積	2.19GJ (38.70)	1.00点
供給	利用者数	271,173人 (49.29)	2.00点
財務	コスト/人	518円 (41.45)	3.00点
財務	コスト/面積	18,856円 (66.96)	1.00点

○グラフ表示



品質

◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 集約



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良	NO

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	2,679	百万円	維持管理費 B(※2)	1,200	百万円
	使用年数 A(※1)	17.0	年	小計	3,879	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	429	百万円	維持管理費 (※3)	706	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	1,135	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	429	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	3,094	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	5,050	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	平日は利用者が低迷しているが、週末はイベントにより混雑している。
これまでの保全の状況	屋根・外壁劣化(C判定)、受変電設備劣化(C判定) ボイラー更新工事H24。約10000万円。電話交換機更新工事H25。約18000万円。 パオ改修工事H26～H27。約60000万円。雪設備改修工事H27。約25000万円。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的にサービスを提供する責務があり、施設面においては徐々に老朽化をするため改修ながらも集約を検討する必要があり、第2段階の結果のとおり、集約・維持とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価



施設面: **維持**

運用面: **集約**

補足 施設の状態は良好であるため引き続き適正に管理していくが、スペースに課題があるため、他の機能を取り込む等の検討をする必要がある施設。



# 施設アセスメントシート

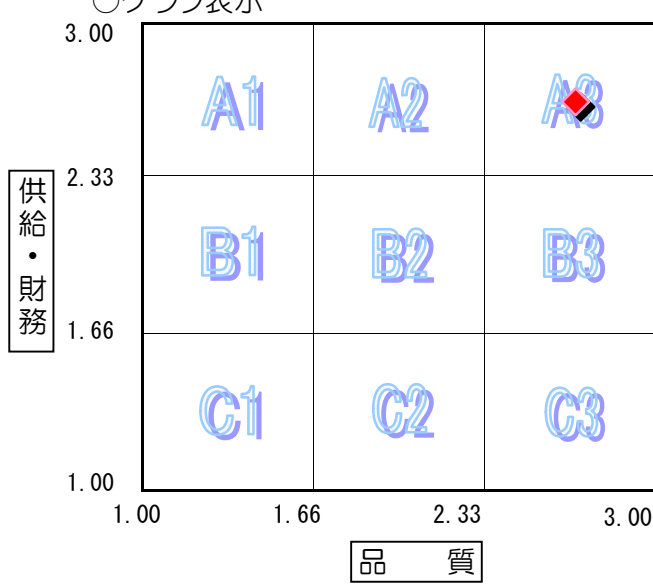
基本情報	施設番号	322700012007	施設名称	小笠山総合運動公園		外部 	
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	公園緑地課			
	用途	集客施設		設置年	2001		
	施設目的	ワールドカップサッカーや国体を開催したトップレベルの競技施設を活かして、「本県スポーツの殿堂」とするとともに、健康づくり、文化・レクリエーション及び自然と親しむ場としての公園運営を目指す。					
	敷地面積	2,653,820.15 m <sup>2</sup>	延床面積	108,645.59 m <sup>2</sup>			内部 
	土地台帳価格	32,888,414 千円	建物台帳価格	31,644,154 千円			
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>			
	交通アクセス	最寄り駅: JR愛野駅から 徒歩15分					

◆ 第1段階 A3    品質 2.80点    供給・財務 2.67点

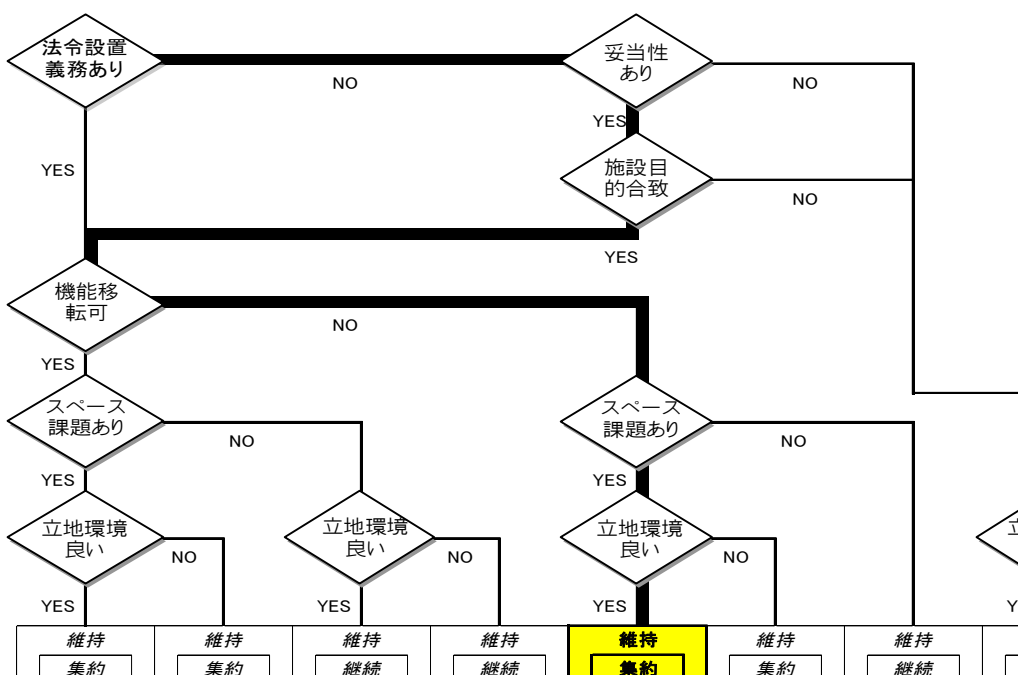
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	14.8年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2001.2年 2.03点
		外壁	2001.2年 2.03点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2013.1年 3.00点
		受変電設備	2012.9年 3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 2.92点
品質	エネルギー/面積	0.31GJ (57.65)	3.00点
供給	利用者数	1,013,073人 (67.53)	3.00点
財務	コスト/人	747円 (41.46)	3.00点
財務	コスト/面積	6,968円 (49.94)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 集約



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良	YES

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	40,773	百万円	維持管理費 B(※2)	9,218	百万円
	使用年数 A(※1)	14.8	年	小計	49,991	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	6,262	百万円	維持管理費 (※3)	6,230	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	12,492	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	6,262	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	45,113	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	73,622	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	平日は利用者が低迷しているが、週末はイベントにより混雑している。
これまでの保全の状況	スタンド防水劣化(C判定)、監視カメラ劣化(C判定)、防排煙設備劣化(C判定) 受変電設備修繕工事H25～H26. 約34000万円。芝生張替工事H26. 約5000万円
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的にサービスを提供する責務があり、施設面においては徐々に老朽化をするため改修しながらも集約を検討する必要があり、第2段階の結果のとおり、集約・維持とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	



#### □総合評価

施設面: **維持**

運用面: **集約**

補足 施設の状態は良好であるため引き続き適正に管理していくが、スペースに課題があるため、他の機能を取り込む等の検討をする必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	322700012008	施設名称	浜名湖ガーデンパーク	外部
	財産管理者	交通基盤部	財産事務取扱者	公園緑地課	
	用途	集客施設	設置年	2003	
	施設目的	浜名湖の恵まれた水辺環境や景観を生かし、多様なレクリエーションの場を提供するとともに、浜名湖花博の資産を継承し、園芸や庭園等の文化の国内外に向けた発信・活動の場となる公園として、幅広い世代に愛される公園を			
	敷地面積	527,306.62 m <sup>2</sup>	延床面積	5,297.52 m <sup>2</sup>	内部
	土地台帳価格	4,008,284 千円	建物台帳価格	1,234,869 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅:JR弁天島駅から バス10分			

## ◆第1段階 A3 品質 2.54点 供給・財務 2.33点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	12.8年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2003.2年 2.05点
		外壁	2003.2年 2.05点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2003.2年 2.05点
		受変電設備	2003.2年 2.05点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 2.39点
品質	エネルギー/面積	1.39GJ (46.71)	2.00点
供給	利用者数	1,516,340人 (79.91)	3.00点
財務	コスト/人	134円 (41.45)	3.00点
財務	コスト/面積	38,477円 (95.06)	1.00点

○グラフ表示

## ◆第2段階 施設面: 維持 運用面: 集約

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良	NO

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	1,859	百万円	維持管理費 B(※2)	2,117	百万円
	使用年数 A(※1)	12.8	年	小計	3,976	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	305	百万円	維持管理費 (※3)	1,656	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	1,961	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	305	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	2,200	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	3,590	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	平日は利用者が低迷しているが、週末はイベントにより混雑している。
これまでの保全の状況	イベントステージ屋根劣化(C判定)、体験学習館外壁劣化、雨漏り(C判定) 遊具修繕工事H24. 約16000万円。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的にサービスを提供する責務があり、施設面においては徐々に老朽化をするため改修しながらも集約を検討する必要があり、第2段階の結果のとおり、集約・維持とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	



#### □総合評価

施設面: **維持**

運用面: **集約**

補足 施設の状態は良好であるため引き続き適正に管理していくが、スペースに課題があるため、他の機能を取り込む等の検討をする必要がある施設。

# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	603200011001	施設名称	緑町車庫		外部 
	財産管理者	出納局	財産事務取扱者	用度課		
	用途	庁舎等		設置年	1970	
	施設目的	公用車駐車				内部 
	敷地面積	1,236.86 m <sup>2</sup>	延床面積	478.58 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	233,236 千円	建物台帳価格	0 千円		
	用途地域	第2種住居専用地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅: 静岡駅から バス15分 徒歩1分				

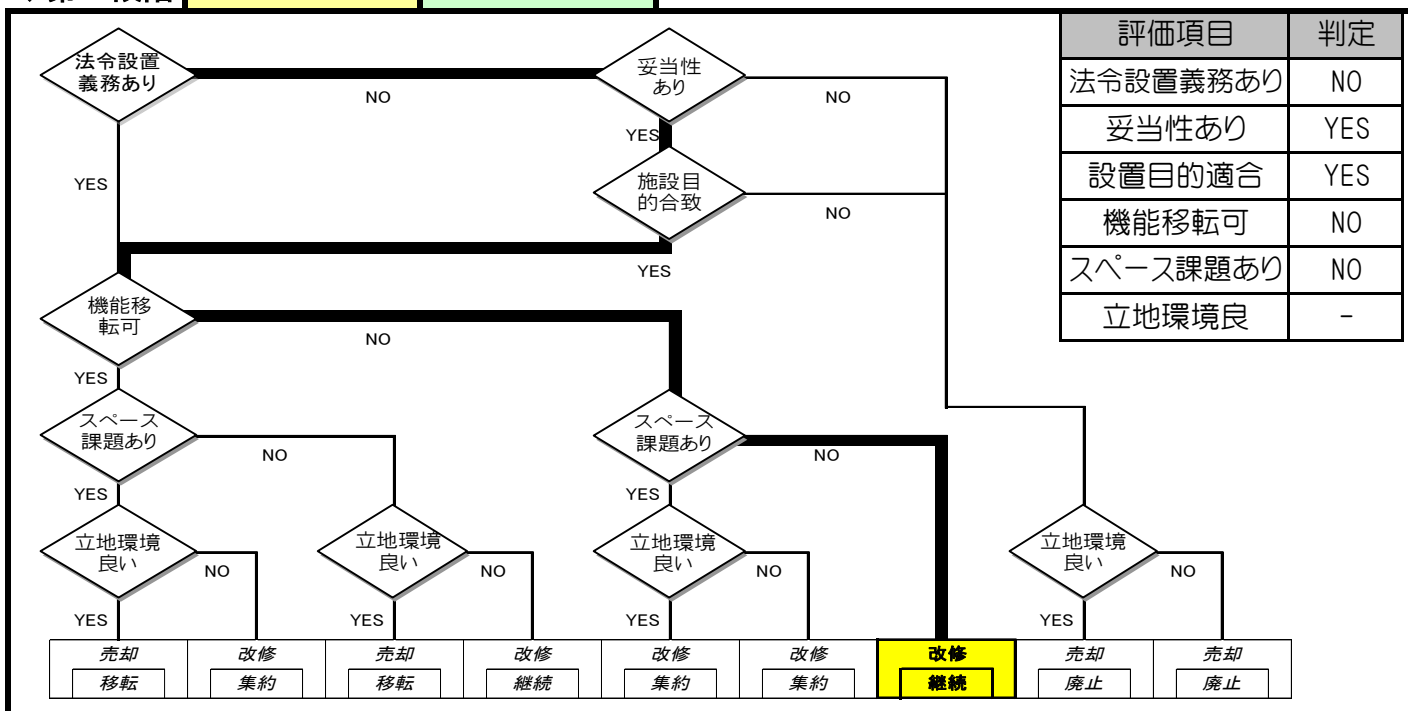
◆ 第1段階 A1    品質 1.17点    供給・財務 3.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	46.0年	1.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	-
		外壁	1970.0年
品質	設備劣化度	空気調和設備	-
		受変電設備	-
品質	津波性能	3.00点	耐震性能
品質	エネルギー/面積	-	-
供給	面積/人数	-	-
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	82円 (40.08)	3.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 継続



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	2	百万円	維持管理費 B(※2)	2	百万円
	使用年数 A(※1)	46.0	年	小計	4	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	14	百万円	維持管理費 (※3)	0	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	14	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	28	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	138	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	224	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	無
現在の利用状況	用度課が管理する公用車のうち、本庁敷地内又は青葉駐車場に駐車できない車両の車庫として利用している。また、各所属から返納された公用車の保管場所として一部を利用している。保管車両に増減があるが、ほぼ満車状態にある。
これまでの保全の状況	乗用車車庫：屋根葺き替え H16 1,176,000円、塗装 H9 819,000円 大型車車庫：屋根葺き替え H2 1,751,000円、塗装 H14 682,500円
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	本庁敷地内等に駐車するのが望ましいが、スペースを確保できないため、当車庫を利用している。これ以上本庁から離れるのは業務上支障があり、機能移転が不可であるため、継続・改修が妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価

施設面: **改修**



運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努める必要がある施設



# 施設アセスメントシート

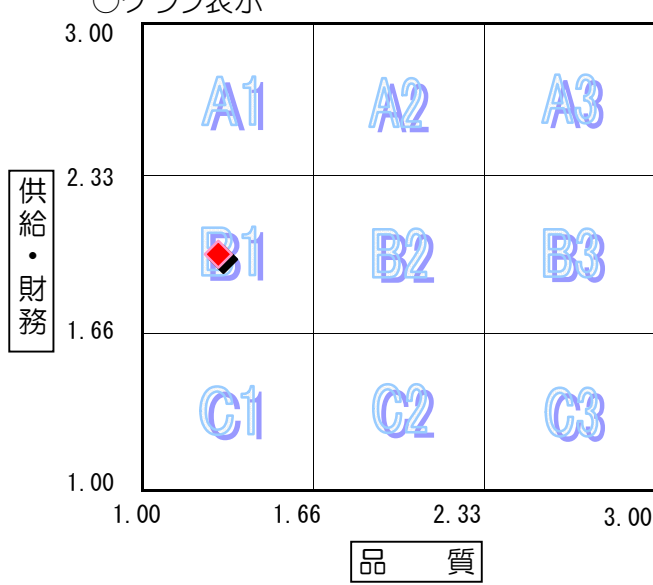
基本情報	施設番号	801010012025	施設名称	大仁高等学校跡地		外部 
	財産管理者	経営管理部	財産事務取扱者	管財課		
	用途	教育施設		設置年	1962	
	施設目的	高等学校(跡地)				内部 
	敷地面積	44,720.68 m <sup>2</sup>	延床面積	9,173.57 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	1,446,491 千円	建物台帳価格	58,638 千円		
	用途地域	第2種住居専用地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅:大仁駅から 徒歩10分				

◆ 第1段階 B1    品質 1.31点    供給・財務 2.00点

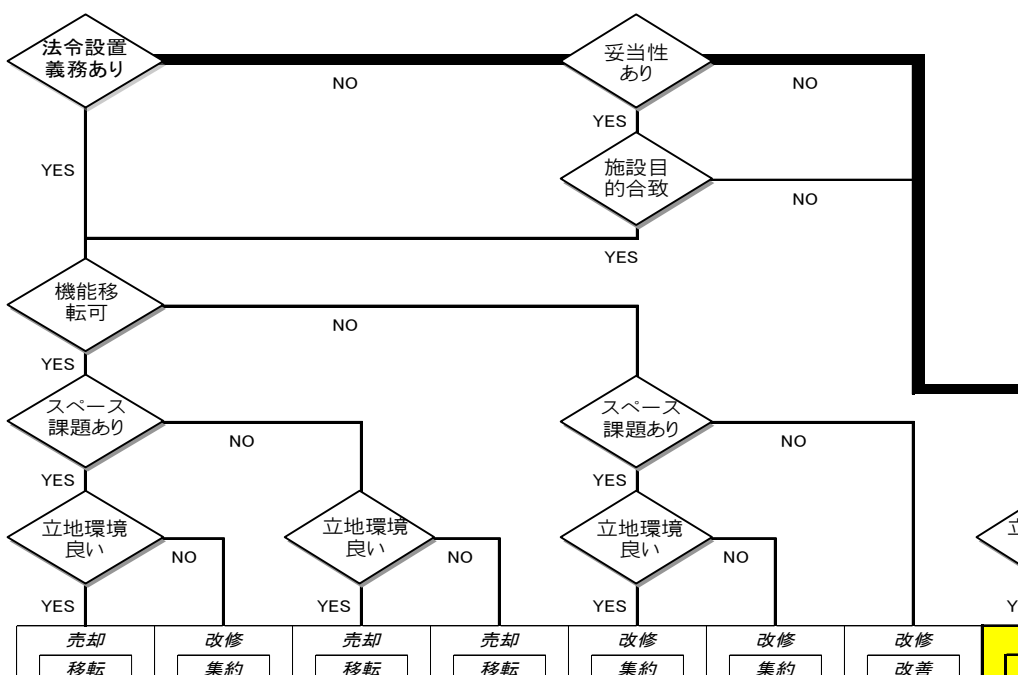
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	49.9年	1.16点
品質	建築劣化度	屋上防水	1966.1年 1.00点
		外壁	1966.1年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	- -
		受変電設備	- -
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 2.25点
品質	エネルギー/面積	-	-
供給	面積/人数	-	-
供給	生徒充足率	-	1.00点
供給	入学試験倍率	-	3.00点
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	81円 (40.08)	3.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 売却    運用面: 廃止



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	NO
設置目的適合	-
機能移転可	-
スペース課題あり	-
立地環境良	YES



◆第3段階

コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	237	百万円	維持管理費 B(※2)	36	百万円
	使用年数 A(※1)	49.9	年	小計	273	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	148	百万円	維持管理費 (※3)	7	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	155	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	295	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	1,985	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	3,304	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	校舎部分を伊豆の国市へ貸付
これまでの保全の状況	
その他	

財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	(要記載)
上を裏付ける根拠(ある場合)	


総合評価

施設面: 転用

運用面: 廃止

補足	機能は廃止だが、立地環境等から直ちに売却が困難である場合には、他の用途への転用による活用も含めて処分を検討する必要がある施設。
----	---

# 施設アセスメントシート

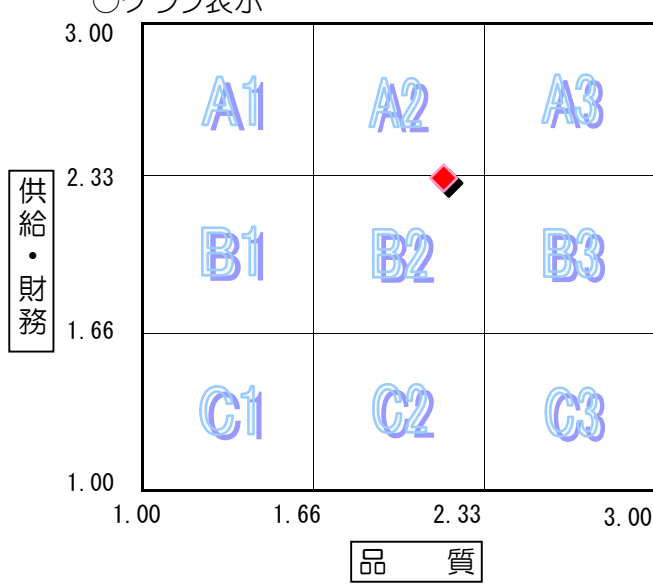
基本情報	施設番号	801047012001	施設名称	県立水泳場		外部
	財産管理者	文化・観光部	財産事務取扱者	スポーツ振興課		
	用途	集客施設		設置年	1990	
	施設目的	水泳競技の競技力の向上及び指導者の養成を図るとともに、県民の健康増進とスポーツの振興に寄与する。				
	敷地面積	0.00 m <sup>2</sup>	延床面積	11,442.28 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	1,922,162 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅: 静岡駅から バス32分				

◆ 第1段階 A2    品質 2.25点    供給・財務 2.33点

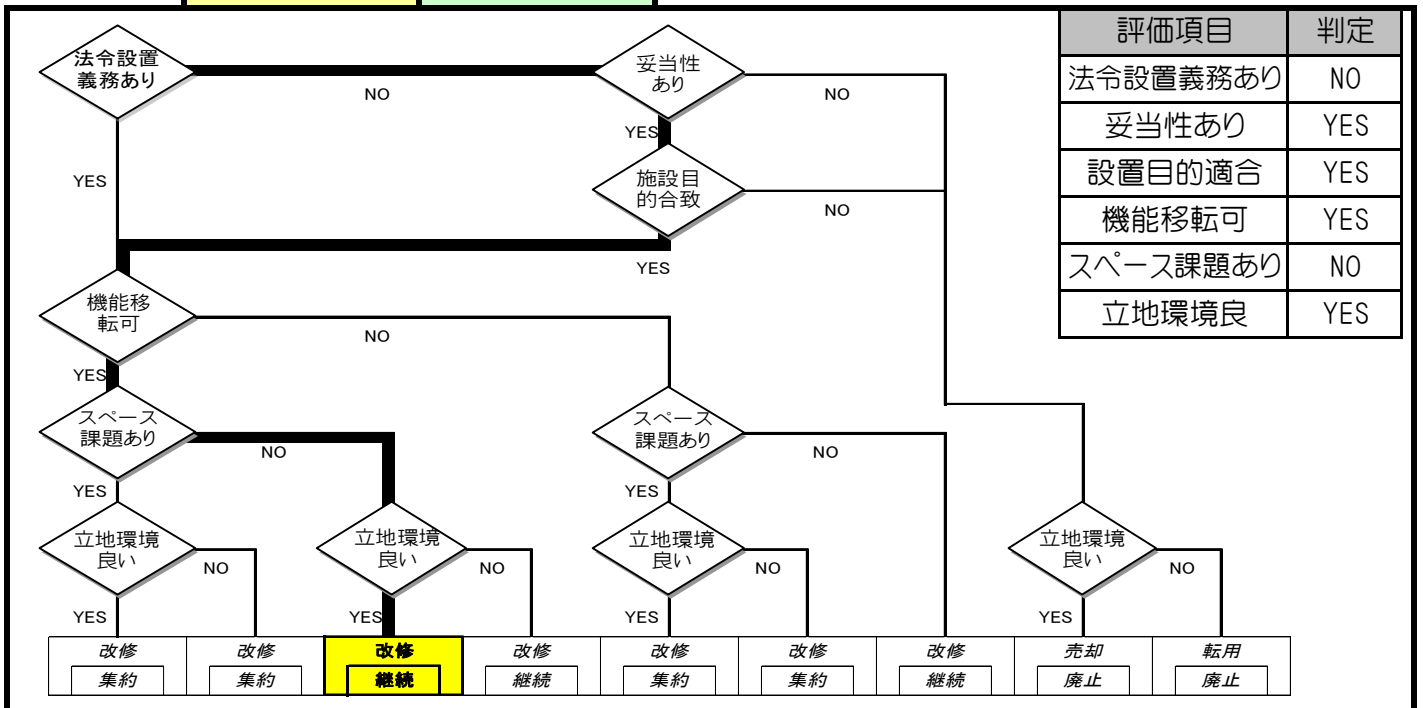
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	26.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2014.0年 3.00点
		外壁	1990.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2009.0年 3.00点
		受変電設備	2010.0年 3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.77GJ (42.86)	1.00点
供給	稼働率	100.0%	3.00点
財務	コスト/人	940円 (41.46)	3.00点
財務	コスト/面積	11,428円 (56.33)	1.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 継続



◆第3段階

コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	3,474	百万円	維持管理費 B(※2)	1,726	百万円
	使用年数 A(※1)	26.0	年	小計	5,200	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	659	百万円	維持管理費 (※3)	664	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	1,323	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	659	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	4,751	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	7,754	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	年間を通じて幅広い層が利用。 平成27年度利用者 150,269人
これまでの保全の状況	ろ過装置や空調機等の修繕を実施した。また平成23年度に台風のため屋根の改修工事を実施した。
その他	

財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	施設目的を満たしており、今後も施設の利用が見込まれるため。また施設廃止に追い込まれるような修繕箇所がないため。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

総合評価



施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、計画的な保全を適切に実施していくべき施設

# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	801047012002	施設名称	武道館		外部  
	財産管理者	文化・観光部	財産事務取扱者	スポーツ振興課		
	用途	集客施設		設置年	2002	
	施設目的	武道競技の競技力の向上及び指導者の養成を図るとともに、県民の健康増進とスポーツの振興に寄与する。				
	敷地面積	0.00 m <sup>2</sup>	延床面積	12,914.18 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	4,661,001 千円		
	用途地域	第2種住居専用地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅: 藤枝駅から 徒歩5分				

◆ 第1段階 A3    品質 2.75点    供給・財務 2.67点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	14.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2012.0年 3.00点
		外壁	2002.0年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2002.0年 2.00点
		受変電設備	2013.0年 3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.64GJ (54.29)	2.00点
供給	稼働率	100.0%	3.00点
財務	コスト/人	284円 (41.45)	3.00点
財務	コスト/面積	4,979円 (47.09)	2.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 継続

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	YES
スペース課題あり	NO
立地環境良	YES

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	5,654	百万円	維持管理費 B(※2)	476	百万円
	使用年数 A(※1)	14.0	年	小計	6,130	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	744	百万円	維持管理費 (※3)	340	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	1,084	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	744	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	5,362	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	8,751	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	年間を通じて幅広い層の方が利用。 平成27年度利用者数 262,535人
これまでの保全の状況	消防設備や弓道場改修工事等を実施した。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	施設目的を満たしており、今後も施設の利用が見込まれるため。また施設廃止に追い込まれるような修繕がないため。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価


施設面: **維持**

運用面: **継続**

補足

施設の状態及び利用状況も良好であるため、引き続き適正に管理していく施設

# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	801047012003	施設名称	富士水泳場		外部
	財産管理者	文化・観光部	財産事務取扱者	スポーツ振興課		
	用途	集客施設		設置年	2002	
	施設目的	水泳競技の競技力の向上及び指導者の養成を図るとともに、県民の健康増進とスポーツの振興に寄与する。				
	敷地面積	0.00 m <sup>2</sup>	延床面積	13,278.04 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	5,904,867 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅:富士駅から タクシー20分				

◆ 第1段階 A3    品質 2.65点    供給・財務 2.33点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	14.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2002.0年 2.00点
		外壁	2002.0年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2013.0年 3.00点
		受変電設備	2002.0年 2.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.90GJ (51.70)	2.00点
供給	稼働率	100.0%	3.00点
財務	コスト/人	33,642円 (42.06)	3.00点
財務	コスト/面積	67,118円 (136.07)	1.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 継続

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	YES
スペース課題あり	NO
立地環境良い	YES

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	7,163	百万円	維持管理費 B(※2)	130	百万円
	使用年数 A(※1)	14.0	年	小計	7,293	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	765	百万円	維持管理費 (※3)	93	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	858	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	765	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	5,514	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	8,998	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	年間を通じて幅広い層が利用。 平成27年度利用者数 85,177人
これまでの保全の状況	ろ過装置修繕や可動床の部品交換等を実施。また平成25年度7月には天井の一部が落下した為、改修工事を実施。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	施設目的を満たしており、今後も施設の利用が見込まれるため。また施設廃止に追い込まれるような修繕がないため。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価

施設面: **維持**


運用面: **継続**

補足

施設の状態及び利用状況も良好であるため、引き続き適正に管理していく施設



# 施設アセスメントシート

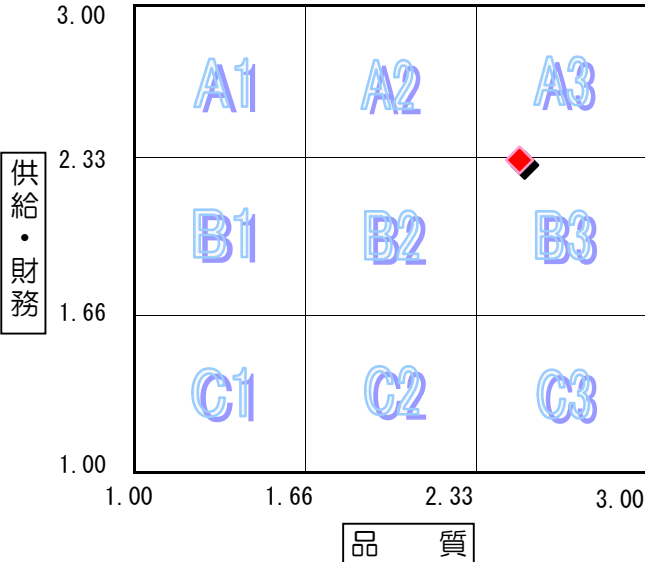
基本情報	施設番号	801047013003	施設名称	ソフトボール場	外部
	財産管理者	文化・観光部	財産事務取扱者	スポーツ振興課	
	用途	集客施設	設置年	1998	
	施設目的	市民の健康の増進及びスポーツの振興を図る。			
	敷地面積	0.00 m <sup>2</sup>	延床面積	3,414.71 m <sup>2</sup>	
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	620,020 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	最寄り駅:富士宮駅から タクシー15分			

◆ 第1段階 A3    品質 2.60点    供給・財務 2.33点

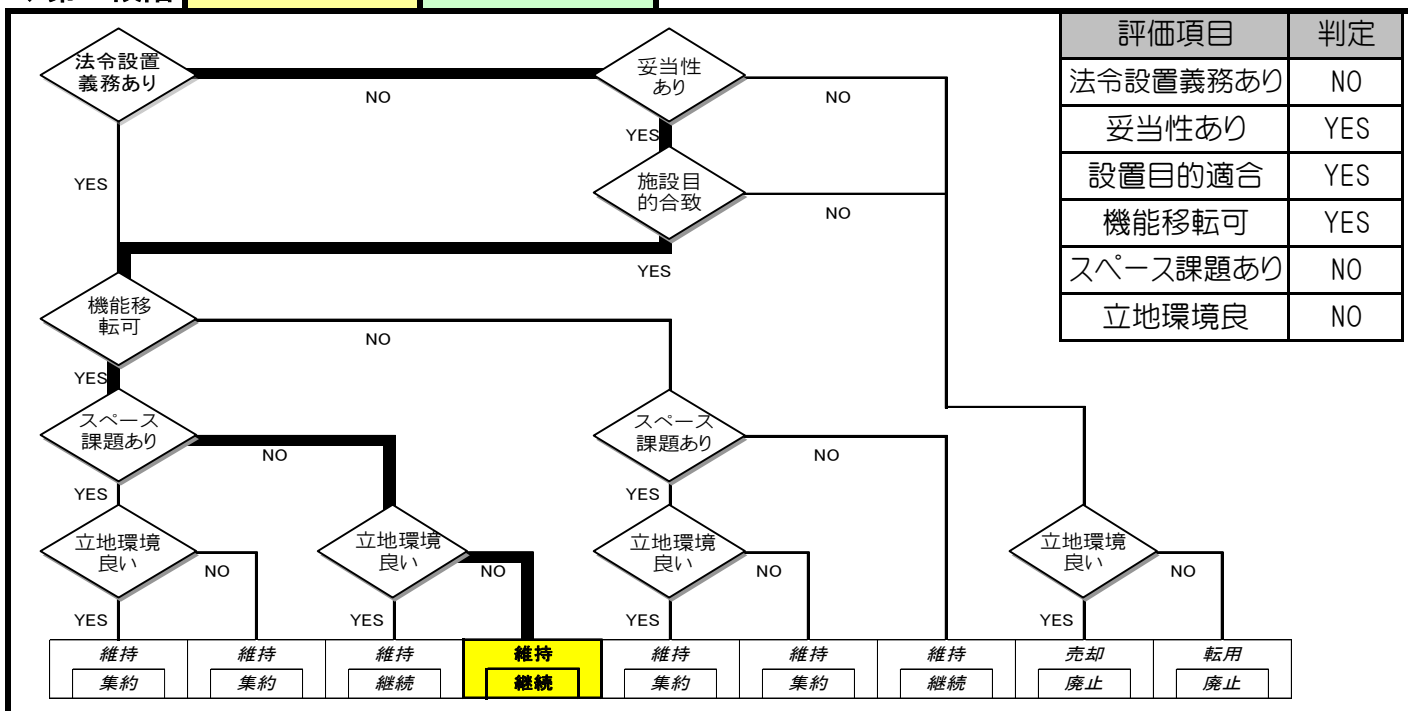
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	18.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1998.0年 2.00点
		外壁	1998.0年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1998.0年 2.00点
		受変電設備	1998.0年 2.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.01GJ (60.64)	3.00点
供給	稼働率	25.4%	1.00点
財務	コスト/人	117円 (41.45)	3.00点
財務	コスト/面積	586円 (40.80)	3.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 維持    運用面: 継続



### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	962	百万円	維持管理費 B(※2)	0	百万円
	使用年数 A(※1)	18.0	年	小計	962	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	197	百万円	維持管理費 (※3)	0	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	197	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	197	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	1,418	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	2,314	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	大会や練習試合等で幅広い層の地域住民が利用。
これまでの保全の状況	外野フェンス防護マットの取付け等を実施している。
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	施設目的を満たしており、今後も施設の利用が見込まれるため。また施設廃止に追い込まれるような修繕がないため。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価



施設面: **維持**

運用面: **継続**

補足

施設の状態及び利用状況も良好であるため、引き続き適正に管理していく施設

# 施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	807035012001	施設名称	庵原高等学校跡地		外部 
	財産管理者	教育委員会	財産事務取扱者	清水東高校		
	用途	教育施設		設置年	1981	
	施設目的	高等学校				内部 
	敷地面積	41,445.00 m <sup>2</sup>	延床面積	9,324.17 m <sup>2</sup>		
	土地台帳価格	1,768,517 千円	建物台帳価格	322,776 千円		
	用途地域	第1種住居専用地域	路線価	- 円/m <sup>2</sup>		
	交通アクセス	最寄り駅:新蒲原駅から 徒歩25分				

◆ 第1段階 B2    品質 1.94点    供給・財務 1.67点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	34.7年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1981.3年 1.00点
		外壁	1981.3年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	-
		受変電設備	-
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.07GJ (64.37)	3.00点
供給	面積/人数	-	-
供給	生徒充足率	-	1.00点
供給	入学試験倍率	-	3.00点
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	-	-

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 改修    運用面: 集約

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良	YES

### ◆第3段階

#### □コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	781	百万円	維持管理費 B(※2)	0	百万円
	使用年数 A(※1)	34.7	年	小計	781	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	300	百万円	維持管理費 (※3)	0	百万円
	大規模改修費	1,718	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	2,017	百万円

※3  $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	300	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	2,017	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	3,358	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

#### □施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	埋蔵文化財センターが校舎及び体育館を改修して、本部の移転及び県内に分散している文化財保管庫の集約化を予定。
現在の利用状況	清水東高校が暫定的にグラウンドを使用。
これまでの保全の状況	
その他	

#### □財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	評価変更希望無
上を裏付ける根拠(ある場合)	

#### □総合評価

施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足	施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、スペースの活用に課題があるため、他の機能を取り込む等、集約を図る必要がある施設。
----	--